
平成26年度

**経済社会の発展を牽引する
グローバル人材育成支援
(旧グローバル人材育成推進事業)**

外部評価・実績報告書



愛知県立大学
Aichi Prefectural University

グローバル人材育成推進室

刊行の辞

本書は、平成 24 年 9 月に採択された文部科学省グローバル人材育成推進事業について、平成 27 年 3 月 4 日(13:00～15:00)、愛知県立大学で行われた事業評価委員会に提出した平成 26 年度実績報告書と外部評価委員の評価をまとめたものである。

外部評価については、一定の観点から評価いただくため、安倍悟氏(愛知大学現代中国学部学部長)、加藤滋伸氏(愛知県立千種高等学校 校長)、小川正樹氏(中部経済連合会常務理事 事務局長)、石田訓夫氏(元外務省外交史料館 館長)の諸氏には 24、25 年度に引き続き 26 年度も評価委員をお願いした。立石博高氏(東京外国語大学 学長)には、26 年度の評価委員として新たな観点からの評価をお願いした。評価委員会にあつては、海外大学への長期留学・短期研修における危機管理の問題、本学の OB・OG との連係の問題など様々な観点より有益なご意見を課題としていただいた。それとともに、24、25 年度の骨組みに続き、26 年度は肉付けがなされ、発展の跡がうかがえるなどの評価をいただいた。委員の皆様には感謝申上げたい。

評価委員会の皆様よりご指摘いただいた諸課題については、外国語学部、国際交流室、国際交流委員会、教養教育センター、教育支援センターなど関係各所と連携し協力を得ながら取り組み、改善に努めたい。

平成 27 年 3 月
愛知県立大学 グローバル人材育成推進室長
外国語学部教授 吉池孝一

平成 26 年度 愛知県立大学 経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援
外部評価・実績報告書

目次

刊行の辞	i
平成 26 年度経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援 外部評価	iii
[平成 26 年度経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援 実績報告]	
1. 本報告書の発行によせて	1
2. グローバル人材育成推進事業	3
3. iCoToBa(多言語学習センター)	15
4. 学修支援	36
4-1. e-Learning プログラム	36
4-2. インターネットポートフォリオ	41
4-3. 語学学習アドバイジング	45
5. 語学検定	47
6. 留学および支援体制	58
6-1. 学術交流協定大学の協定締結と単位認定留学	58
6-2. 留学アドバイジング	62
6-3. 留学中の学習支援	65
6-4. 国際交流室による留学支援	67
6-5. 留学中のリスク管理	69
7. 学術交流協定大学留学生対象プログラム	74
8. インターンシップ	78
9. 講演会・セミナー・イベント	83
10. FD 活動	92
11. 入試・広報活動	99
12. 情報発信	110
13. グローバルキャンパスへの取り組み	114
14. 資料	117
総括と次年度に向けて	121

平成 26 年度
経済社会の発展を牽引する
グローバル人材育成支援
(旧グローバル人材育成推進事業)
外部評価

平成 26 年度外部評価委員による評価コメント

1. 概要

平成 27 年 3 月 4 日、本事業評価委員会を開催し、平成 26 年の本学の取組について、5 名の外部評価委員から、客観的に評価していただくと共に、今後の取組の課題の整理を行った。

[外部評価委員]

立石 博高氏 (国立大学法人東京外国語大学 学長)
安部 悟氏 (愛知大学現代中国学部 学部長)
小川 正樹氏 (中部経済連合会 常務理事 事務局長)
石田 訓夫氏 (外務省外交史料館 元館長、本学卒業生)
加藤 滋伸氏 (愛知県立千種高等学校 校長)

2. 外部評価報告

立石 博高氏 (国立大学法人東京外国語大学 学長)

平成 24 年度から開始された愛知県立大学の「グローバル人材育成推進事業」は、「21 世紀国際社会を創造し、地域社会に貢献するグローバル人材を育成する」という愛知県の公立大学として地域社会に立脚しつつ国際社会に活躍できる人材を育成するという、意欲的かつ明確な方針のもとに構想されたプロジェクトであり、この事業の展開には大いに注目してきたところである。

このたび「平成 26 年度実績報告書」を読ませていただき、平成 27 年 3 月 4 日開催の外部評価委員会に出席して「グローバル人材育成推進室」の室長をはじめ事業実施責任者の方々の話を直接にうかがい、その意欲的かつ多面的な取り組みに大いに感心させられた次第である。「グローバル人材」というと、往々にして英語コミュニケーション能力と異文化理解力がその基準を測る物差しと考えられるが、21 世紀グローバル社会において求められるのは、本事業での「8 つの能力」と「5 つの態度・資質」に含まれている「グローバルかつグローバルな視点」、「異文化適応能力」であり、そのための基盤としての「複数言語能力」である。

そのような意味で、平成 25 年度から新たに整備された「グローバル人材プログラム」が本事業成功のかなめになると判断される。新入生・在校生を対象にしたプログラムガイダンス・履修相談が計画的に実施されて、次第に学内での認知度が高まっていることは充分にうかがえるところであるが、修了者はまだ限定的な数にとどまっており、今後いかに学生のすそ野を広げるかが課題である。広報体制と教務指導体制のさらなる充実が望まれる。

本事業採択に伴って開設された学習施設 iCoToBa (多言語学習センター) の活動は、異文化理解・異文化交流を兼ねて外国語学習を促進するうえで、おおきな効果を発揮していると判断される。とりわけ iCoToBa Welcome Week のようなイベントを、年間を通じて開催し、学生たち

の主体的参加をえるよう、さらに工夫してほしい。「5つの態度・資質」に含まれる「積極性」「協調性」「責任感」といった資質は、参加型行事によって涵養されるものだからである。

留学および支援体制に関しては、国際交流室を中心に着実に成果を上げていることがうかがえる。ただ昨今の世界情勢のなかで、留学中の学生に対しての「危機管理」は必須のことからである。留学中の学生への学習支援を含めてトータルな支援体制を早急に構築する必要があると考える。その場合、海外現地で活躍している愛知県立大学 OB・OG との連携を深めることも大事である。「留学前→留学中→留学後」の体系的プログラムをさらに充実させ、留学をグローバル人材育成の柱とする本プロジェクトの着実な遂行を期待したい。

安部 悟氏（愛知大学現代中国学部 学部長）

外部評価委員を昨年度に引き続き任命されたので、昨年度との比較という観点から今年度の取組について感じたことを書かせていただきたい。

今年度まず注目すべきは、愛知県立大学のグローバル人材育成の中核ともいえるグローバル人材育成推進室の体制が、外国語学部全体をカバーする形に強化されたことが、大きな前進であると言えよう。その新たな体制の下で設定された 4 つの目標についてそれぞれ検証していく。

1 つ目は海外協定校の拡大についてであるが、今年度は英語圏及び独仏語圏の協定校を確実に増加させており、大いに評価できる。今後は更なる拡大を目指すと共に、協定内容についてこれまでの実績を踏まえ更に充実したものとするための点検を行うことも不可欠であると思われる。協定校の拡大は学生にとって留学先の選択肢が広がることを意味しており、その観点から魅力的な留学先をより多く確保する努力を今後も継続していただきたい。

2 つ目は単位認定留学の拡大についてである。本年度の単位認定留学者（短期海外研修を含む）の目標は 100 名であったが、すでに長期留学の単位認定者が 37 名おり、それに短期海外研修者を加えれば、目標人数を大きく上回るという結果となっている。これも昨年度と比較して大きな変化であり、グローバル人材育成推進室を中心とした啓蒙活動や、iCoToBa 等が確実に機能してきていることの証明であろう。今後の更なる拡大に期待したい。

3 つ目は iCoToBa の利用促進についてである。このすばらしい施設の認知度が低いことが昨年度の外部評価委員会でも話題になったが、今年度は利用促進のためにガイダンスを複数回実施し、様々な活動を行った結果、その認知度は飛躍的に高まっており、昨年度の報告書でも指摘したように、充実したスタッフとそのきめ細やかなサービスによって、学生の海外に対する興味・関心を高め、外国語修得のモチベーションを向上させるのに大いに役立っていると言えよう。その効果は海外留学する学生の増加にも明確に現れている。ただ、利用者が増加すればするほど従来のサービスを継続することが困難となるので、対策を講じておく必要がある。

4 つ目はインターネットポートフォリオシステムと e-Learning の利用促進であるが、両者を正課授業に積極的に取り入れようとする試みは、他大学でも e-Learning の導入は早期に実現で

きても、インターネットポートフォリオシステムについてはその利用がなかなか進まない現状から見れば、活用のための人材育成を含めた試みに注目し、今後の参考としたい。

最後に「グローバル人材プログラム」についても少し触れておきたい。このプログラムは今回の事業で愛知県立大学の大きな特色となっているものだが、その修了者を増やすことと同時に、修了後の対応を今のうちにしっかり検討しておく必要があると思われる。

小川 正樹氏（中部経済連合会 常務理事 事務局長）

平成 24 年度にグローバル人材育成推進事業に採択されてから 2 年半が経過した。1 年目はグローバル推進室の立ち上げや iCoToBa（多言語学習センター）の運用開始をはじめ、各種の体制やシステムをスタートさせるなどの面で大いに評価できた年だった。

平成 26 年度は、前年に立ち上げた体制やシステムが実際に運用され、大きな成果が出始めている。吉池孝一室長をはじめグローバル人材育成推進室の皆様、関係者の皆様の熱意と努力に敬意を表したい。

例えば、留学者数および単位認定留学者数の大幅増加、iCoToBa の利用実績の大幅上昇、語学検定成績の向上などのすばらしい成果が出ている中、敢えて、次の 4 点を申し上げたい。

- ① テーマごとに、平成 26 年度の評価と 27 年度に向けての方策を纏められ、いわゆる PDCA を回しているが、次年度以降、特にチェック（課題の分析）に留意いただき、一層効果的なプログラムへの発展を期待したい。
- ② グローバル人材として必要な 8 項目に関する能力養成と 5 つの態度・資質の醸成を目指すことを目的としているが、カリキュラム数の制約もあり語学力の向上に偏らざるを得ない状況である。国際教養や責任感などの能力や資質は社会人として大変重要なものであり、大学での教育だけでなく、常日頃の社会生活からも学べる機会が多い。ぜひとも学生にそうした意識・意欲を定着させてほしい。
- ③ カリキュラムに対して、将来の自分に大きくプラスになるなどの価値を見出すことができれば、学びのインセンティブとなる。留学をハードルが高いと思っている学生、興味・期待を見出せない学生も少なからずいるが、彼ら彼女らに対し、将来の自分像を考えさせることも留学への動機づくりのひとつになるものと思われる。
- ④ 語学や各種能力の醸成には体験機会を増やすことは重要である。平成 26 年度は ESD が愛知で開催され、多くの学生がフィールドで学び実践する価値を実感することができた。こうした機会を今後とも多く学生に提供することは重要ではないだろうか。

今、インバウンド観光客が大幅に増加し、国際会議もいろいろ開催されている。また、数は多くはないが私設の留学生会館などもある。これらの外国人と交流するきっかけを大学から提供し、学生がさまざまな活動を行い、それを単位認定等の形で評価することはできないだろうか。

学びの場は、学内だけでなく社会全体にあることを意識いただくと同時に、学外での語学教育等の展開は地域の国際化にも寄与するものであり、積極的な活動を期待したい。

石田 訓夫氏（外務省外交史料館 元館長、本学卒業生）

愛知県立大学外国語学部の「グローバル人材育成推進事業」は、平成 24、25 年度に立ち上げを終えて、平成 26 年度で第 3 年目を迎えた。同年度は全体の中核的年度にあたり、事業の真価が問われる節目の年であった。その意味で、1 年間のプログラム内容の発展充実ぶりは顕著であり、成果も生まれつつあることは特筆に値する。背景には、グローバル人材育成推進室の運営体制の強化と、iCoToBa 多言語学習センターにおける利用促進に向けての活動の展開が大きく貢献していることが指摘できる。これらが車の両輪のように推進役として機能し、自立的な発展に好循環が生まれている。具体的には、以下の 3 点が特に注目される。

第 1 に、入学時から卒業に至る 4 年間のプログラムの流れが明確に整理されて、①大学進学希望者へのガイダンス、②新入生へのプログラム周知徹底、③iCoToBa への積極的誘導、④語学修得のアドバイジング、⑤きめ細かな留学支援、⑥留学成果の社会への還元、という各段階における指導が一体性を保ちつつ有効に機能している。

第 2 に、殊に、活動の中心的存在の iCoToBa においては、様々な行事・工夫を通じて学生に対する積極的な働きかけがなされており、①留学の啓蒙、②丁寧な個人面接相談、③「個人カルテ」によるフォローアップを通じて、きめ細かな個別対応が行き届いている。

第 3 に、上記の 2 点が上手く機能している結果、学生の中に語学修得、留学に対する意識と意欲が高まっており、海外協定校の拡充とあわせて短期・長期に留学する学生数が増加し、FD 活動でハイレベルの学生が多数誕生しているという取り組みの成果が生まれている。

その一方で、より良い成果を生むために、更なる課題と工夫の余地も残されている。例えば、言語・国別の縦割り修得システムでは、グローバル社会や留学に対して関心が十分に向かない学生も一定数いると推定される。これら学生には別途の動機付けが必要となる。対策として、アジア／欧州の国々を複数訪問して学ぶ地域横断的プログラムを併行導入することにより、これら未参加学生のグローバル視野を広げてプログラムに取り込んでいく工夫も有効であろう。また、本事業の注目度を高めて社会から支援を得るためには、「情報発信」は欠かせない。特に、プログラム修了者を社会のグローバルなニーズとマッチングさせるには、本事業の取り組み成果を新聞・TV 等のマスコミ、企業等へ積極的に情報提供していくことが不可欠となる。プレス広報対策に専従の担当者を配置して、出口戦略を見据えた発信力の強化も必要になろう。

総じて、平成 26 年度においては、勢いのある良好な運営実績が随所で際立っており、本事業は同年度も順調に発展を続けて、所期の成果を挙げるに至ったと高く評価できる。

加藤 滋伸氏（愛知県立千種高等学校 校長）

平成 24 年 9 月に本事業が文部科学省により採択されて以来、グローバル人材育成推進室を中心としてよく本事業の目標達成のために努められており、昨年度出された「平成 24～25 年度

愛知県立大学グローバル人材育成推進事業外部評価・実績報告書」に記載されている評価の「① 効果が表れていること、② 改善すべきこと、③ 平成 26 年度に向けての方策」を真摯に受け止めて平成 26 年度の関連各事業がよく実施されている。今後に残された課題もあるが一定の成果をあげており、事業全体としてその取組は高く評価できる。

特に、平成 26 年度に本学が掲げた 4 つの目標、① 海外協力校、特に英語圏及び独仏語圏の協定大学の拡大、② 単位認定留学の拡大、③ iCoToBa の利用促進、④ インターネットポートフォリオシステム manabafolio(以下 manaba)と e-Learning の利用促進、のそれぞれにおいて重点的に取り組みがなされ、成果をあげていることは今後の事業の進展に大きな意味をもつものである。

①の「海外協力校、特に英語圏及び独仏語圏の協定大学の拡大」と②の「単位認定留学の拡大」については、学術交流協定を締結した海外の大学数が平成 25 年度までに 31 大学であったが、平成 26 年度中には協議中の大学を含めて 45 大学に増加する予定ということであり、協定大学への単位認定留学については平成 24 年度実績が 37 人であったのが、平成 26 年度にはショートビジットを含め 205 人と大幅に増加している点は、本学の本事業への並々なぬ努力の賜であり、今後も、それぞれの拡大について成果を期待したい。

③の「iCoToBa の利用促進」について、iCoToBa は本事業の成否を左右する中核的な学習施設であり、ガイダンス等の充実により、外国語学部生の利用者数が昨年度 5,791 人から本年度は 6,603 人と大幅に増え、iCoToBa 科目受講者も昨年度 1,509 人から本年度 1,803 人と増加しており、これも望ましい傾向である。3 月 4 日の評価委員会でも話題になったが、今後は、iCoToBa 科目をいかに正規のカリキュラムに組み込んでいくかが課題となる。

④の「manabaとe-Learningの利用促進」について、manabaは学習ポートフォリオに加え、留学中の学生の指導にも活用できることが魅力であり、e-Learningについてはガイダンスの充実と正課の授業との関連をもたせることによる今後の効果的活用が期待される。

本学の、本事業を通して高度な語学教育を基本としながら目標とするグローバル人材として必要な 8 つの能力と 5 つの態度・資質(報告書 p.3)を備えた学生を育成する魅力ある学習環境の整備や、iCoToBa の活動を中心とした Immersion Program 合宿やグローバル・ミニオープンキャンパス等を通した高大連携事業も、高等学校の立場から高く評価している。

平成 26 年度
経済社会の発展を牽引する
グローバル人材育成支援
(旧グローバル人材育成推進事業)
実績報告
(平成 27 年 2 月 20 日現在)

1. 本報告書の発行によせて

愛知県立大学グローバル人材育成推進室長(外国語学部長)

吉池 孝一

平成 25 年 1 月 25 日(14:00-16:30)に本事業のキックオフセミナー(基調講演:二宮皓放
送大学副学長、駒田邦夫他パネルディスカッション)を開催し、地域に本学のグローバル人材
育成についての情報を発信するとともに、参加者から大学教育への要望等についての意見・
ニーズを収集した。本セミナーには、地元産業界、教育関係者、および高校生とその保護者
など 100 名を超える参加があり、ここで得た意見・ニーズを平成 25 年度の事業の参考とするこ
とができた。平成 26 年 3 月 10 日には、外部評価委員会を開催した。海外留学をプログラムの
中に組み込み、留学前→留学中→留学後という学びの 3 段階に対応するプログラムを実施し
たことが評価された。それとともに、外国語学習・異文化理解・異文化交流の場である
iCoToBa(多言語学習センター)における人材育成の活動が高い評価を得た。これをもって平
成 24 年度と 25 年度の事業に区切りをつけ、平成 26 年度のスタートに向かった。

平成 26 年 4 月よりグローバル人材育成推進室は体制を強化した。外国語学部の全ての学
科・専攻から室員を選出し、副室長を 2 名とし、運営の体制を整えた。本構想の中心的な役割
を果たす iCoToBa(196.2 平米の専用スペースを持つ)は、昨年度と同様に、語学学習および
異文化交流の場として、英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、中国語の外国人教員 6 名と
アドバイザー教員 2 名が常駐し、その運営は、外国語学部の学科・専攻から選出された 6 名の
委員を含む iCoToBa 委員会によって担われるという体制でスタートした。なお、平成 26 年度
のスタートに先立ち、本事業のいっそうの推進を図るため、次にあげる具体的な 4 つの目標を
設定し、これに取り組んだ。

1. 海外協定校とくに英語圏及び独仏語圏の協定大学の拡大

英語圏協定校の拡大は、ディーキン大学(オーストラリア)、スインバーン工科大学(オ
ーストラリア)、ニューファンドランド・メモリアル大学(カナダ)との協定締結として結実し
た。独仏語圏協定校の拡大は、テュービンゲン大学(ドイツ)、トゥールーズ大学(フラ
ンス)、ケベック大学(カナダ)との協定締結として結実した。

2. 単位認定留学の拡大

平成 26 年度の単位認定留学者(短期海外研修を含む)を 100 名とすることを目標とし
た。これまでのところ、4 月より 11 月末までに合計 37 名の長期留学者の単位認定を行

った。本年度夏期の短期海外研修は 80 名を超えており、この単位認定の手続きは今後行われることとなる。

3. iCoToBa の利用促進

iCoToBa の利用促進のため、各学期のはじめに iCoToBa のガイダンスを複数回実施した。第 1 回目 4 月 9、10 日、第 2 回目 4 月 11 日～17 日、第 3 回目 10 月 3 日、第 4 回目 10 月 8 日。また次に挙げる諸行事をおこない、利用促進を図った。iCoToBa Welcome Week(4 月 9 日～15 日)。県大ドイツデー(6 月 25 日)。グローバルミニオープンキャンパス(7 月 21 日。東海 3 県のスーパーグローバルハイスクールおよび英語科・国際科を有する高校を対象)など。

4. インターネットポートフォリオシステムと e-Learning の利用促進

5 月、6 月には e-Learning ガイダンスを実施し、12 月 24 日には外国語学部で開催した英語教育 FD において、インターネットポートフォリオシステムと e-Learning を正課授業に取り入れるための報告・研究発表をおこなった。

詳しくは本報告書の当該の箇所を参照されたい。なお、外国語学部では、英米学科卒業生の 7 割がグローバル人材育成推進事業の最終年度において TOEIC800 点を達成することを目標として掲げている。これを達成するために、平成 26 年 12 月 24 日に英語教育FDを開催し検討した。目標達成に希望を持ち得る状況にあるとの印象を得たが、iCoToBa での TOEIC 受験対策講座を着実に実施するとともに、今後の一層の工夫が望まれる。

以上の事業は、外国語学部、国際交流室、国際交流委員会、教養教育センター、教育支援センターとの連携の上で行われたことを明記しておかなければならない。今後も関係各所と連携を密にして、互いに協力し合い、グローバルに活躍する人材の育成を推進していく所存である。

2. グローバル人材育成推進事業

1. 概要

平成 24 年度に文部科学省に採択された愛知県立大学「グローバル人材育成推進事業」は、本学の第二次中期計画(平成 25 年度～平成 30 年度)の外国語学部の人材育成方針「21 世紀国際社会を創造し、地域社会に貢献するグローバル人材の育成」の達成をめざしたものである。

本事業は、外国語学部学生の 60%以上が単位認定留学するという目標を設定した上で、「留学前→留学中→留学後」のプロセスを、グローバル人材を育てる一貫した発展的教育課程としてとらえている。これらの各段階で必要な能力を育てる体系的なプログラムとして、「グローバル人材プログラム」を新たに整備し、平成 25 年 4 月から実施している。

iCoToBa(多言語学習センター)は、グローバル人材育成の中核となる外国語学習と異文化理解学習、および本学の異文化交流の場として、平成 25 年 4 月に開設された。iCoToBa では「グローバル人材プログラム」の中心となる科目群を開講し、TOEIC 等各種検定講座の開講や、留学コーディネータによるカウンセリングなど、幅広い活動を行っている。iCoToBa の詳しい内容は、「3.iCoToBa(多言語学習センター)」(pp.15-35)に述べる。

本学のグローバル人材育成推進事業は、以下の 4 点を主たる目的に取り組んでいる。

- A. 留学前→留学中→留学後の各段階で必要な能力を育てる体系的なプログラムを実施する。
- B. 外国語学部学生の 60%以上が単位認定を伴った留学をする。
- C. 各専攻言語および第 2 外国語の二言語において、一定以上の語学力を身につける。
(各言語の目標値は、p.7、表 2-2 を参照)
- D. グローバル人材として必要な 8 項目に関する能力養成と、5 つの態度・資質の醸成を目指す。

[8 つの能力・知識]

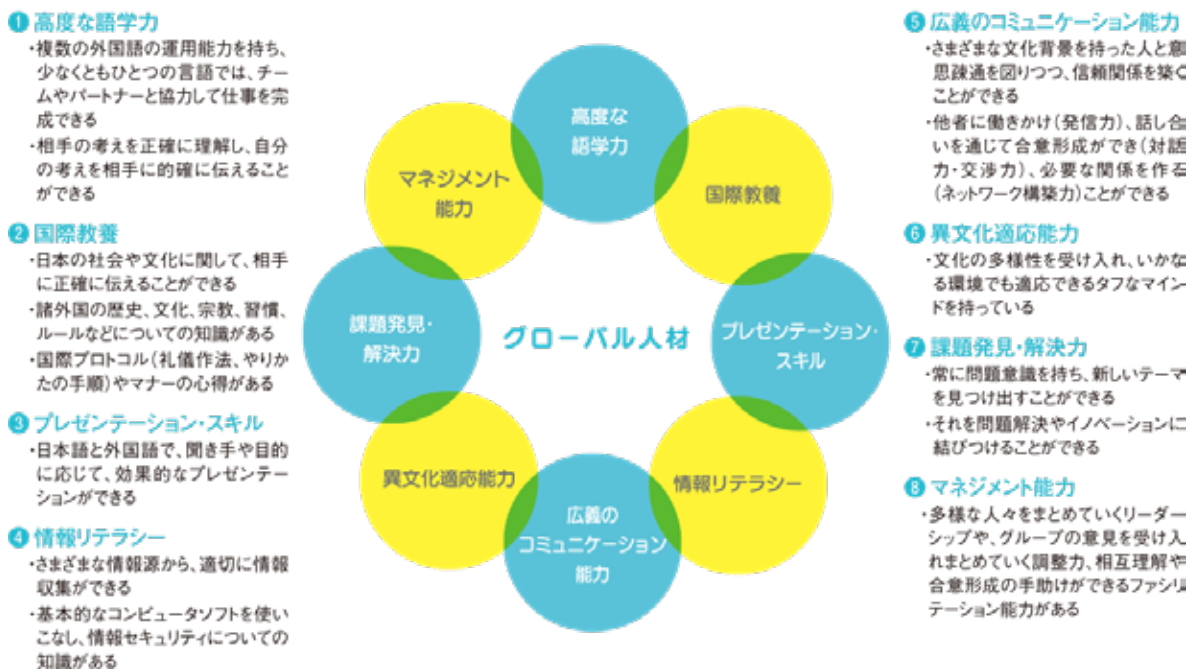
①高度な語学力、②国際教養、③プレゼンテーション・スキル、④情報リテラシー、⑤広義のコミュニケーションスキル、⑥異文化適応能力、⑦課題発見・解決力、⑧マネジメント能力(p.4、図 2-1 を参照)

[5 つの態度・資質]

①グローバルかつグローバルな視点、②主体性、③積極性とチャレンジ精神、④協調性、⑤責任感・倫理観

以下、2 章では、本学のグローバル人材育成事業のうち、その中核をなす外国語学部「グローバル人材プログラム」を中心に説明する。

〔図 2-1 グローバル人材育成推進事業で養成する 8 つの能力〕



2. 平成 26 年度の目標

平成 26 年度の目標は、以下のとおりである。

上の図 2-1 に示したグローバル人材に必要な能力養成を目指し、平成 25 年度より開始された「グローバル人材プログラム」を引きつづき実施する。また、本プログラムで指定した科目の単位を取得し、専攻外国語および第 2 外国語科目の基準を満たした者を「グローバル人材プログラム」修了者として、本事業の目標を達成した学生として認める。

加えて、きめ細やかなガイダンスの実施により、外国語学部の学生に「グローバル人材プログラム」を周知し、教務体制を確立する。

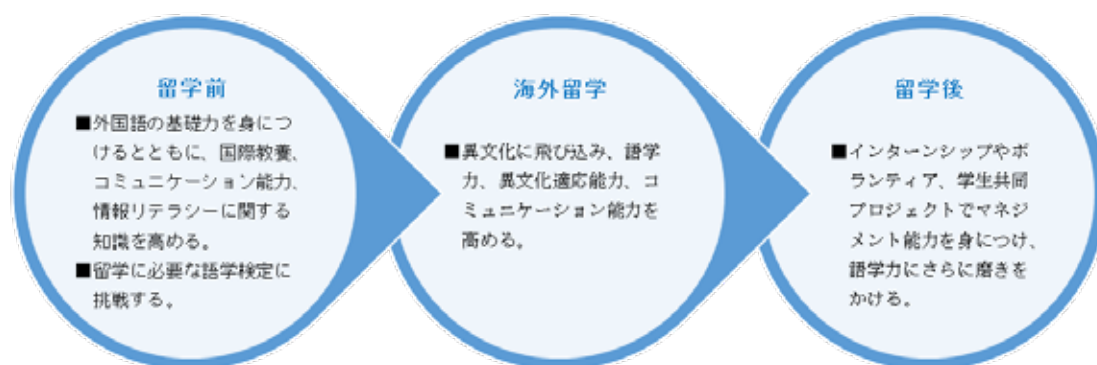
3. 平成 26 年度の実績

① グローバル人材プログラムの策定と実施

上記の目標を達成すべく、グローバル人材育成推進室は、「グローバル人材プログラム」を外国語学部で前年度に引きつづき実施した。

本プログラムは、学部の専門の学修に加えて、海外留学を組み込み、留学前、留学中、留学後の各段階で、グローバル社会に必要とされる能力を養成する体系的な授業科目を提供し、語学力と共に主体的に行動する力を身につけることを目標としている(図 2-2 参照)。

[図 2-2 グローバル人材プログラムにおける学びの 3 段階]



また、本プログラムは、専攻外国語に加えて、他の一つ以上の外国語能力を身につける「複数言語運用能力養成」を目指している。複数の外国語を学ぶことにより、外国語で話せることのみならず、多様性を受け入れる柔軟な心や複眼的思考を育むことが可能となる。

「グローバル人材プログラム」で定めた科目は下表の通りである。

[表 2-1 グローバル人材プログラム科目一覧※]

科目群名称	科目		対象 学年	単 位	必修 単位
A.国際教養	愛知の歴史と文化(グローバル)	教養教育	1～4	2	2
	日本の歴史と文化(グローバル)	教養教育	1～4	2	
	アジアの歴史と文化(グローバル)	教養教育	1～4	2	2
	ヨーロッパの歴史と文化(グローバル)	教養教育	1～4	2	
	北アメリカの歴史と文化(グローバル)	教養教育	1～4	2	
	ラテンアメリカの歴史と文化(グローバル)	教養教育	1～4	2	
	国際関係(グローバル)	教養教育	1～4	2	
B. プレゼンテーション・スキル	基礎演習 I	各学科・専攻	1	2	2
	日本紹介	iCoToBa	留学前	-	必修
C.情報リテラシー	情報リテラシーA(キャリア・スキル)	教養教育	1・2	2	2
	情報リテラシーB(キャリア・スキル)	教養教育	1～4	2	
	高度情報社会の理解(キャリア・スキル)	教養教育	1～4	2	
	キャリアのための統計入門(キャリア・スキル)	教養教育	1～4	2	

D. 広義の コミュニケーション力	多文化社会とコミュニケーション(グローバル)	教養教育	1～4	2	2
	キャリア実践(キャリア・形成)	教養教育	1～3	2	
	地域に学ぶ(特別開講科目)	教養教育	1～4	2	
	人文地理学入門(旧カリのみ)	旧カリ	1～4	2	
	特別講義B「企業トップに聞く」(旧カリのみ)	旧カリ	1～4	2	
E. 異文化 適応能力	英語連続セミナー(グローバル)	教養教育	1～4	2	2
	Japan Seen from Outside (グローバル)(新カリのみ)	教養教育	1～4	2	
	日本と異文化の交流(グローバル)	教養教育	1～4	2	
	文化人類学(旧カリのみ)	旧カリ	1～4	2	
	研究各論(多文化共生論)	国際関係	2	4	
	研究各論(異文化コミュニケーション)	国際関係	2	2	
	研究各論(地域社会論)	国際関係	3・4	2	
	比較文化セミナー ※ ¹	iCoToBa	留学前	－	必修
F. 課題発見・ 解決力	インターンシップ(キャリア形成支援)	教養教育	2・3	2	2
	リサーチ・発信プロジェクト①	iCoToBa	留学前	－	必修
	卒業論文	各学科・専攻	4	8	8
G. マネジメント 能力	人生設計とキャリア(キャリア形成支援)	教養教育	1・2	2	2
	研究各論(NPO 論)	国際関係	2・3	2	
	学生共同プロジェクト	iCoToBa	留学後	－	必修
H. 留学先 履修科目	リサーチ・発信プロジェクト②	iCoToBa	留学中	－	必修
	海外協定大学修得科目	各学科・専攻		2	2
I. 講習会等	情報探索講座(初級)	図書館	1	－	必修
	情報探索講座(上級・外語編)	図書館	2・3	－	必修
	留学体験発表会	iCoToBa	留学後	－	必修
					26

※平成 26 年度新カリキュラムを反映したものである

「グローバル人材プログラム」の修了要件は、以下の 4 点である。

1. 卒業時に、専攻外国語と第 2 外国語(全学共通外国語科目で履修した言語)に関して以下(p.7、表 2-2)の到達目標レベルを満たしていること。
2. 「グローバル人材プログラム」指定科目(表 2-1)から、26 単位を履修すること。

3. 「グローバル人材プログラム」が指定する iCoToBa 開講科目(表 2-1)を受講し、クラス修了試験に合格すること。
4. 「グローバル人材プログラム」指定講習会に出席し、指定の課題を提出すること。

[表 2-2 グローバル人材プログラムで定めた外国語達成目標]

	専攻外国語	第 2 外国語
英語	TOEIC 800 点以上	TOEIC 730 点以上
フランス語	実用フランス語技能検定試験 準 1 級以上	実用フランス語技能検定 3 級以上
スペイン語	DELE B1 以上	DELE A1 以上
ドイツ語	ドイツ語技能検定試験 2 級以上	ドイツ語技能検定試験 4 級以上
中国語	中国語検定試験 2 級以上	中国語検定試験 3 級以上
ポルトガル語	—	CIPLE またはポルトガル語 II 4 単位全 て A 以上
ロシア語	—	ロシア語能力検定試験 4 級 またはロシア語 II 4 単位全て A 以上
韓国朝鮮語	—	ハングル能力検定試験 3 級以上、韓国 語能力試験 3 級以上
日本語※	—	日本語能力検定試験 N1 以上

※外国人留学生のみ

②「グローバル人材プログラム」ガイダンスの実施と教務体制の確立

外国語学部の学生に「グローバル人材プログラム」を周知するために、きめ細やかなガイダンスを実施した。平成 26 年度に実施したガイダンスは以下のとおりである。

- a) 平成 26 年度新入生対象 グローバル人材プログラムガイダンス(4 月 7 日実施)
- b) 在校生対象 グローバル人材プログラムガイダンス(4 月 7 日実施)
- c) グローバル人材プログラムガイダンス・履修相談(4 月 8 日、16 日実施)
- d) 平成 26 年度後期在学学生対象ガイダンス(10 月 3 日、8 日実施)

これら a～d に加え、各学科・専攻で新入生対象に iCoToBa ガイダンスを実施した。これについては第 3 章(pp.18-19)で触れる。

a) 平成 26 年度 新入生対象グローバル人材プログラムガイダンス

平成 26 年 4 月 7 日に外国語学部新入生を対象に実施した。グローバル人材プログラムの概要および、iCoToBa(多言語学習センター)の紹介、留学制度等について説明した。



[新入生対象グローバル人材プログラムガイダンスの様子]

b) 在校生対象グローバル人材プログラムガイダンス

平成 26 年 4 月 7 日に、在校生対象ガイダンスを実施した。内容は、グローバル人材プログラムの概要と平成 25 年度より導入された e-Learning プログラム、iCoToBa(多言語学習センター)の紹介、留学制度と奨学金情報である。50 名以上の参加があり、在学生のプログラムへの有効な動機づけになった。



[在校生対象グローバル人材プログラムガイダンスの様子]

c) グローバル人材プログラムガイダンス・履修相談(4 月 8 日、16 日実施)

全学で新年度の履修相談がおこなわれた 4 月 8 日と 4 月 16 日の昼休みに、グローバル人材プログラムのガイダンスと履修相談を実施した。全部で 50 名を超える学生の参加があり、本プログラムに対する関心の高さがうかがわれた。

d) 平成 26 年度後期在学学生対象ガイダンス

プログラムの履修方法など教務内容を中心としたガイダンスを実施した。

- 1) 10 月 3 日昼休み(12:10-12:45) 参加学生 9 名 担当:中田、大山、宮谷
- 2) 10 月 8 日昼休み(12:10-12:45) 参加学生 11 名 担当:中田、大山

平成 26 年度より、本プログラムの履修方法など教務に関する質問は、グローバル人材育成推進室の各学科・専攻教員 6 名が対応することとし、学生にも周知した。また、本プログラムに関する学生からの質問をまとめた「グローバル人材プログラム FAQ」を作成し、資料配布および HP やインターネットポートフォリオ manaba(pp.41-44 参照)により周知した。

③「グローバル人材プログラム」指定科目履修状況

本プログラムは、全学共通科目(教養科目)、学部専門科目、iCoToBa 開講科目、その他講習会等からなる。このうち、平成 26 年度に iCoToBa で開講したグローバル人材プログラム科目の履修者は以下のとおりである。

表 2-3～表 2-5 の「※1」はグローバル人材プログラムの「日本紹介」、「※2」は「比較文化セミナー」、「※3」は「リサーチ・発信プロジェクト(留学前)」の指定科目であることを示している

[表 2-3 平成 26 年度前期 iCoToBa 開講グローバル人材プログラム指定科目]

CEFR によるレベル(言語) 科目名称	各言語科目名称	受講 者数
B1-C1/中級～上級(英語)※1 英語で日本 PR プロジェクト-日本の魅力を発信しよう！ UEA 留学準備コース 1	J-Ambassador (UEA 1)	29
B1-C1/中級～上級(英語)※1 英語で日本 PR プロジェクト-日本の魅力を発信しよう！ UEA 留学準備コース 2	J-Ambassador (UEA 2)	
B1-C1/中級～上級(英語)※1 英語で日本 PR プロジェクト-日本の魅力を発信しよう！	J-Ambassador	24
A2-B1/初中級～中級(英語)※2 比較文化セミナー:英語圏を知りつくそう！ 1	Comparative Study of Cultures: The English-Speaking World 1	24
B1-B2/中級～中上級(英語)※2 比較文化セミナー:英語圏を知りつくそう！ 2	Comparative Study of Cultures: The English-Speaking World 2	20
B2-C1/中上級～上級(英語)※2 今日のニュースについて話そう！	Today's Top News	15
C1/上級(英語)※2 映画で社会を検討しましょう！	Society Through Film	15
A2-B1/初中級～中級(英語)※3 プロジェクトワークを行って発表しよう！ 1	Research and Presentation Project 1	11
B1-B2/中級～中上級(英語)※3 プロジェクトワークを行って発表しよう！ 2	Research and Presentation Project 2	20

B1-B2/中級～中上級(英語)※3 プロジェクトワークを行って発表しよう！3	Research and Presentation Project 3	17
B2-C1/中上級～上級(英語)※3 グローバルリーダー	Global Leader	14
A2-B1/初中級～中級(フランス語)※1 ニッポンなう。	Le Japon aujourd'hui	6
A2-B1/初中級～中級(フランス語)※2 フランス語圏なう。	La Francophonie aujourd'hui	6
A1-A2/初級～初中級(フランス語)※3 リサーチ・発信プロジェクト①	Recherche et présentation I	14
A2/初中級(スペイン語)※1 日本文化をプレゼン	Habilidades de Presentación sobre la Cultura Japonesa	5
B1/中級(スペイン語)※2 比較文化研究(比較文化セミナー)	Estudios Culturales Comparativos	10
B1/中級(スペイン語)※3 リサーチ・発信プロジェクト①	Metodología y Léxico para Proyectos de Investigación 1	14
A2-B2/初中級～中上級(ドイツ語)※1 日本紹介	Japanbotschafter	10
B1-C1/中級～上級(英語)※2 ドイツの文化、サブカルチャー	Kultur, Subkultur, Esskultur	3
A2-B2/初中級～中上級(ドイツ語)※3 リサーチ・発信プロジェクト①	Forschungs- und Präsentationsprojekt 1	14
A2/初中級(中国語)※1 中国語で日本を紹介する	用汉语介绍日本	6
A2/初中級(中国語)※2 中国と日本の比較文化	中日文化比较	11
B1/中級(中国語)※3 リサーチ・発信プロジェクト①	实践调查与报告 1	7

[表 2-4 平成 26 年度後期 iCoToBa 開講グローバル人材プログラム指定科目]

CEFR によるレベル(言語) 科目名称	各言語科目名称	受講 者数
B1-C1/中級～上級(英語)※1 英語で日本PRプロジェクト-日本の魅力を発信しよう！1	J-Ambassador 1	19

B1-C1/中級～上級(英語)※1 英語で日本PRプロジェクト-日本の魅力を発信しよう！2	J-Ambassador 2	16
A2-B1/初中級～中級(英語)※2 比較文化セミナー:英語圏を知りつくそう！1	Comparative Study of Cultures: The English-Speaking World 1	24
A2-B1/初中級～中級(英語)※2 比較文化セミナー:英語圏を知りつくそう！2	Comparative Study of Cultures: The English-Speaking World 2	24
C1-C2/上級以上(英語)※2 ちなみに、「グローバル」って何？	What is "Global," Anyway	15
A2-B2/初中級～中上級(英語)※3 プロジェクトワークを行って発表しよう！①-1	Research and Presentation Project①- 1	17
A2-B2/初中級～中上級(英語)※3 プロジェクトワークを行って発表しよう！①-2	Research and Presentation Project ①-2	8
B2-C1/中上級～上級(英語)※3 グローバルリーダー	Global Leader	6
A2-B1/初中級～中級(フランス語)※1 ニッポンなう。	Le Japon aujourd'hui	9
A2-B1/初中級～中級(フランス語)※2 フランス語圏なう。	La Francophonie aujourd'hui	6
A2-C1/初中級～上級(フランス語)※3 リサーチ・発信プロジェクト①	Recherche et présentation I	1
A2/初中級(スペイン語)※1 日本文化をプレゼン	Habilidades de Presentación sobre la Cultura Japonesa	7
A2-B2/初中級～中上級(スペイン語)※2 比較文化研究 1	Estudios Culturales Comparativos 1	9
B1-B2/中級～中上級(スペイン語)※2 比較文化研究 2	Estudios Culturales Comparativos 2	16
B1-B2/中級～中上級(スペイン語)※3 リサーチ・発信プロジェクト	Metodología y Léxico para Proyectos de Investigación 1	1
A2-B2/初中級～中上級(ドイツ語)※1 日本紹介	Japanbotschafter	3
B1-C1/中級～上級(ドイツ語)※2 ドイツの文化:留学アフターケア	Deutsche Kultur: nach dem Auslandsstudium	9
A2-B2/初中級～中上級(ドイツ語)※3 リサーチ発信プロジェクト①	Forschungs- und Präsentationsprojekt 1	1
A2/初中級(中国語)※1 中国語で日本を紹介する	用汉语介绍日本	12

A2/初中級(中国語)※2 中国と日本の比較文化	中日文化比較	17
B1/中級(中国語)※3 リサーチ・発信プロジェクト①	実践調査与发表1	7

[表 2-5 平成 26 年度 iCoToBa サマープログラム内グローバル人材プログラム指定科目]

CEFR によるレベル(言語) 科目名称	各言語科目名称	受講 者数
A2-C1/初中級～上級(英語)※1 英語で日本 PR プロジェクト・日本の魅力を発信しよう！	J-Ambassador	6
A2-B2/初中級～中上級(英語)※2 比較文化セミナー:英語圏を知りつくそう！	Comparative Study of Cultures: The English-Speaking World	5

④「グローバル人材プログラム」修了証の発行

本プログラムにおける上記の修了要件を満たした者には、卒業時に「グローバル人材プログラム修了証」を発行することとしており、平成 26 年度については、平成 27 年 3 月に卒業予定の 1 名(中国学科)が発行を受ける予定である。修了証の発行は次のような手順でおこなわれている。

- 1) 学務課:「グローバル人材プログラム修了証書」発行について UNIPA で学生向けに仮申請の受付開始を案内
- 2) 学生:UNIPA で申請後、「修得単位チェックシート」を学務課に提出(仮申請)
- 3) グローバル人材育成推進室:当該年度後期の成績発表後、学務課より成績情報・検定結果を受領
- 4) グローバル人材育成推進室:本プログラム担当教員による認定審査
- 5) グローバル人材育成推進室会議:承認
- 6) 学務課:修了証の発行、学生への引渡し(平成 27 年 3 月の予定)

⑤「グローバル人材プログラム受講証明書」の発行

本プログラムにおける下記の発行条件を満たした 3 年次以上の者には、キャリア支援の一環として、就職活動を予定している学生のために「グローバル人材プログラム受講証明書」を発行することとしており、平成 26 年度については、16 名への発行が承認された。

[発行条件]

- ①グローバル人材プログラム指定 iCoToBa 科目の 3 科目以上に合格していること
- ②卒業論文以外の必修単位(18 単位)のうち 14 単位以上を取得済みであること

受講証明書の発行は次のような手順でおこなわれている。

- 1) 学務課:「グローバル人材プログラム受講証明書」発行について UNIPA で学生向けに仮申請の受付開始を案内
- 2) 学生:UNIPA で申請後、「修得単位チェックシート」を学務課に提出(仮申請)
- 3) グローバル人材育成推進室:前期・後期の成績発表後、学務課より成績情報・検定結果を受領
- 4) グローバル人材育成推進室:本プログラム担当教員による認定審査
- 5) グローバル人材育成推進室会議:承認
- 6) 学務課:受講証明書の発行、学生への引渡し(平成 27 年 4 月の予定)

4. 平成 26 年度の評価

①効果が表れていること

平成 25 年度に始まった「グローバル人材プログラム」も 2 年目に入り、本プログラム指定の iCoToBa 科目の時間割編成や manaba を利用した履修登録などにおいて、ノウハウが蓄積されてきた結果、新学期に向けた準備作業がスムーズにおこなわれている。また、本年度は前期および後期の新学期に本プログラムのガイダンス・履修相談を複数回実施した結果、学生へのきめ細かい指導ができた。

平成 26 年度卒業する学生のうち、「グローバル人材プログラム」の修了者は 1 名にとどまっているが、3 年次以上の学生を対象とした「グローバル人材プログラム受講証明書」の発行については、16 名に発行することになっており、次年度以降、修了者の増加が見込まれる。

平成 26 年度に iCoToBa で開講したグローバル人材プログラム科目の履修者は、のべ 152 名であった。加えて、情報検索講座(初級編)合格者が 88 名、情報検索講座(上級編)合格者が 50 名(どちらも前期認定分のみ)であったことをあわせて考えると、次年度以降、本プログラムの修了者数および受講証明書の受領者数は増加していくものと期待される。

②改善すべきこと

本年度は、前期および後期の新学期に本プログラムのガイダンスおよび履修相談を実施し、本プログラムに熱心に取り組んでいる学生へのきめ細かい指導はできたが、本プログラムに取り組んでいる学生のすそ野が十分に広がっているとはいえない。本プログラムに取り組んでいる学生からの履修上の相談に対応できる教員が実際には数名しかいないことも、その原因の一つといえる。修了者数を増やしていくためにも、次年度以降これらについては改善したい。

5. 平成 27 年度に向けての方策

平成 27 年度に実施するガイダンスでは、学生の視点に立ち、本事業に関連する部署 (iCoToBa 委員会、国際交流室) とも連携をとり、一元化した情報提供を目指す。

また、平成 26 年度からグローバル人材育成推進室の室員を学科・専攻から 1 名ずつ選出している点を踏まえ、学科・専攻とのスムーズな情報共有をさらに徹底するとともに、学生から本プログラムに関する履修上の相談があった時、迅速に対応できるような教務指導体制の改善にも取り組んでいく。

3. iCoToBa(多言語学習センター)

1. 概要

iCoToBa(多言語学習センター)は、本事業採択に伴い、本学の外国語学習支援と異文化理解および異文化交流推進を目的に開設された学習施設である。

iCoToBa では、英語 2 名、フランス語、スペイン語、ドイツ語、中国語各 1 名の外国人教員によるバラエティ豊かな語学授業が提供されている。また、留学アドバイザー教員と語学学習アドバイザー教員による個別指導も行っており、学生の外国語能力養成と留学計画を含めた計画的な学修ができるようサポートしている。

iCoToBa は、以下の役割を担っている。

a) 語学授業の提供

英語 45 時間(90 分×30 コマ)、フランス語、スペイン語、ドイツ語、中国語は、各 15 時間(90 分×10 コマ)の語学授業を開講している。語学授業は、専攻外国語と第 2 外国語の授業や外国語学部学生の必修科目の時間帯を調査し、できるだけ学生が履修しやすい時間帯に設定するように工夫されている。

b) 語学学習アドバイジングと自律学習支援

iCoToBa では、専任の語学学習アドバイザーが、TOEFL や IELTS など、英語圏の大学への留学に必要な試験準備の指導に加え、留学準備に関する個別相談にのっている。また、e-Learning を用いた語学学習に学生が自主的に取り組めるよう、e-Learning ガイダンスを立案・実施している。英語以外の e-Learning については、各学科・専攻の iCoToBa 委員が中心となり、使用方法や勉強方法について説明会を開催している。

これに加え、学生が自由に外国人教員と外国語での自由会話や学習相談ができる「iContact」という時間を設定している。2014 年度からは、教養教育センターとの協働により、教養教育センター所属外国人教員 4 名も担当しており、設定時間を週あたり 19.5 時間と拡充させた。

c) 留学アドバイザーによる個別指導および留学体験報告会の実施

専任の留学アドバイザーが、国際交流室との協働のもと、個別に留学準備のための相談に応じている。加えて、iCoToBa では留学体験をした学生の体験談を聞くイベントなど、学生への留学への動機づけを目指したイベントを計画・実施している。

d) 異文化理解、異文化交流を促進させるイベントの開催

外国の文化を紹介・体験するイベントや、本学留学生や近隣機関との交流イベントなどを開催している。これは、本学の学生にとって、異文化を理解し実際に外国語でコミュニケーションする機会にもなっている。また、これらの多くのイベントは、教員が企画運営をするのではなく、企画段階から学生も参加することで、学生の自主性や行動力、マネジメント能力育成も目指している。

e) 学生活動のサポート

d の活動を契機に、学生自身が「ともに創りだす楽しさ」を発見することも多い。これを成長の機会ととらえ、iCoToBa では、学生自身が企画を作成し実施することも推奨、サポートしている。現在では、学生の自主グループ iCoToBa Supporters Club (ISC) が組織化され、iCoToBa の運営に積極的に参画している。

f) 情報発信

Web サイトやインターネットポートフォリオを活用し、外国語学習や留学に関する情報提供を行っている。また、学生の自主的な活動のサポートとしてインターネットポートフォリオ内にコミュニティを立ち上げ、運営している。

加えて、iCoToBa で取り組んでいる語学授業や教育手法について研究会での実践報告や教材開発も行っている。

2. 平成 26 年度の目標

iCoToBa 開講の外国語学部「グローバル人材プログラム」指定科目をすべて開講する。PBL 手法に基づく外国語教育を拡充し、語学学習支援と異文化交流行事を充実させる。また、iCoToBa と iCoToBa 開講授業をより多くの学生が利用することを目指す。

3. 平成 26 年度の実績

① iCoToBa ガイダンスの実施

平成 26 年度は、iCoToBa 主催の新入生対象ガイダンスを 2 種類実施した。iCoToBa の雰囲気に触れることを目的とした「iCoToBa Welcome Week」と、外国語学習の動機づけと主体的な学びを促すことを主眼においた「iCoToBa 新入生ガイダンス」である。

a) iCoToBa Welcome Week

本年度の iCoToBa Welcome Week は、4 月 9 日(水曜日)から 4 月 15 日(火曜日)にかけて開催された。Welcome Week 期間中は、1)各言語の授業説明会と体験授業、2)異文化理解イベント、3)自由会話を楽しむ時間が毎日設定され、多くの学生が参加した。平成 25 年

度は、同じ時間帯に学生が集中し混乱したという反省から、本年度はより多くの学生が参加できるよう言語ごとにスケジュールを調整した。

英語のガイダンスは期間中毎日開催し、授業説明だけでなく、英語が話されている国や地域に関する豆知識大会、オーストラリア文化体験など、英語でのコミュニケーションを楽しめる企画とした。他の言語も、初学者および上級学年の学生も参加できるよう、開催回数を増やすなどの工夫をし、文化をトピックに話し合うイベントを開催した。



[iCoToBa Welcome Week の様子]

iCoToBa Welcome Week 最終日には、国際料理体験(International Cooking Event)を開催した。アメリカのパンケーキ、フランスのクレープ、ドイツのピカートを参加者自身で調理し、好みのトッピングで試食した。1年生を中心に125名の学生が参加し、多くの学生に実際にiCoToBaを利用してもらう機会となった。

Welcome Week 期間中にiCoToBaに来室した学生数はのべ677名(1日平均135名)であり、学年では1年生が最も多く全体の62%(421名)であった。iCoToBa Welcome Weekの開催により、新入生にiCoToBaの施設や授業内容等について十分周知できたと考えられる。その結果、2014年前期のiCoToBa授業履修者は、のべ1,072名であった。

[図 3-1 iCoToBa Welcome Week ちらし]

iCoToBaの授業が分かるイベント

- ファーン先生とワレット先生のコーヒータイム**
コーヒー・お茶を飲みながら、あなたのニーズにぴったりのiCoToBaの未修授業について相談できます。
9日(水) 12:10-12:40, 10日(木) 15:00-15:30, 15日(火) 11:00-11:30
- iCoToBa説明会:中国語と中国語**
教習員の中国語を聞きながら、iCoToBaの中国語授業について話し合おう。
10日(木) 12:00-12:50, 11日(金) 16:10-17:00, 14日(月) 14:30-15:00 (途中入室可)
- iCoToBaフランス語のカジュアル説明会**
モーガン先生とiCoToBaのフランス語授業について話し合おう。
1年生: 9日(水) 14:30-15:30, 2年生: 10日(木) 16:10-17:10, 3・4年生: 11日(金) 12:50-13:50, 全学年: 15日(火) 16:10-17:10
- iCoToBaスペイン語のカジュアル説明会**
セルヒオ先生とiCoToBaのスペイン語授業について話し合おう。
14日(月) 11:00-11:30, 15日(火) 12:30-13:00
- iCoToBaドイツ語のカジュアル説明会**
モーゲン先生とiCoToBaのドイツ語授業について話し合おう。
14日(月) 12:50-14:20

全てiCoToBa Loungeで開催します。

ランチチャット
昼ごはんを食べながら外国語で会話しよう。
ファーン先生・東洋: 14日(月) 12:00-12:50
モーガン先生・フランス語など: 10日(水) 12:00-12:50

iCoToBaの雰囲気体験できるイベント

- 国際料理体験: パンケーキ(米), クレープ(仏), ピカート(独)**
3ヶ国を代表するパンケーキを自分で作って、食べくらべをしよう!
15日(火) 17:30~ (途中入室可) 場所: F棟調理室 7300 (ドリンク代込20)
***参加希望者はiCoToBa 受付で申し込んでください。 (11日まで) ***
人数制限あり。早前にこのチャンスをGETしよう!
- オーストラリア体験**
オージー英語を学ぶ! オーストラリア名物を試食する!
14日(月) 16:00-17:30 (途中入室可) 場所: iCoToBa Lounge 7300
- 英語能力検定大会**
英語力のクイズに答えて、アメリカンキャンディーをGETしよう!
11日(金) 12:00-12:50 場所: iCoToBa Lounge 無料
- スペイン語伝説講座**
いろいろなスペイン語の伝説を見て、感想を話し合おう!
11日(金) 14:30-15:00 (途中入室可) 場所: iCoToBa Activity Space 無料
- サッカー、世界と人を結ぶ**
サッカーに関心のある人集まれ! ドイツ語でサッカーに関する単語を学ぼう!
ドイツ語学習経験がある人もない人も大歓迎!
9日(水)・15日(火) 12:10-12:40 場所: iCoToBa Activity Space 無料
- スペイン語でゲーム**
語彙心も大歓迎! 一緒に楽しもう!
15日(火) 12:10-12:40 場所: iCoToBa Lounge 無料

b) iCoToBa 新入生ガイダンス

このガイダンスは、外国語学習の目標や方法について考え、話し合うことで、新入生が学びの主体であることを意識させるために、iCoToBa 委員とiCoToBa 教員の協力により行った。ガイダンスは、90分×2回実施した。第1回のテーマは「外国語学習についてともに考える」であった。学習言語や話されている国・地域について知っていることを話し合った上で、専攻言語選択のきっかけや目的について学生間でシェアした。そのあとで、「グローバル人材に必要な8つの能力」について、具体的には何ができることなのか、ディスカッションしたり、協定大学に関する説明を行なった。

第2回ガイダンスの目的は、主にインターネットポートフォリオの使い方に慣れることと、実際にe-Learningに触れる機会を持つことであった。第1回目のガイダンスで考えたことや、これまでの外国語学習体験について答えてみるなど、具体的なタスクと共に、これらのシステムの使い方を学べるように工夫した。

[表 3-1 iCoToBa 新入生ガイダンス日程]

学科・専攻	1回目	2回目
英米学科	4月9日(水)5限	4月16日(水)5限
フランス語圏専攻	4月9日(水)3限	4月15日(火)4限
スペイン語圏専攻	4月10日(木)4限	4月11日(金)2限
ドイツ語圏専攻	4月9日(水)3限	4月16日(水)3限
中国学科	4月9日(水)3限	4月15日(火)2限
国際関係学科	4月9日(水)5限	4月17日(木)4限



[iCoToBa 新入生ガイダンス(第1回)の様子]

本年度は、以上の2種類のガイダンスに加え、グローバル事業関連ガイダンスや行事についてまとめたプリント「グローバル人材プログラム& iCoToBa at a glance」を作成・配布した。このことにより、学生のプログラムへの認識と参加の徹底が図られた。

[図 3-2 グローバル人材プログラム&iCoToBa at a glance]

iCoToBa(多言語学習センター E棟2階)の語学授業
英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、中国語

→授業開始 4月16日(水)、受講受付 4月9日(水)～23日(水)締切厳守

授業内容をチェックするには？

- ①iCoToBa前掲示板&iCoToBa受付でプリントを手に入れる
- ②インターネットポータルシステムmanabaの「iCoToBa」コース掲示板を見る
※iCoToBaガイダンスIIで説明
- ③iCoToBa HP「新着情報」から「2014前期iCoToBa授業一覧」へアクセス
<http://www.for.aichi-pu.ac.jp/icotoba/index.html> (県大HPにバナーあり)

授業登録するには？ →manaba の「iCoToBa」コース「レポート」から申し込む
※iCoToBaガイダンスIIで説明

どの授業を選べばいい？

- ①iCoToBa Welcome Week【4月9日(水)～15日(火)】のイベントに参加しよう
- ②新入生iCoToBaガイダンスIで説明を聞く
- ③iCoToBaランチタイムで先生&先輩に訊く

忘れちゃいけないガイダンス

- ① 新入生対象グローバル人材育成事業ガイダンス
4月7日(月)16:00-17:30 場所:講堂
- ② iCoToBaガイダンスI
英米・国際 4月9日(水)16:10-17:40 場所:H004
フランス・中国 4月9日(水)12:50-14:20 場所:H203
スペイン: 4月10日(木)14:30-16:00 場所:B101
ドイツ 4月9日(水)昼休み→3限 場所:iCoToBa→H201
- ③ iCoToBaガイダンスII e-LearningとmanabaのID忘れずに
英 4月16日(水)16:10-17:40 フランス 4月15日(火)14:30-16:00
スペイン 4月11日(金)10:30-12:00 ドイツ 4月16日(水)昼休み・3限
中国 4月15日(火)10:30-12:00 国際 4月17日(木)14:30-16:00

International Cultural Events
大学生だから、いろんなコトしようよ！

- ①iCoToBaの異文化交流イベント
iCoToBa前掲示板、iCoToBaHP新着情報、manabaコミュニティ「みんな集まれ iCoToBa広場」で、まめにチェックしよう
- ②iCoToBa Supporters Club(ISC)に参加しませんか？
学生のiCoToBaサークル活動！企画イベント大募集

まずは、Welcome Week のイベントに参加して、楽しさを実感してください！

快適なネット環境のためのTo Do

- ①アルクのe-LearningIDとmanabaのIDは入学式でもらった資料に入っています。
→iCoToBaガイダンスIIに必ず持ってきてください。
→承諾書に保護者サインをもらって4月25日(金)までに提出
- ②GW明け(予定)の情報リテラシー講習に必ず出席
→出席しないと、学内のパソコンからネットが使えなくなるよ！

よくわからない・まとめて誰かに相談したい

- ①「グローバル人材プログラム」履修ガイダンスで相談
4月8日(火)13:30-17:00 ※同時に学部の履修相談あり
場所:iCoToBa(E棟2階)Activity Space
- ②iCoToBaの寺澤先生(語学学習アドバイザー)、大山先生(留学アドバイザー)に相談する
- ③学科・専攻のグローバル人材育成推進室委員に訊く
委員 英米:久田、フランス:中田、スペイン:小池、ドイツ:杉原、中国:月田、国際:宮谷

留学情報にも目配りを！

留学ガイダンス 5月21日(水:午後)にまず出席→GW明けにiCoToBa掲示板とHPで確認
協定大学への留学、奨学金情報→国際交流室で相談(E棟1階)
留学ってどんな感じ？ゼロから相談したい→iCoToBa留学アドバイザー大山先生に相談
カウンセリング時間をiCoToBa Time Table でチェック
経験者の意見を聞きたい！→iCoToBaの「留学体験発表会」に参加(毎週木曜ランチタイム)

一目でわかる 外国語学部「グローバル人材プログラム」&iCoToBa(多言語学習センター)情報(新入生)

② iCoToBa 開講科目

iCoToBa では、外国語学部の専攻外国語である英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、中国語の語学授業を開講している。レベル別(ヨーロッパ共通参照枠:CEFR A1~C1)・目的別(4 技能、留学準備、グローバル人材プログラム指定科目)に設定し、正課の授業で身につけた言語知識をもとに、実地的な運用能力を身につけると、学習言語が話されている地域の文化や社会について、学習言語を使って調べ発信することを目指す授業設計をしている。

以下は、平成 26 年度に iCoToBa で開講した科目および受講者の一覧である。なお、各表左端の列「指定」の「○」は、外国語学部「グローバル人材プログラム」指定科目であることを示している。

[表 3-2 平成 26 年度前期 iCoToBa 開講科目]

指定	科目名称	各言語科目名称	レベル	受講者数
○	サバイバル英語「こんなとき、なんて言う？」	Survival English	A2-B2/ 初中級-中上級	21
○	会話のこつ	Conversation Strategies	B1-C1/中級-上級	19
○	英語で小論	Short Essay Writing	B1-C1/中級-上級	9
○	英語でディベート	Debate	B2-C1/ 中上級-上級	6

○	英語で日本 PR プロジェクト - 日本の魅力を発信しよう！ UEA 留学準備コース 1	J-Ambassador (UEA 1)	B1-C1/ 中級-上級	29
○	英語で日本 PR プロジェクト - 日本の魅力を発信しよう！ UEA 留学準備コース 2	J-Ambassador (UEA 2)	B1-C1/ 中級-上級	
○	英語で日本 PR プロジェクト - 日本の魅力を発信しよう！	J-Ambassador	B1-C1/ 中級-上級	24
○	グローバルリーダー	Global Leader	B2-C1/ 中上級-上級	14
	英語で授業を聴いて ノートを取る	Academic Listening & Note-taking	B2-C1/ 中上級-上級	2
	1 分間スピーチを練習しよう！	One-minute Speech	A2-B2/ 初中級-中上級	7
○	今日のニュースについて 話そう！	Today's Top News	B2-C1/ 中上級-上級	15
	発音練習 1	Pronunciation Profiles 1	A2-B1/ 初中級-中級	26
	発音練習 2	Pronunciation Profiles 2	A2-B1/ 初中級-中級	22
	会話コーチ 1	Conversation Coach 1	A1-B1/ 初級-中級	26
	会話コーチ 2	Conversation Coach 2	B1-C1/ 中級-上級	16
○	比較文化セミナー： 英語圏を知りつくそう！ 1	Comparative Study of Cultures: The English-Speaking World 1	A2-B1/ 初中級-中級	24
○	比較文化セミナー： 英語圏を知りつくそう！ 2	Comparative Study of Cultures: The English-Speaking World 2	B1-B2/ 中級-中上級	20
○	プロジェクトワークを行って 発表しよう！ 1	Research and Presentation Project 1	A2-B1/ 初中級-中級	11
○	プロジェクトワークを行って 発表しよう！ 2	Research and Presentation Project 2	B1-B2/ 中級-中上級	20
○	プロジェクトワークを行って 発表しよう！ 3	Research and Presentation Project 3	B1-B2/ 中級-中上級	17

	実際に使える英語表現・ イディオム	Real-Life Expressions and Idioms	A2-B1/ 初中級-中級	26
○	映画で社会を検討しましょう！	Society Through Film	C1/上級	15
	検定試験対策講座 TOEIC 1	TOEIC Intensive 1	A2-C1/ 初中級-上級	17
	検定試験対策講座 TOEIC 2	TOEIC Intensive 2		21
	検定試験対策講座 TOEIC 3	TOEIC Intensive 3		5
	検定試験対策講座 TOEIC 4	TOEIC Intensive 4		22
	検定試験対策講座 TOEFL	Strategic TOEFL		15
	検定試験対策講座 IELTS	Successful IELTS		11
	検定試験対策講座 Vocabulary 1(I)	Vocabulary for Exams 1 (I)		3
	検定試験対策講座 Vocabulary 1(II)	Vocabulary for Exams 1 (II)		3
	検定試験対策講座 Vocabulary 2(I)	Vocabulary for Exams 2 (I)	レベル設定なし	13
	検定試験対策講座 Vocabulary 2(II)	Vocabulary for Exams 2 (II)		5
	個別講座 1	Academic Session (Customized Tutorial) 1		6
	個別講座 2	Academic Session (Customized Tutorial) 2		1
	個別講座 3	Academic Session (Customized Tutorial) 3	レベル設定なし	6
	個別講座 4	Academic Session (Customized Tutorial) 4		1
	とっさのフランス語 基礎	Le français tout de suite.	A1/初級	31
○	フランス語圏なう。	La francophonie aujourd'hui.	A2-B1/ 初中級-中級	6
○	ニッポンなう。	Le Japon aujourd'hui.	A2-B1/ 初中級-中級	6
○	リサーチ・発信プロジェクト①	Recherche et présentation I	A1-A2/ 初級-初中級	14
	めざせ仏検準 2 級	Cours de préparation au DAPF - jun 2 kyu	A2/初中級	13

	めざせ仏検準 1 級	Cours de préparation au DAPF - jun 1 kyu	B1-B2/ 中級-中上級	7
	ちょっとチャット フランス語 I	Petite discussion en français I	A1-A2/ 初級-初中級	12
	ちょっとチャット フランス語 II	Petite discussion en français II	B1-B2/ 中級-中上級	7
	アトリエ・ドゥ・フランセ初級	Atelier de français I	A1-A2/ 初級-初中級	9
	アトリエ・ドゥ・フランセ中・上級	Atelier de français II	B1-B2/ 中級-中上級	6
	スペイン語圏世界と グローバリティ 1	El Mundo Hispánico y la Globalidad-Grupo 1	B1-B2/ 中級-中上級	15
	スペイン語圏世界と グローバリティ 2	El Mundo Hispánico y la Globalidad-Grupo 2	B1-B2/ 中級-中上級	11
○	比較文化研究 (比較文化セミナー)	Estudios Culturales Comparativos	B1/中級	10
○	リサーチ・発信プロジェクト①	Metodología y Léxico para Proyectos de Investigación 1	B1/中級	14
○	日本文化をプレゼン	Habilidades de Presentación sobre la Cultura Japonesa	A2/初中級	5
	時事問題読解	Comprensión Lectora de Noticias de Actualidad	B1-B2/ 中級-中上級	7
	DELE B1 対策	Preparación para el Examen DELE B1	B1/中級	29
	DELE A2 対策	Preparación para el Examen DELE A2	A2/初中級	24
	初級スペイン語	Español Básico Nivel A1	スペイン語専攻 1 年用	49
	第 2 外国語としてのスペイン語	Español como Segunda Lengua Extranjera A1 alto	A1 他学科・専攻用	10
	ドイツ日常語と実践会話 I	Deutsche Alltagssprache und Sprachpraktisches I	A1/初級	30
	ドイツ日常語と実践会話 II	Deutsche Alltagssprache und Sprachpraktisches II	A1/初級	25

	ドイツ日常語と実践会話 III	Deutsche Alltagssprache und Sprachpraktisches III	A2/初中級	20
	ドイツ日常語と実践会話 IV	Deutsche Alltagssprache und Sprachpraktisches IV	A2/初中級	6
	ドイツ日常語と実践会話 V	Deutsche Alltagssprache und Sprachpraktisches V	A1-A2/ 初級-初中級	25
	検定試験対策	Testvorbereitung	A2-C1/ 初中級-上級	4
	発音、パフォーマンス	Aussprache und Performance	A2-C1/ 初中級-上級	13
○	日本紹介	Japanbotschafter	A2-B2/ 初中級-中上級	10
○	ドイツの文化、サブカルチャー	Kultur, Subkultur, Esskultur	B1-C1/ 中級-上級	3
○	リサーチ・発信プロジェクト①	Forschungs- und Präsentationsprojekt 1	A2-B2/ 初中級-中上級	14
	発音特訓講座 a	学发音 a	A0/入門	51
	発音特訓講座 b	学发音 b	A0/入門	
	発音特訓講座 c	学发音 c	A0/入門	
	発音特訓講座 d	学发音 d	A0/入門	
	発音特訓講座 e	学发音 e	A0/入門	
	発音特訓講座 f	学发音 f	A0/入門	
○	中国語で日本を紹介する	用汉语介绍日本	A2/初中級	6
○	中国と日本の比較文化	中日文化比较	A2/初中級	11
	実践中国語上級編	汉语常用语上级	A2/初中級	8
○	リサーチ・発信プロジェクト①	实践调查与报告 1	B1/中級	7
	中国語複文トレーニング	学习汉语关联词	B2/中上級	2
	慣用句で 中国語リアルフレーズ	常用汉语习惯用语	B2/中上級	5
○	リサーチ発信プロジェクト②	Research and Presentation Project ②	A2-B2/ 初中級-中上級	4
○	学生共同プロジェクト	Group Work Project	A2-C1/ 初中級-上級	18
○	留学体験発表会	Presentation of Study Abroad Experience	A2-C1/ 初中級-上級	26

[表 3-3 平成 26 年度後期 iCoToBa 開講科目]

指 定	科目名称	各言語科目名称	レベル	受講 者数
	サバイバル英語	Survival English	A2-B2/ 初中級-中上級	25
	ニュースで英語	News English	B1-C1/中級-上級	7
	ワードパワー！	Word Power	A2-B2/ 初中級-中上級	8
○	英語で日本 PR プロジェクト 日本の魅力を発信しよう！ 1	J-Ambassador 1	B1-C1/ 中級-上級	19
○	英語で日本 PR プロジェクト 日本の魅力を発信しよう！ 2	J-Ambassador 2	B1-C1/ 中級-上級	16
○	グローバルリーダー	Global Leader	B2-C1/ 中上級-上級	5
	アカデミック リスニング	Academic Listening	B2-C1/ 中上級-上級	8
	ディスカッション&ディベート	Discussion & Debate	B2-C1/ 中上級-上級	5
	英語で小論	Short Essay Writing	B1-C1/ 中級-上級	4
	1 分間スピーチ	One-minute Speech	A2-B2/ 初級-中上級	9
	英語・オン・ザ・ネット	English on the Net	B1-C1/中級-上級	5
	会話コーチ: Start Off! 1	Conversation Coach: Start Off! 1	A1-B1/初級-中級	8
	会話コーチ: Start Off! 2	Conversation Coach: Start Off! 2	A1-B1/初級-中級	2
	会話コーチ: Move On! 1	Conversation Coach: Move On! 1	B1-C1/中級-上級	6
	会話コーチ: Move On! 2	Conversation Coach: Move On! 2	B1-C1/中級-上級	5
○	比較文化セミナー: 英語圏を知りつくそう！ 1	Comparative Study of Cultures: The English-Speaking World 1	A2-B1/ 初中級-中級	24

○	比較文化セミナー： 英語圏を知りつくそう！2	Comparative Study of Cultures: The English-Speaking World 2	A2-B1/ 初級-中級	20
○	プロジェクトワークを行って 発表しよう！①-1	Research and Presentation Project ①-1	A2-B2/ 初上級-中上級	17
○	プロジェクトワークを行って 発表しよう！①-2	Research and Presentation Project ①-2	A2-B2/ 初上級-中上級	8
	実際に使える英語表現・ イディオム	Real-Life Expressions and Idioms	A2-B1/ 初級-中級	18
	英語で理論ワークショップ	English Theory Workshop	B2-C1/ 中上級-上級	2
○	ちなみに、 「グローバル」って何？	What is "Global," Anyway?	C1-C2/上級以上	12
	検定試験対策講座 TOEIC Early Bird 1	TOEIC Early Bird 1	A1-C1/初級-上級	17
	検定試験対策講座 TOEIC Early Bird 2	TOEIC Early Bird 2	A1-C1/初級-上級	10
	検定試験対策講座 TOEIC 1	TOEIC Intensive 1	A1-C1/初級-上級	20
	検定試験対策講座 TOEIC 2	TOEIC Intensive 2	A1-C1/初級-上級	17
	検定試験対策講座 TOEIC 3	TOEIC Intensive 3	A1-C1/初級-上級	10
	検定試験対策講座 TOEIC 4	TOEIC Intensive 4	A1-C1/初級-上級	2
	検定試験対策講座 TOEFL 1	Strategic TOEFL 1	A1-C1/初級-上級	26
	検定試験対策講座 TOEFL 2	Strategic TOEFL 2	A1-C1/初級-上級	6
	検定試験対策講座 IELTS 1	Successful IELTS 1	A1-C1/初級-上級	5
	検定試験対策講座 IELTS 2	Successful IELTS 2	A1-C1/初級-上級	3
	検定試験対策講座 Vocabulary 1(I)	Vocabulary for Exams 1 (I)	A1-C1/初級-上級	7
	検定試験対策講座 Vocabulary 1(II)	Vocabulary for Exams 1 (II)	A1-C1/初級-上級	7

	検定試験対策講座 Vocabulary 2(I)	Vocabulary for Exams 2 (I)	A1-C1/初級-上級	8
	検定試験対策講座 Vocabulary 2(II)	Vocabulary for Exams 2 (II)	A1-C1/初級-上級	7
	とっさのフランス語 基礎	Le français tout de suite.	A1/初級	18
○	フランス語圏なう。	La francophonie aujourd'hui.	A2-B1/ 初中級-中級	6
○	ニッポンなう。	Le Japon aujourd'hui.	A2-B1/ 初中級-中級	9
○	リサーチ・発信プロジェクト①	Recherche et présentation I	A2-C1/ 初中級-上級	1
	めざせ仏検準 2 級	Cours de préparation au DAPF - jun 2 kyu	A2/初中級	3
	めざせ仏検準 1 級	Cours de préparation au DAPF - jun 1 kyu	B1-B2/ 中級-中上級	11
	ちょっとチャット フランス語 I	Petite discussion en français I	A1-A2/ 初級-初中級	7
	ちょっとチャット フランス語 II	Petite discussion en français II	B1-B2/ 中級-中上級	6
	アトリエ・ドゥ・フランセ初級	Atelier de français I	A1-A2/ 初級-初中級	8
	アトリエ・ドゥ・フランセ中・上 級	Atelier de français II	B1-B2/ 中級-中上級	3
	スペイン語圏世界と グローバリティ	El Mundo Hispánico y la Globalidad-Grupo	B1-B2/ 中級-中上級	5
○	比較文化研究 1	Estudios Culturales Comparativos 1	B1-B2/ 中級-中上級	9
○	比較文化研究 2	Estudios Culturales Comparativos 2	B1/中級	16
○	リサーチ・発信プロジェクト①	Metodología y Léxico para Proyectos de Investigación 1	B1/中級	1
○	日本文化をプレゼン	Habilidades de Presentación sobre la Cultura Japonesa	A2/初中級	7
	時事スペイン語	Preparación de Noticias de Actualidad. Niveles	B1-B2/ 中級-中上級	5

	スペイン語会話	Conversación	A2/初中級	17
	DELE A2 対策講座	Preparación para el Examen DELE A2	A2/初中級	4
	初級スペイン語 1	Español Básico Nivel 1	スペイン専攻1年	16
	初級スペイン語 2	Español Básico Nivel 2	A1/ 他学科・専攻用	24
	ドイツ日常語と実践会話 I	Deutsche Alltagssprache und Sprachpraktisches I	A1/初級	4
	ドイツ日常語と実践会話 II	Deutsche Alltagssprache und Sprachpraktisches II	A1/初級	10
	ドイツ日常語と実践会話 III	Deutsche Alltagssprache und Sprachpraktisches III	A2/初中級	9
	ドイツ日常語と実践会話 IV	Deutsche Alltagssprache und Sprachpraktisches IV	A2/初中級	11
	ミュンスター・アフターケア	Münsternachbereitung	A2-B1/ 初中級-中級	20
	発音、パフォーマンス	Aussprache und Performance	A2-C1/ 初中級-上級	4
	検定試験対策	Testvorbereitung	A2-C1/ 初中級-上級	3
○	日本紹介	Japanbotschafter	A2-B2/ 初中級-中上級	3
○	ドイツの文化: 留学アフターケア	Deutsche Kultur: nach dem Auslandsstudium	B1-C1/ 中級-上級	9
○	リサーチ・発信プロジェクト①	Forschungs –und Präsentationsprojekt 1	A2-B2/ 初中級-中上級	1
○	リサーチ・発信プロジェクト①	実践調査与发表1	B1/中級	7
○	中国と日本の比較文化	中日文化比较	A2/初中級	13
	実践中国語 A(作文)	生活汉语 A(作文)	A2/初中級	1
	成語、慣用句でリアルフレーズ	常用慣用語	B2/中上級	2
	発音と朗読	发音与朗读	B1/中級	2
	実践中国語 B(聴解と会話)	生活汉语 B(听力与会话)	B1/中級	4
○	中国語で日本を紹介する	用汉语介绍日本	A2/初中級	12
	発音と初級会話	发音与初级会话	A1/初級	2

	複文トレーニング	复句强化练习	B1/中級	4
	中検 3 級対策	中检 3 级应试对策	A2/初級	2
○	留学体験発表会	Presentation of Study Abroad Experience	A2-C1/ 初中級-上級	30
○	学生共同プロジェクト 1	Group Work Project 1	A2-C1/ 初中級-上級	19
○	学生共同プロジェクト 2	Group Work Project 2 (Global Writing)	A2-C1/ 初中級-上級	9

[表 3-4 平成 26 年度 iCoToBa サマープログラム開講科目]

指 定	科目名称	各言語科目名称	レベル	受講 者数
○	英語で日本 PR プロジェクト ー日本の魅力を発信しよう！	J-Ambassador	A2-C1/ 初中級-上級	5
○	比較文化セミナー： 英語圏を知りつくそう！	Comparative Study of Cultures -The English-Speaking World -	A2-B2/ 初中級-中上級	5
	TOEFL ITP 受験対策 1	TOEFL ITP: approach1	A2-C1/ 初中級-上級	33
	TOEFL ITP 受験対策 2	TOEFL ITP: approach2	A2-C1/ 初中級-上級	
	TOEFL ITP 受験対策 3	TOEFL ITP: approach3	A2-C1/ 初中級-上級	
	検定試験対策講座 TOEIC	TOEIC Intensive	A2-C1/ 初中級-上級	8
	検定試験対策講座 Listening 1	Listening For Exams 1	A2-C1/ 初中級-上級	5
	検定試験対策講座 Listening 2	Listening For Exams 2	A2-C1/ 初中級-上級	8
	検定試験対策講座 Reading 1	Reading For Exams 1	A2-C1/ 初中級-上級	8
	検定試験対策講座 Reading 2	Reading For Exams 2	A2-C1/ 初中級-上級	9

	思い出しフランス語 I	Le français dans la tête I	A2-B1 /初中級-中級	9
	思い出しフランス語 II	Le français dans la tête II	B2~/ 中上級以上	
	サバイバルスペイン語 (サンティアゴ大学夏期講座 受講生対象)	Español práctico	A2/初中級	5
	夏休みスペイン語力向上	¿Cómo te lo pasas en tus primeras vacaciones?	A1/初級	7
	ミュンスター大学夏期講座 受講生対象コース①	Münster, wir kommen! － Praktisches Vorbereitungs －blockseminar ①	A1-A2/ 初級-初中級	24
	ミュンスター大学夏期講座 受講生対象コース②	Münster, wir kommen! － Praktisches Vorbereitungs －blockseminar ②	A1-A2/ 初級-初中級	
	ミュンスター大学夏期講座 受講生対象コース③	Münster, wir kommen! － Praktisches Vorbereitungs － blockseminar ③	A1-A2/ 初級-初中級	18
	ドイツ語の映画館	iCoToBa-Kino	B1-B2/ 中級-中上級	6
	声に出して読んでみたい 中国語 1	朗読 1	A1-B2/ 初級-中上級	10
	声に出して読んでみたい 中国語 2	朗読 2	A1-B2/ 初級-中上級	
	中国語を読んでテーマにつ いて話してみよう 1	阅读与会话 1	A1-B2/ 初級-中上級	4
	中国語を読んでテーマにつ いて話してみよう 2	阅读与会话 2	A1-B2/ 初級-中上級	

[表 3-5 平成 26 年度 iCoToBa スプリングプログラム開講科目]

指 定	科目名称	各言語科目名称	レベル	受講 者数
	検定試験対策講座※	TOEIC 600 Basic	A2-C1/初中級-上級	18
	検定試験対策講座 1	TOEFL ITP	A2-C1/初中級-上級	2

	検定試験対策講座 2	Quick TOEFL	A2-C1/初中級-上級	1
	検定試験対策講座 3	Quick IELTS	A2-C1/初中級-上級	5
	フランス Go!	À vos marques, prêts...français !	A1-B2/初級-中上級	2
	スペイン語圏を 知ろう	Conoce los países donde puedes estudiar español	A1-B1/初中級-中上級	6
	スペイン語の地域差	Diferencias en el español de varios países	A2-B2/初中級-中上級	1
	中検対策 1	中検 3 級 考试辅导 1	A2-B2/初中級-中上級	7
	中検対策 2	中検 3 級 考试辅导 2	A2-B2/初中級-中上級	7
	中検対策 3	中検 3 級 考试辅导 3	A2-B2/初中級-中上級	2
	中検対策 4	中検 3 級 考试辅导 4	A2-B2/初中級-中上級	3



[iCoToBa での授業風景]

③異文化交流イベントの実施

iCoToBa では、本学の学生の異文化理解および異文化交流を促進するために定期的にイベントを開催している。平成 26 年度に実施したイベントは、以下のとおりである。

[表 3-6 平成 26 年度 iCoToBa イベント]

実施日	時間	イベント名	参加者数 (学外)
4 月 15 日	16:30～19:30	International Cooking Event	125
4 月 16 日	13:45～16:00	留学生歓迎会	30
5 月 21 日	13:00～14:30	中国交流会	12
6 月 17 日	18:00～19:30	Australian BBQ	46
6 月 24 日	10:30～13:00	Washington & Jefferson 大学学生交流会	18 (6)
10 月 15 日	12:30～14:30	留学生歓迎会	61
11 月 4 日	12:10～12:40	TOEIC ランチョンセミナー	36

12月9日	17:40～19:30	餃子パーティ	28
12月24日	13:00～18:00	Weihnachtsfeier / German Christmas Party	50
12月25日	12:10～14:20	Brett's Christmas Party	33
1月15日	12:50～16:00	フランス語 午後の交流	26
2月6日	16:15～18:00	書初め大会	16



[4月15日 International Cooking Event]



[6月17日 Australian BBQ]



[10月15日 留学生歓迎会]



[2月6日 書初め大会]

④留学報告会の実施

iCoToBa では、「グローバル人材プログラム」の一環として留学を終えた学生が、自身の留学体験をふりかえり、今後留学を計画している学生に充実した情報を提供するために、定期的に留学体験発表会を開催している。平成26年度後期からは、留学学生数の増加に伴い、週2回開催した。

[表 3-7 平成26年度留学報告会一覧]

月日	留学先大学・機関	国名	参加者数
4月17日	Universidad de Las Americas	メキシコ	25
4月24日	Center of English Studies, Oxford	イギリス	7
5月8日	Chichester College	イギリス	6

5 月 15 日	International Language Academy Van West College Vancouver, EF Toronto	カナダ	10
5 月 22 日	Browns Language School	オーストラリア	10
5 月 29 日	Kaplan International College Boston、EF Boston	アメリカ	13
6 月 5 日	California State University, Northridge	アメリカ	13
6 月 12 日	4 ヶ月間世界一周旅行		29
6 月 19 日	南京師範大学	中国	15
6 月 26 日	四川師範大学	中国	10
7 月 3 日	Arizona State University 春期講座	アメリカ	8
7 月 10 日	NZLC, Auckland	ニュージーランド	3
7 月 17 日	Universität Leipzig	ドイツ	27
10 月 16 日	Ashland University	米国	8
10 月 21 日	Universität Köln	ドイツ	15
10 月 23 日	Université Charles de Gaulle-Lille3	フランス	10
10 月 28 日	北京語言大学	中国	10
11 月 4 日	University of East Anglia 夏期講座	英国	6
11 月 6 日	Universidad de Las Americas	メキシコ	9
11 月 11 日	華東師範大学夏期講座	中国	9
11 月 13 日	Ohio State University	米国	7
11 月 18 日	Arizona State University 夏期講座	米国	11
11 月 20 日	Universidad de Santiago de Compostela	スペイン	11
11 月 27 日	Universität Leipzig	ドイツ	30
12 月 2 日	Universidad de Alicante	スペイン	14
12 月 4 日	Universität Münster 夏期講座	ドイツ	17
12 月 9 日	Université Stendhal Grenoble 夏期講座	フランス	4
12 月 16 日	Université Jean-Monnet 夏期講座	フランス	11
1 月 15 日	400 日世界一周旅行		15
1 月 22 日	University of Queensland	オーストラリア	5

⑤ iCoToBa 利用者数の推移(平成 26 年 4 月～12 月)

[表 3-8 平成 26 年度 iCoToBa 利用者一覧(外国語学部)]

平成 26 年 4 月～12 月(人数はのべ数)

入学年度	英米	フランス	スペイン	ドイツ	中国	国際 関係	計
2014	369	266	783	619	291	399	2,727
2013	305	112	907	556	155	205	2,240
2012	59	45	92	30	26	194	446
2011	125	29	42	76	194	38	504
2010 以前	25	40	19	85	14	25	208
計	883	492	1,843	1,366	680	861	6,125

[表 3-9 平成 26 年度 iCoToBa 利用者一覧(外国語学部以外)]

平成 26 年 4 月～12 月(人数はのべ数)

入学 年度	日本文化		教育福祉		情 報	大学院	交換 留学生※	計
	国語国文	歴史文化	教育発達	社会福祉				
2014	11	13	1	8	9	8	309	359
2013	7	6	1	0	6	5	70	95
2012	5	1	0	1	0	2	0	9
2011	0	0	0	0	1	8	0	9
2010 以前	0	0	0	0	0	6	0	6
計	23	20	2	9	16	29	379	478

※海外学術交流協定大学からの特別聴講学生を指す (人数はのべ数)

平成 25 年度の外国語学部生の利用者数(4 月～12 月:5,340 人)と比べ、平成 26 年度は大幅に利用者が増えた。年度始まりのガイダンスや異文化交流イベントなどの効果が表れていると言えるだろう。外国語学部以外の学生については、昨年度(4 月～12 月:451 人)と比して、ほとんど増えていない。平成 27 年 2 月に他学部生を対象とした TOEIC 講座を開始したが、これを契機に外国語学部以外の学生にも iCoToBa の認知度を高めていきたい。

⑥教材開発・授業実践報告

iCoToBa では、グローバル人材育成推進事業で目標としている能力養成を目指し、教育実践に基づく教材開発に取り組んでいる。平成 26 年度は、これらの成果として、3 冊の教材と 2 冊の授業実践に関する報告書を作成した。

[教材開発]

- a) Survival English Course Book (英語)
- b) Word Power Student Book (英語)
- c) 中国与日本的文化比较 (中国語)

[授業実践報告書]

- d) Inquiries into the Global (英語)
- e) Haikuschrift (ドイツ語)

4. 平成 26 年度の評価

①効果が表れていること

平成 25 年度に実施した iCoToBa ガイダンスや授業開講の結果に基づく改善に取り組み、本年度の iCoToBa 利用者数は前年度比 14%強の増加となった(平成 25 年度:5791 人→平成 26 年度:6603 人)。利用者の増加については、iContact の時間を 13.5 時間から 19.5 時間に増やし、予約制度を取り入れたことも理由として挙げられよう。

また、iCoToBa 科目受講者数も、前年度 1509 人(のべ数)から、本年度:1803 人(のべ数、サマーおよびスプリングプログラム除く)と大幅に増えている。

このほか、異文化交流イベントを 12 回、留学報告会を 30 回開催するなど、定期的に iCoToBa に「ニュース性」を持たせるよう工夫した。また、これらのイベント告知や報告を manaba コミュニティや iCoToBa の Web サイトで発信したことも利用者増加に効果的だったと言えるだろう。

②改善すべきこと

本年度は、iCoToBa の受講者数も増え、一定の成果をみることができた。しかしながら、「グローバル人材プログラム」指定科目の受講者および合格者数は、言語や指定科目によりばらつきがみられ(平成 26 年度合格者数 3~40 人)、本事業最終年度(平成 28 年度)の目標達成(卒業学生の 50%がプログラム修了)の達成には、大きな努力をしなければならない。「グローバル人材プログラム」指定科目開講数の増加と共に、学生の受講しやすい時間帯の調査、および学修への動機づけをより強める取組が必要である。

5. 平成 27 年度に向けての方策

次年度に注力する課題は 3 つある。

平成 27 年度の iCoToBa は、上記「改善すべきこと」に挙げた「グローバル人材プログラム」の受講者数・合格者数の増加を第 1 目標とする。まず、各言語の指定科目について、平成 26 年度の実績数値を基に、それぞれ目標人数を(学年定員 51%～80%)設定した上でガイダンスなどを徹底し、受講者増を目指す。

次に、第 2 外国語として履修している学生を対象とした授業や講座等を充実させ、「グローバル人材プログラム」の修了要件である複言語能力向上を目指す。

第 3 に、すそ野を広げるための iCoToBa 利用者数の増加である。利用者数は昨年度と比べ増えている(平成 25 年度 1 日あたり 46 人、26 年度 53 人)が、来年度は目標値を 60 人に定め、iCoToBa でのイベントおよび iContact の実施に工夫を加える。

4. 学修支援

本事業では、学生の主体的な自律学習と効果的な語学能力養成をめざし、学修支援を行っている。第4章では、本事業で導入した2つのシステム(e-Learningとインターネットポートフォリオ)、および、語学学習アドバイジングについて述べる。

4-1. e-Learning プログラム

1. 概要

平成26年度も前年度と同様、学生の自立学習支援の一環として、以下の6種類のe-Learningコンテンツを採用している。

- a) ALC NetAcademy 2 (アルク)
- b) Rosetta Stone (ロゼッタストーン)
- c) WORKOUT フランス語検定(スパーズ)
- d) AVE Aula Virtual de Español (Instituto Cervantes)
- e) WORKOUT ドイツ語検定(スパーズ)
- f) 中国語検定過去問 WEB(高電社)

ロゼッタストーンのIDは外国語学部学生専用だが、その他のプログラムは、外国語学部学生以外の、第2外国語の授業で各言語を学習する他学部の学生も利用可能である。なお、ALC NetAcademy 2については、希望する職員全員にIDを配布しており、職員研修の一環としても活用されている。

2. 平成26年度の目標

学科・専攻におけるe-Learningガイダンスを実施し、学生の学習動機付けを高める。また、学科・専攻で、利用状況について把握するとともに、効果的な利用方法について、正課科目での活用を含め、検討・実施する。iCoToBa 語学学習コーディネータによるe-Learning利用促進のための講座・イベントを策定、実施する。

3. 平成26年度の実績

①利用状況

平成26年度の利用状況は以下のとおりである。

[表 4-1 平成 26 年度 e-Learning 利用状況]

コンテンツ名	対象者	配布 ID 数	
		H.25	H.26
ALC NetAcademy 2	本学の全学生および教職員	2,856	3,911
Rosetta Stone	英米学科:利用希望者 フランス語圏専攻:利用希望者 スペイン語圏専攻:2 年生以上利用希望者 ドイツ語圏専攻:前期利用希望者 後期 1 年生、利用希望者 中国学科:3 年生 国際関係学科:前期 2 年生、後期 1 年生 ポルトガル語 I, II 履修者	794	363
WORKOUT フランス語検定	フランス語圏専攻 フランス語 I, II, III (教養科目) 履修者	689	851
WORKOUT ドイツ語検定	ドイツ語圏専攻 ドイツ語 I, II, III (教養科目) 履修者		
AVE Aula Virtual de Español	スペイン語圏専攻 スペイン語 II, III (教養科目) 履修者	325	216
中国語検定過去問 WEB	中国学科 中国語 I, II, III (教養科目) 履修者	503	445

②ガイダンスおよび学生サポート

新学期に開催される学科・専攻別新入生ガイダンスでIDの配布とe-Learningに関する説明、使い方に関するリーフレットを配布した。その後、iCoToBaガイダンスの2回目(第3章参照)でパソコン操作も含めた講習を実施し、新入生全員が講習を受けた。また、本年度は自由参加のALC NetAcademy 2とロゼッタストーンのガイダンスを、4月~5月に5回実施した(4月23日、5月8日、16日、19日、27日)。これに加え、マンツーマンで質問できるe-Learningランチタイムセッションを週3回(水、木、金)設け、個別対応体制も整えた。第2外国語のIDについては、5月末までに授業内でIDとマニュアルを配布し、周知を徹底した。

③各言語プログラムに関する利用状況

[英語:ALC NetAcademy 2・ロゼッタストーン]

平成 26 年度、ロゼッタストーンの学習時間が最も長く、またアルクの利用率が最も高かった学科・専攻は国際関係学科であった。これは、ロゼッタストーン、アルクの「スーパースタンダー

ドコース」(「リーディング」)ないしは「TOEIC テスト演習 2000 コース」が、国際関係学科の授業科目である「オーラルコミュニケーション I」、「リーディング I」ないしは「オーラルコミュニケーション中級」の特別課題やテストの範囲に指定されたことの反映と考えられる。

今後の課題としては、アルクとロゼッタストーンが授業の特別課題等の対象とされていなくとも、学生にそれらを積極的に学習する意欲を持たせることが挙げられ、そのために引き続きガイダンス等による啓発が求められよう。

[フランス語:WORKOUT フランス語検定]

e-Learning システムについて、利用率はまだあまり高いとは言えない。本コンテンツは利用者の要望に合わせてカスタマイズすることが可能であるため、内容をさらに精査し、より良いものに仕上げ、今後の合格率上昇をはかる(平成 26 年度の団体受験の一次試験の合格率は、準 1 級が 19.4%、準 2 級が 60.0%、3 級が 13.0%である。参考:全国の合格率は、準 1 級が 28.0%、準 2 級が 60.9%、3 級が 59.7%)。

[スペイン語:AVE Aula Virtual de Español スペイン語オンラインコース]

平成 26 年 5~6 月にかけて、6 回ガイダンスを実施。専攻語学科目、全学共通科目「スペイン語 II」の担当者に ID を配布し、「外国語授業改善研修会」において担当者に説明している。1、2 年生の語学の授業によっては AVE を課題として指示しているクラスもある。とくに、長期休業期間に既習事項の復習や、聴き取り能力を伸ばすには効果的である。秋の DELE 対策としても使用されてきたが、4 年生の使用率が低い。

[ドイツ語:WORKOUT ドイツ語検定]

2 年生以上の学生には、前年度と比べるとプログラムの周知が進んだ。その一方で、実際に上位級プログラムの学習を終えた学生からは、「問題数が少ない」との指摘もあった。本コンテンツは利用者の要望に合わせてカスタマイズすることが可能であるため、さらなる内容の充実をはかり、より多くの受検者のニーズを反映させ、合格率アップへと結びつける必要がある。

平成 26 年度秋季の学内独検受検者の合格率(平成 27 年 2 月)は、準 1 級(二次試験終了後の結果)が 45%、2 級が 33%、3 級が 100%(全国平均は、それぞれ 28%、40%、56%)であった。準 1 級二次試験の合格率は前年度より上がっているため、留学経験者を中心とした 4 年生が積極的に準 1 級の受験に取り組んだことがうかがえる。そこから、2 年生の 3 級の合格者がモチベーションを保って上位級を引き続き目指せるように利用環境を整えること、また、2 級、準 1 級の不合格者の苦手分野を把握して、重点的に取り組む項目を絞り込むための学習アドバイスがより一層必要であると考えられる。

[中国語:中国語検定過去問 WEB]

平成 26 年 11 月の検定団体受験結果を含めての合格状況は、専攻学生については、2 年生の 11 月の時点で、3 級が約 63%、4 年生の 11 月の時点で、2 級が約 33%という結果である。2 年次の 3 級の不合格者の結果をみると、リスニングよりも筆記試験に難があることが分かる。中級段階を抜けるためには 3 級レベルの中国語文法をしっかり押さえて次の段階へ行く必

要がある。底上げを考えるならば、何らかの対策を考える必要がある。また、4年次の2級については、合格者は留学経験者、ならびに学習を着実にしてきた学生である。不合格者については、3年次終了後進歩がなかったか、リスニング、筆記ともに伸び悩んでの結果と考えられる。

これらの受験結果以外で特記すべきは、より上のレベルである準1級の合格者が少しずつでてきたことである。これらは当該学生が、より高い志をもって学習を進めた成果であり、彼らの努力の結果そのものである。今後も e-Learning 学習を続けて利用を推進していけば、よりよい結果が見込めると考えられる。

[ポルトガル語:ロゼッタストーン]

教養外国語科目であるポルトガル語Ⅰ、ポルトガル語Ⅱでは、ポルトガル語に授業以外で接する機会が少ないことから、平成26年度、自習用としてロゼッタストーンの活用をすすめている。履修学生へのアンケート結果から、教材の使用に際して、あるいは、教材そのものの構成に関して、いくつか課題は見られるものの、週に2回という限られた授業時間数において、扱う学習項目も数多くあり復習にそれほど多くの時間が割けない中で、授業以外で取り組むロゼッタストーンでの「反復練習」が文法を定着させること、語彙量を増やすこと、正しい発音を身につけること等、総合的な外国語学習に効果をもたらしている様子がみてとれた。また、ロゼッタストーンで学習することが、ポルトガル語だけでなく、その他の外国語に対する関心へとつながり、履修生の多言語学習への足がかりとなっている事例もみられた。以上の効果から、来年度以降も外国語の自律学習の助けとして、ロゼッタストーンをはじめとする e-Learning 教材を上手に活用していく予定である。

本年度、e-Learningと専攻授業との関連づけ(=e-Learningの段階的な学習を単位取得の要件とする)に関しては、上記の国際関係学科(ロゼッタストーン、アルク「英語」)、ならびにドイツ語圏専攻(ロゼッタストーン「ドイツ語」)の例が挙げられる。

ドイツ語圏専攻では、前年度に続き、1年生の専攻語学科目の単位取得要件として、ロゼッタストーンの学習を義務づけている。前年度の通年導入の混乱に対する反省を踏まえ、平成26年度は1年生後期のみ必修としたところ、前年度の学習が消化不良で終わった現行の2年生(利用希望は任意)の学び直しが増え、前期は1年生以外のドイツ語プログラム利用者が大幅に増えた。これには、26年度に開始したミュンスター大学夏季短期留学との相乗効果が挙げられる。留学準備のために2年生以上の学生がプログラムを積極的に利用する結果となった。また、1年生の夏季にドイツ語圏留学を体験した学生にとっては、後期からのプログラム利用は帰国後のフォロー的側面をもつ。いずれせよ、後期の授業を受ける1年生にあつては、留学経験の有無にかかわらず、ドイツ語学習をらせん状に補完する手段としてロゼッタストーンが活用されている。

一方で今後に向けての課題もある。学生がドイツ語(だけでなく別の言語にも置きかえ可能)を学ぶ動機は、各種検定試験対策、留学のための個々人の準備を始めとして多岐にわたるた

め、既存の専攻の文法・講読科目、会話やコミュニケーションを重視した授業との相互作用に対して、授業担当者・管理者には準専門的、分析的な視点が求められる。ロゼッタストーンは有益なプログラムではあるが、利用者にとっては一定のニーズがある一方で、大学での専門的知見を深めるためには物足りないなどの、内容面での「限界」も客観的に捉え、その点を踏まえた上で今後専門科目をより豊かなものとすることが不可欠だろう。

4. 平成 26 年度の評価

①効果が表れていること

e-Learning に関する新年度ガイダンスを徹底したことにより、学生への周知および、配布 ID 数は全般的に伸びている。(ロゼッタストーンは、本年度は予算の関係上、利用可能 ID が昨年度から 50%減になっている)。また、教員への周知も進み、教養外国語科目においても、e-Learning を課題に取り入れたり、自習用として勧められるようになってきた。

また、ロゼッタストーンは iCoToBa のパソコンで学生が自由に利用でき、ID を持っていない学生が利用するなど、iCoToBa 利用者の e-Learning 使用が増えてきている印象である。

②改善すべきこと

e-Learning の利用率を高めるためには、正課の課題などに結び付け学生が取り組まなければならない理由をつくる必要があるが、e-Learning を終了させることそのものを目的とさせないような課題設定こそが重要であると、昨年度の報告で指摘した。国際関係学科では、昨年度の反省を基に、e-Learning の内容に基づいた小テストを実施し、「プログラムの終了」ではなく「到達度」を見る方法に改めた。このことが、実質的な学習への転換に役立ったと思われるが、反面、教師が問題作成をしなければならないなど負担も多いため、この点をどのように改善していくかが課題である。

また、現状では e-Learning の導入が、即検定合格数値に結びついているとは言えない。上記の実績での報告の通り、各学科・専攻で効果的な使用方法について本年度検討されているが、さらに検証を進めていく必要がある。

5. 平成 27 年度に向けての方策

本年度に実施したガイダンスは一定の効果があったと考えられるので、平成 27 年度もガイダンスを充実させる。また、e-Learning の利用率を高めるために、正課との結び付けについて、各学科・専攻で検討し、効果的な実施につなげる。

4-2. インターネットポートフォリオ

1. 概要

自律的な学びを支援するツールのひとつに、「学習ポートフォリオ」がある。本事業では、平成25年2月に「インターネットポートフォリオ manabafolio(以下、manaba)」を導入している。本来、学習ポートフォリオは、学習経験と成果、レポートなどの学習成果物を記録、保存し、学生の自律的な学習マネジメント能力を高めるためのものであるが、インターネットポートフォリオである manaba は、従来の学習ポートフォリオに加え、遠隔地での指導が可能であることや、同じ科目を履修している学生とのピア・ラーニングができるため、留学中の学生への指導や、海外協定大学との協働による教育も可能となる。

本学では、manaba を以下の機能で活用している。

[学修記録]

- a) 外国語学部「グローバル人材プログラム」の履修記録
- b) 学習成果の記録

[ピア学習の促進]

- c) 授業での課題・報告へのピアフィードバック
- d) インターネット上で議論を深める

[教材提示・留学・国際交流情報の提供]

- e) 配布プリント、音声・映像教材の提供
- f) iCoToBa、国際交流室の情報発信

[コミュニティの形成]

- g) 学生の組織化の促進

[教職員の情報共有]

- h) グローバル人材育成推進室会議および iCoToBa 委員会の会議資料等の共有

2. 平成 26 年度の目標

新年度ガイダンスで新入生へのオリエンテーションを徹底する。iCoToBa および正課授業での運用を進める。留学中の学生指導および生活支援に manaba を活用する。これに加えて、manaba を活用した教育実践事例の蓄積をし、本学教員と情報共有を進める。学生および教員の利用を高めるために、manaba のコミュニティ機能を活用し、情報発信を行う。また学修記録の蓄積を進めるための講座を実施する。到達目標を明示し、自律学習を進めるための Can-do リスト試案を作成し、試用する。

3. 平成 26 年度の実績

①iCoToBa ガイダンスによるオリエンテーションの徹底

実施内容については、第 3 章を参照いただきたい。

②留学する学生への指導および連絡ツールとしての活用

iCoToBa で開講している「リサーチ・発信プロジェクト②(留学中科目)」で manaba を利用し、定期的にレポートを提出させ、それに対するフィードバックを実施した。また、留学予定の学生に対する事務連絡および、事前準備などの情報提供への活用と、留学中の学生との連絡ツールとして活用している。昨年度の課題として挙げた、留学先においてパソコンでインターネットにすぐアクセスできなかった事例については、事前にインターネット環境を確認するなど、学生にとって不利益が出ないように配慮している。

③ manaba によるコミュニティの形成と情報発信

平成 25 年 4 月の manaba 導入時から、外国語学習や留学、研究ゼミなどに関するコミュニティを立ち上げている。また、学生に manaba が浸透するにつれ、学生の自主的なグループもコミュニティを形成しつつある。平成 27 年 2 月現在、64 のコミュニティが立ち上がっており、さまざまな情報発信が行われている。

特に、活発に活動しているのが「留学について話そう！(参加者数 363 人)」「みんな集まれ iCoToBa 広場(参加者数 269 人)」と「iCoToBa Supporters Club(参加者数 56 人)」である。

コミュニティ「留学について話そう！」は、留学している学生および留学を希望している学生が情報を共有するコミュニティで、生の海外情報を得ることができる。平成 26 年 4 月～平成 27 年 1 月のコメント数は 711 であった。

コミュニティ「みんな集まれ iCoToBa 広場」では、iCoToBa で実施しているイベント情報やグローバル関連情報について発信を続けている。平成 26 年 4 月～平成 27 年 1 月のコメント数は 56 であった。

コミュニティ「iCoToBa Supporters Club」は、iCoToBa で自主的にイベントを企画実施するリーダー学生のコミュニティである。平成 26 年 4 月～平成 27 年 1 月のコメント数は 18 であった。

④e-portfolio ワーキンググループによる到達目標の作成

e-portfolio ワーキンググループでは、昨年度に引き続き、到達目標案について吟味を重ね、本事業外国語到達目標(p.7 参照)について英語、スペイン語、ポルトガル語、日本語の 5 技能別到達目標を作成した。また、英語については、Can-do リストを作成し、学生にとって使いやすいかどうか試用し、平成 27 年度から学生の外国語学習記録に活用に向けて準備を進めた。

⑤ manaba を活用した教育実践の発信

本学グローバル人材育成推進室が実践している manaba を活用した教育について、本年度は、以下の発表を行なった。

a) 東洋大学主催「学生の海外体験学習とグローバル人材育成にかかわる研究大会」

(平成 26 年 11 月 22 日 於東洋大学)

パネルディスカッション「グローバル教育と E ポートフォリオポートフォリオを活用した学習成果分析の実例からー」

タイトル「愛知県立大学のグローバル人材育成推進事業での取り組み:インターネット・ポートフォリオを活用した教育実践と課題」

発表者:宮谷敦美(グローバル人材育成推進室 副室長)

また、到達目標作成について、e-portfolio ワーキンググループメンバーが以下の発表を行なった。

b) 愛知県立大学高等言語教育研究所第 16 回言語教育研究会(平成 26 年 8 月 7 日)

タイトル「専攻言語・第 2 外国語における外国語到達目標と Can-do リスト作成に向けてー外国語学習の動機づけと自律学習能力養成のためにー」

発表者:宮谷敦美(国際関係学科)

江澤照美(ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻)

高阪香津美(国際関係学科)

エデボールズ ファーン(iCoToBa)

4. 平成 26 年度の評価

①効果が表れていること

新年度ガイダンスの徹底による学生への manaba の周知、manaba を活用した留学中の学生への指導、および連絡ツールとしての活用は順調に進んでいると評価できる。加えてコミュニティの形成により、留学を希望する学生に対して、現地の情報提供や留学への動機づけなど、双方向コミュニケーションに基づく留学支援ができています。

また、昨年度より取り組んできた「グローバル人材プログラム」の履修記録に加え、業務上でもグローバル人材育成推進室会議、iCoToBa 委員会の議事録、資料などの共有管理に十分活用できている。さらに必要に応じてネット上の議論により迅速な意思決定ができるなど、本事業遂行においての活用も進んでいる。

②改善すべきこと

昨年度も指摘したことであるが、全学の教務システムとして Universal Passport (以下、UNIPA) が導入されており、教員にとって manaba 使用のインセンティブが十分でないため、依然、正課授業での利用については課題が多い。また、ピア学習やコミュニティ機能としての活用は本年度十分進んできてはいるが、学びの蓄積については十分とは言えない。そこで、平成 27 年 2 月に実施した「就活直前キャリア講座」で、キャリア支援の観点に立ったポートフォリオ作りに取り組んでいる。ここでの実践を基に、来年度「学びの蓄積」としてのポートフォリオを充実させる必要がある。

5. 平成 27 年度に向けての方策

語学学習の到達目標を明示し、自身の成長をモニターできる Can-do チェックリストに記録をつけるためのシステムを構築する。また、キャリア講座での実践に基づき、初年度からポートフォリオを継続的に記録するための取り組みを行う。

また、平成 27 年度は、iCoToBa 科目での運用を増やすとともに、具体的な教育実践について、教員とさらなる情報共有をはかる。

4-3. 語学学習アドバイザー

1. 概要

学生の外国語学習のサポートを目的として、語学学習アドバイザー教員がiCoToBaに常駐し、アドバイジング業務を担っている。主な業務は次の2つである。①海外留学準備としての外国語学習および留学後のフォローアップ、②TOEIC、IELTS、TOEFLなどの検定試験対策に関するアドバイジング。週10コマの語学検定対策を中心とした授業に加えて、カウンセリングによる学生対応を実施するため、週6回のアドバイジングアワーを設定している。

2. 平成26年度の目標

次の3点に関わるアドバイジングにより、学生の語学学習に対する意欲づけおよび語学力向上を図る。

まず、留学に必要な語学力に関するアドバイジングである。英語圏留学に際して、学部留学希望者は英語力の証明としてTOEFLまたはIELTSのスコア提示が留学先より求められる。語学留学ではなく、大学学部留学を実現させたいという強い希望をもった学生対象にカウンセリングを実施する。

次に、グローバル人材プログラム修了要件の一つにTOEICなどの検定試験のスコアがあり、学生の外国語学習の動機づけの一つとなっている。就職活動時に語学力の証明としてTOEICスコアを提出することが多いため、TOEIC受験前に短期間で英語力を伸ばしたいと学生からの相談に対応する。

最後に、e-Learningの活用の推進である。iCoToBaのSelf Study Spaceに設置されている14台のパソコンを用い、効果的利用方法を学生に紹介する。外国語学習における学生の自律学習を促す。

3. 平成26年度の実績

個別面談を中心としたアドバイジングにより、きめ細かい対応ができた。

留学希望の学生の学習歴やテストにおける弱点などを把握したうえでのアドバイスを心がけた。具体的なアドバイス内容としては、問題集の紹介やスピーキングとライティングの学習方法に加え、それぞれのテストの問題構成や採点方法についても解説している。その際、学生からは過去問(模擬試験問題など)を用いて攻略方法を重点的に解説してほしいという要望を受け、実施した。また、学生のスピーキング力向上のため、ネイティブ教員とのセッションのコーディネートを行なった。

グローバル人材プログラム修了要件としてのTOEICスコアに関してだけでなく、中学校および高等学校の英語教員志望の学生からは、受験資格にTOEICスコアが有効であるため、就職試験対策の一環としてのTOEIC受験に対するアドバイスを求められることもあった。この

場合、総合的な語学力強化よりむしろ戦略的かつ集中的にスコアのアップを達成するためのアドバイスをを行った。

また、外資系または海外勤務を希望する学生から履歴書作成に関わる相談を受けることもあった。このような相談には日本語の履歴書との違いを踏まえ、カバーレター（添え状）も含めた指導と、実際に作成したものについて助言を行った。

学生の自律学習能力養成のために、週に2時間 e-Learning アワーを設定している。また、e-Learning 強化週間を設定し、より多くの学生が e-Learning を積極的に活用するように働きかけた。

4. 平成 26 年度の評価

①効果が表れていること

検定対策講座を受講した学生は、スコアに改善がみられ、全員が目標スコアを達成した。

留学準備として、TOEFL や IELTS を受験する際のスピーキングセクションおよびライティングセクションではリスニング力が大きく関わってくる。そのため、聞く能力を高める学習方法として、特にシャドーイングの指導を行った。加えて、長期休暇中の個別セッションでは、きめの細かい指導を活かし、学生のスコアアップにつなげた。

②改善すべきこと

i-CoToBa では e-Learning を各種検定対策講座で用いているが、これ以外では学生の利用実績が十分に伸びていないという課題がある。利用方法や効果を定期的かつ継続的に学生に知らせ、意識を高めたい。

外国語学習をサポートする上で、多文化を理解することや留学先でのコミュニケーションのとり方などを身につけることは、留学のための試験勉強と同様に大切である。学生には、外国人教員と自由に会話することで、外国語によるコミュニケーション能力の強化ができるよう iContact の時間を設定している。しかしながら、利用者に偏りがみられ、利用者数が多いとは言えない状況である。

5. 平成 27 年度に向けての方策

本年度に行なったさまざまな講座により、語学学習アドバイザーの存在が学生に認知されてきたと言える。平成 27 年度は、学生のニーズも踏まえながら、英語だけでなく、複言語習得に向けたアドバイジングを行なう。そのために、外国語学習の動機づけや e-Learning を活用した学習アドバイスを積極的に進めていきたい。

5. 語学検定

1. 概要

本大学の「グローバル人材育成推進事業」において、目標のひとつに複数言語の習得をあげている。その達成度の指標の一つとして、語学検定を用いる。具体的に、英語を専攻言語とする、英米・国際関係学科においては、TOEIC 800 点または TOEFL iBT 88 点以上に加え、第 2 外国語においても決められた語学検定に合格する必要がある。逆に、英語を専攻言語としない、ヨーロッパ学科および中国学科においては、TOEIC 730 点または TOEFL iBT 80 点以上に加え、各自が専攻する外国語について、指定の語学検定に合格する必要がある。

語学力評価の方法として、英語は TOEIC で実施し、年に 1 度、外国語学部全学年の受験を大学が負担する。フランス語は実用フランス語技能検定、スペイン語は欧州共通言語参照枠 CEFR(DELE)、ドイツ語はドイツ語技能検定試験、中国語は中国語検定を使用し、これらの外国語を専攻言語または第 2 外国語として選択している 2 年生および 4 年生が受験する。本年度は、TOEIC を平成 26 年 12 月 3 日(3、4 年生対象)と 11 月 23 日(1、2 年生対象)に実施した。実用フランス語技能検定は 11 月 16 日、DELE は 11 月 22 日、23 日の両日、ドイツ語技能検定試験と中国語検定は、11 月 23 日に実施された。また、教員間の本事業達成目標の認識を高めるために、平成 26 年 12 月 24 日に外国語学部において英語教育 FD を実施した。

2. 平成 26 年度の目標

構想調書の目標設定シートでは、平成 26 年度卒業生の複数言語能力達成人数を 50 人と設定している。その内訳は、英米学科・国際関係学科 15 名、ヨーロッパ学科 28 名、中国学科 7 名である。

3. 平成 26 年度の実績

①結果と分析

本報告書作成時点では、今年度の結果は TOEIC と中国語検定の結果のみ出ている。実用フランス語能力検定、DELE、ドイツ語技能検定はまだ今年度の結果が出ていない。しかし、昨年度の報告書作成の時点においても、この三言語の試験の結果は出ておらず、昨年度の分の結果が報告できなかった。そのため、この三言語に関しては、1 年遅れではあるが、平成 25 年度の結果を報告する。

A. TOEIC

まず、2014 年度の学科・学年別の TOEIC の平均点については以下のとおりである。

[表 5-1 2014 年度 TOEIC 学年別平均点(カッコ内の数字は受験率)]

学科	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生以上
英米	622.9	685.1	663.4	784.8
国際関係	565.6	597.9	636.7	720.7
ヨーロッパ	509.1	546.4	552.7	603.3
中国	499.0	498.3	471.2	583.4

学年によってばらつきがあるが、おおむね上級生のほうが成績がよい。ただし英米学科では 3 年生の成績が低く、中国学科では 3 年生の成績が一番低く、2 年生も 1 年生をわずかな差で下回っている。

現在の 3 年生と 4 年生は、今年で 3 年分のデータが揃ったので、成績がどのように推移したかを見ることができる。まず、現 4 年生のデータを示す。

[表 5-2 2011 年入学生(現 4 年生)の成績の推移]

学科・専攻	2 年時(2012 年)	3 年時(2013 年)	4 年時(2014 年)
英米	平均 619.4 点 800 点以上 10 名 (受験者数 99 名)	平均 698.7 点 800 点以上 11 名 (受験者数 62 名)	平均 766.1 点 800 点以上 20 名 (受験者数 57 名)
国際関係	平均 598.5 点 800 点以上 3 名 (受験者数 47 名)	平均 660.0 点 800 点以上 6 名 (受験者数 30 名)	平均 698.7 点 800 点以上 10 名 (受験者数 35 名)
フランス	平均 488.9 点 730 点以上 1 名 (受験者数 50 名)	平均 540.7 点 730 点以上 2 名 (受験者数 15 名)	平均 588.0 点 730 点以上 2 名 (受験者数 36 名)
スペイン	平均 545.2 点 730 点以上 4 名 (受験者数 47 名)	平均 589.5 点 730 点以上 3 名 (受験者数 20 名)	平均 639.0 点 730 点以上 8 名 (受験者数 21 名)
ドイツ	平均 492.7 点 730 点以上 2 名 (受験者数 47 名)	平均 513.5 点 730 点以上 2 名 (受験者数 23 名)	平均 588.0 点 730 点以上 7 名 (受験者数 31 名)
中国	平均 510.6 点 730 点以上 2 名 (受験者数 51 名)	平均 530.6 点 730 点以上 1 名 (受験者数 25 名)	平均 589.0 点 730 点以上 2 名 (受験者数 23 名)

まず、平均点を見てみよう。どの学科も、1年ごとに上がっているが学科によって上がり方が異なる。英米では、1年ごとに平均点が約70点ずつ、国際関係では約50点ずつ、フランス、スペインでは約40～50点ずつ上がっている。ドイツと中国では、上がりかたにむらがあり、2年時と3年時の間には20点ほどしか上がっていないが、3年時と4年時の間でそれぞれ約70点、約40点上がっている。

次に目標(英米、国際関係は800点、他の学科は730点)を達成した学生数を見てみよう。英米、国際関係、スペイン、ドイツにおいては、3年時から4年時の間に目標点を超える学生がぐんと増えている。中国でも増えているが、達成した人数がそもそも少ない。スペインと中国においては、3年時で2年時より人数が減っている。これは、受験者数が減っていることのせいだと考えられる。どの学科も3年時は受験者が減っている。3年時に受験者が減る原因として、留学、就職活動の影響などが考えられる。

さらに、4年時に目標点以上を得点した学生の割合を表5-3にまとめた。表5-2と比べて、2014年の英米・国際関係学科の目標点達成者の数が増えている。これは、表5-2では県大で一括受験したものの数が出ているのに対し、表5-3には、それに加えて、自分で個別に受けてその結果を申告したものの数も入っているからである。

英米・国際関係学科4年生において、TOEIC 800点以上を得点したものは(在学中の4年生の数を母数とする)一昨年度が25.0%(136名中34名)、昨年度が26.3%(133名中35名)と増加したのに対し、今年度は24.8%(133名中35名)で、微減である。まだ目標の7割にはなかなか近づけない。英語を専攻言語としないヨーロッパ学科・中国学科においても、TOEIC 730点以上に到達したものは一昨年度が9.3%(140名中19名)、昨年度12.1%(204名中48名)、今年度が9.6%(138名中25名)と下がってしまい、目標の7割にはまだ遠い。

[表5-3 4年生で目標点をクリアした学生の割合(母数は4年生の在学者数)]

学科(目標点)	2012年	2013年	2014年
英米・国際関係(800点以上)	25.0%(34/136)	26.3%(35/133)	24.8%(33/137)
ヨーロッパ・中国(730点以上)	9.3%(19/205)	12.1%(24/198)	9.6%(19/198)

2012年度入学生(現3年生)の学年ごとの平均点の推移(表5-4)を見てみよう。英米、国際、フランス、スペインでは、1年ごとに上がっている。ただし、上がり方は、2011年度入学生が2年、3年、4年で割と均等に上がっていたのと比べると、むらがあるようである。英米、フランス、スペインでは、1年時と2年時の間にそれぞれ約80点、約70点、約50点上がっているのに、2年時から3年時にかけての上がり方は約20点、約10点、約30点と少ない。国際関係は1年時から2年時にかけて15点ほどしか上がっていないが、2年時から3年時には72点上がっている。ドイツは1年時から2年時にかけて約80点上がったが、3年時には2年時より下がってしまった。中国にいたっては、1年時から2年時にかけて25点ほど上がったが、3年時に

は1年時の平均点を下回ってしまった。目標点を超えた学生の数も、スペイン、ドイツ、中国で減っている。2年の時点で基準を超えている学生数は全学科合わせて20名で、2011年度入学生とほぼ同じだが、3年時で減ってしまっている(全学科合わせて10名)。

[表 5-4 2012 年入学生(現 3 年生)の成績の推移]

学科・専攻	1 年時(2012 年)	2 年時(2013 年)	3 年時(2014 年)
英米	平均 560.5 点 800 点以上 3 名 (受験者数 103 名)	平均 642.8 点 800 点以上 8 名 (受験者数 98 名)	平均 663.4 点 800 点以上 7 名 (受験者数 54 名)
国際関係	平均 548.8 点 800 点以上 1 名 (受験者数 43 名)	平均 564.1 点 800 点以上 1 名 (受験者数 40 名)	平均 636.7 点 800 点以上 2 名 (受験者数 23 名)
フランス	平均 463.5 点 730 点以上 0 名 (受験者数 47 名)	平均 530.0 点 730 点以上 0 名 (受験者数 40 名)	平均 539.2 点 730 点以上 0 名 (受験者数 6 名)
スペイン	平均 543.8 点 730 点以上 4 名 (受験者数 52 名)	平均 594.4 点 730 点以上 3 名 (受験者数 40 名)	平均 620.5 点 730 点以上 0 名 (受験者数 10 名)
ドイツ	平均 460.6 点 730 点以上 2 名 (受験者数 43 名)	平均 539.7 点 730 点以上 4 名 (受験者数 37 名)	平均 517.6 点 730 点以上 1 名 (受験者数 17 名)
中国	平均 474.0 点 730 点以上 1 名 (受験者数 54 名)	平均 502.8 点 730 点以上 4 名 (受験者数 41 名)	平均 471.2 点 730 点以上 0 名 (受験者数 17 名)

2011 年度入学生に関しても、3 年時に基準点を超えた学生数が減ってしまう、という現象があった。留学や就職活動で受験者が減ってしまうことが理由である。しかし、2011 年度入学生では平均点の低下は見られなかった。これは 2012 年度入学生の特異な点と言える。高得点の層が多く留学などで抜けてしまったということかもしれない。

2011 年度入学の学生を見ると 4 年時に受験者数が回復し、成績も上がっているのも、2012 年度入学の学生も同じように回復することを期待したい。

B. 中国語検定

中国語検定の結果は表 5-5 のとおりである。

第 1 列の 2 段目「平成 26 年度卒業見込み者」と 3 段目「4 年生(※卒業見込み者含む)」は一致しない。「卒業見込み者」には、休学せずに入学してから 4 年間で卒業する学生もいるし、

例えば1年間休学して留学し、入学してから5年間で卒業する学生も含まれる。「4年生」には、休学せずに入学してから4年目で今年度卒業する学生と、3年時に例えば1年間休学して留学し、卒業のためにはあと1年間の在学期間が必要で今年度は卒業できない学生も含まれる。3段目の受験者数、合格者数が多く、合格率が高いのは、留学を終えて帰ってきた学生が受験したためと考えられる。4段目は中国語を専攻外国語とする2年生、つまり中国学科の2年生の成績である。この学年は3級を受ける。合格率は33.3%である。これは昨年度は21.1%だったので、10%以上のアップである。5段目は中国語を第2外国語とする2年生、つまり中国学科以外の学生で第2外国語として中国語を履修している学生の成績である。この学生たちに関していうと成績は非常に悪く、合格者は0人である。目標の5割にはほど遠い。

[表 5-5 平成 26 年度中国語検定結果一覧]

	受験級	対象者数	受験者数	合格者数	合格率
平成 26 年度卒業見込者	2 級	63	9	2	3.2%
4 年生※卒業見込者含む		61	20	7	11.5%
2 年生(専攻外国語)	3 級	57	29	19	33.3%
2 年生(第 2 外国語)		13	11	0	0.0%

中国学科の学生の中には、これより以前に自主的に受験し、合格していた者もいる。本事業が始まる以前より、中国学科の教員が積極的に検定試験の受験を勧めていたためである。その数を含めると目標達成者数はさらに増え、達成率も上がる。下の表にまとめる。「該当級保持者数」が自主的に受験し合格した者の数を表している。

[表 5-6 中国学科学生の該当級保持者数を含めた数字]

	受験級	該当級 保持者数	H.26 年度 合格者数	目標達 成者数	H.26 年度 達成率	H.25 年度 達成率
H26 年度卒業見込者	2 級	30	2	32	50.8%	24.6%
4 年生 ※卒業見込者含む		13	7	20	32.8%	34.1%
2 年生(専攻外国語)	3 級	17	19	36	63.2%	77.2%

中国学科2年生の3級合格率は63.2%と既に本学が調査書で挙げた目標の7割に近い、卒業見込み者について、2級合格率が50.8%で、目標の5割を超えている。

これらの数字を昨年度の数字と比較すると、卒業見込み者に関してはほぼ倍になっている、しかし中国学科の2年生に関しては14%のダウンとなっている。4年生に関してはほぼ横ばいである。

以下のフランス語、スペイン語、ドイツ語に関しては、昨年度の報告書に掲載できなかった平成 25 年度の結果を示す。

C. 実用フランス語技能検定

次に実用フランス語技能検定の昨年度の結果を示す。

[表 5-7 平成 25 年度実用フランス語技能検定結果一覧]

	受験級	対象者数	受験者数	合格者数	合格率
平成 25 年度卒業者	準 1 級	34	13	5	14.7%
4 年生 ※卒業者含む		71	35	12	16.9%
2 年生(専攻外国語)	2 級	51	41	25	49.0%
2 年生(第 2 外国語)	3 級	29	16	11	37.9%

2 段目は、中国に関しては「平成 26 年度卒業見込み者」となっていたが、フランス、スペイン、ドイツに関しては昨年度のものなので「平成 25 年度卒業者」である。3 段目も「卒業見込み者含む」ではなく「卒業者含む」となっている。

卒業時の成績を見ると目標の準 1 級に合格しているのは 14.7%で、目標の 7 割にはまだまだである。2 年時に 2 級に合格するという目標は、ほぼ半数の学生が達成しており、この時点での目標はほぼ達している。第 2 外国語としてフランス語を履修している学生の 3 級取得率も 4 割に近い。

D. DELE (外国語としてのスペイン語検定試験)

次に DELE(外国語としてのスペイン語検定試験)の平成 25 年度の結果を示す。

[表 5-8 平成 25 年度 DELE 結果一覧]

	受験級	対象者数	受験者数	合格者数	合格率
平成 25 年度卒業者	B2	40	3	3	7.5%
4 年生 ※卒業者含む		85	33	5	5.9%
2 年生(専攻外国語)	A2	53	47	37	69.8%
2 年生(第 2 外国語)	A1	51	32	6	11.8%

専攻の学生が 2 年時に A2 に合格するという目標は、ほぼ 70%の学生が達成しており、この時点での目標は達している。しかし、スペイン語を第 2 外国語として学習している学生は 1 割強しか目標の A1 に合格していない。卒業時の成績を見ると、目標の B2 に合格しているのは 7.5%で、まだ少ない。スペインに関しても、中国と同じように、一斉受験以前に自主的に試験を受けて該当級に合格している学生がいる。その数字を含めた数字を表 5-9 に示す。

[表 5-9 スペイン語圏専攻学生の該当級保持者数を含めた数字]

	受験級	該当級 保持者数	平成 25 年度 合格者数	目標 達成者数	達成率
平成 25 年度卒業者	B2	6	3	9	22.5%
4 年生 ※卒業者含む		6	5	11	12.9%
2 年生(専攻外国語)	A2	0	37	37	69.8%

このような学生を含めると達成率が多少上がる。しかしそれでも 22.5%であり、目標の 5 割にはまだまだである。

E. ドイツ語技能検定

次にドイツ語技能検定の平成 25 年度の結果を示す。

[表 5-10 平成 25 年度実用ドイツ語技能検定結果一覧]

	受験級	対象者数	受験者数	合格者数	合格率
平成 25 年度卒業者	2 級	61	28	11	18.0%
4 年生 ※卒業者含む		87	26	19	21.8%
2 年生(専攻外国語)	3 級	54	40	37	68.5%
2 年生(第 2 外国語)		15	12	12	80%

卒業時の成績を見ると、目標の 2 級に合格しているのは 18.0%で、目標の 67%にはまだまだである。2 年時に 3 級に合格するという目標は、ほぼ 7 割の学生が達成しており、この時点での目標は達している。第 2 外国語としてドイツ語を履修している学生の 3 級取得率も 8 割と高い。

ドイツに関しても、中国、スペインと同じように、一斉受験以前に自主的に試験を受けて該当級に合格している学生がいる。その数字を含めた数字を表 5-11 に示す。

[表 5-11 ドイツ語圏専攻学生の該当級保持者数を含めた数字]

	受験級	該当級 保持者数	平成 25 年度 合格者数	目標 達成者数	達成率
平成 25 年度卒業者	2 級	18	11	29	47.5%
4 年生 ※卒業者含む		18	19	37	42.5%
2 年生(第一外国語)	3 級	0	37	37	68.5%

このような学生を含めると達成率がけっこう上がり、47.5%となる。目標達成までもう少しである。

F. 複数言語能力の達成

専攻言語、第 2 外国語のいずれかで目標点あるいは目標級をとった学生はいくらかいるが、両方の成績が基準に達した者の数は少ない。専攻言語と第 2 外国語の両方で基準を達成したのは、外国語学部全体で、平成 25 年度卒業生で 6 名、平成 26 年度卒業見込者で 9 名である。今年度は昨年度と比べると増えている。学科別の内訳は表 5-12 の通りである。

[表 5-12 複数言語能力の達成者数(学科・専攻別)]

	英米	国際関係	フランス	スペイン	ドイツ	中国
平成 25 年度卒業生	2	0	1	0	2	1
平成 26 年度卒業見込者	0	0	1	1	5	2

構想調書の目標設定シートには、平成 26 年度卒業生の複数言語能力達成人数を 50 人と設定している。この数字はその目標にはほど遠い。

学科で専攻している語学と第 2 外国語である英語の両方で基準を達成することのむずかしさを、具体的に中国学科ですこし詳しく見てみよう。中国学科で専攻言語である中国語において検定で 2 級を取得した学生は平成 26 年度卒業見込者 63 人のうち 32 人に上っているが、そのうち TOEIC でも 730 点以上である学生は 3 名にすぎない。しかし平成 26 年度卒業見込者 63 名の中で見ると、TOEIC で 730 点以上である学生は 7 名で、割合は 11%である。32 人中の 11%と考えると 3 人というのも納得がいく数字である。また、中国語検定 2 級合格者の割合のほうから見ても、32 人は全体(63 人)の 50.8%であり、TOEIC で 730 点以上である学生(7 人)で 50.8%が中国語検定 2 級に合格すると 3.56 人になるので、実際に 3 人が合格しているということは納得のいく数字であるといえる(四捨五入すればあと 1 人増えてもいいが)。特に偏りはない。

上のことから考えると、複数言語能力達成者を増やすためには、中国語の成績を底上げすることでも、英語の成績を底上げすることでも、どちらでもよいということになる。たとえば、極端ではあるが、英語の成績が変わらないとして、中国語検定 2 級の合格率を 100%に上げれば、それでも 7 名の目標を達成できることになる。しかしこのやり方は現実的でない。英語の成績のほうが上げる余地が大きいので、学生の努力を英語の学習にも向けさせるべきである。中国語検定 2 級合格者率が変わらなくても、TOEIC で 730 点以上取る学生が 22%になるように英語の成績を底上げすれば、中国語検定 2 級合格者 32 人のうち 22%が TOEIC でも目標点をクリアできることになり、7 人を達成するだろう。また 7 人は今年の目標であり、来年度の目標はまた高くなる。早く達成するためには両方の成績を底上げすることが必要であろう。

G. 英語教育 FD の実施

平成 26 年 12 月 24 日に英語教育 FD を実施した。この英語教育 FD では、インターネット・ポートフォリオ manaba の使用に関する発表や、ロゼッタ・ストーンを使った語学学習に関する発表もあったが、本項では大森裕實(外国語学部企画委員長)がおこなった「TOEIC®成績の現状と課題 2014」というタイトルの発表、また寺澤君江(iCoToBa 語学学習アドバイザー)がおこなった「検定試験(TOEIC®)対策講座に関して」というタイトルの発表について記す。

大森裕實(外国語学部企画委員長)は「TOEIC®成績の現状と課題 2014」と題する報告を行った。昨年度と同様に、5 つの視点－(1)TOEIC®とは(基礎知識)、(2)TOEIC®に対する三大誤謬、(3)TOEIC®の活用、(4)本学部 3 ヶ年度 TOEIC®成績分析、(5)本学部 TOEIC®成績と対策－から、簡潔な報告があった。特に(4)に関連して、英米学科の場合に、平均点で右肩上がりの堅調な伸びを看取することができ、これは昨年度 FD で指摘した iCoToBa の利用とその効果が浸透しつつあることを証左するものである。現状から判断する限り、800 点以上の獲得を実現するには、英米学科では半年から 1 年の留学を伴うことが理想だが、他方、留学しない場合の iCoToBa の利用はいっそう欠かせない。また、(5)に関連して、Communication 能力を測る TOEIC 型の試験というと、オーラル面(Listening)に関心が偏りがちだが、実際にはリテラル面(Reading)の強化が高得点獲得に重要かつ効果的であることを改めて強調した。

寺澤君江(iCoToBa)は「検定試験(TOEIC®)対策講座に関して」というタイトルで発表を行った。グローバル人材育成プログラムの修了要件の一つに、TOEIC スコア 800 点(専攻外国語が英語)、730 点(第 2 外国語が英語)が設定されている。その対策講座として、TOEIC Intensive、TOEIC Early Bird、Vocabulary for Exams の 3 つの講座を開いた。TOEIC Intensive はスコア 730 を目標に掲げ、傾向分析および攻略法に焦点をあてたものである。TOEIC Early Bird は、スコア 800 以上を目指す学生対象に公式問題演習に取り組んだものである。Vocabulary for Exams は、スコアの伸び悩む傾向にあるリーディングパートのスコアアップを狙い、語彙力の強化を目的として展開したものである。対策講座を受講した学生は、受講しなかった学生よりもスコアも伸び率も高い傾向がみられたという。TOEIC の試験は英語力に加え、情報処理能力を問うものであるという性質を踏まえた場合、事前準備として、たとえ短期間であっても、準備をして試験に臨んだ方が実力を発揮しやすいと言えるだろうということを、改めて指摘した。

H. 受験時期の再検討

先にも触れたように、英語以外の語学にかんしては、2 年生および 4 年生に 11 月に受験してもらっている。しかしその前に自分で受けて合格している学生もいる。4 年の 11 月という時期は、卒業論文執筆の追い込みで忙しい時期である。この時期に受けさせるよりも、3 年時に受けさせたほうが時間的余裕もあり、また就職活動前でモチベーションも高いのではないかと(検

定試験で良い点数を取れば就職活動でアピールすることができるため)、という意見があった。そのため、グローバル推進室で受験時期の再検討をおこなった。その結果、スペイン語、ドイツ語、中国語に関しては、3年時に受験させることになった。フランス語に関しては3年生に準1級を受けさせても合格は無理だという意見があり、時期の変更はしない。中国語に関しては、中国学科の2年生の3級の受験も6月に早めることになった。また、中国語を第2外国語として履修する学生には、履修中の11月ではなく、履修を終えてから準備の時間をとって翌年の6月に受験させることにした。この準備の時期にe-Learningなどを積極的に利用するようにさせて、合格率を高めなければならない。

4. 平成26年度の評価

①効果が上がっている事項

語学試験の結果に関し、昨年度は英語と中国語に関してしか結果が出ていなかったが、今年度で全ての言語の結果が揃った。

比較的成績が良かったのは、英語以外を専攻とする学科の学生の専攻言語の2年時の検定の結果である。中国語検定では6割の2年生が目標の級を取得した(表5-6)。実用フランス語技能検定では半数の2年生が目標の級を取得した(表5-7)。DELEでは2年生はほぼ70%が目標の級であるA2を取得した(表5-9)。ドイツ語の2年生もほぼ70%が目標の3級を取得した(表5-11)。卒業(見込)生の成績も中国語は5割以上(表5-6)、ドイツ語は5割弱(表5-11)とわりとよい。ただしフランス語とスペイン語は2割以下にとどまっている。

第2外国語としてフランス語またはドイツ語を履修している学生の第2外国語の成績は、フランス語で約4割(表5-7)、ドイツ語で8割(表5-10)が基準の級を取得しており、なかなかよい。ただし、スペイン語では12%(表5-8)、中国語では0%と低い。

②改善すべき事項

先にも指摘した通り、ヨーロッパ学科のフランス専攻とスペイン専攻の卒業生の専攻外国語の目標級達成率が2割以下で、まだ低い。これは実用フランス語技能検定の準1級とDELEのB2の難易度が高いということがあるようだ。また、第2外国語としてスペイン語または中国語を履修している学生の第2外国語の目標達成率が低い。それぞれの言語を専攻している学生はしっかり達成しているので、第2外国語として履修している学生も、しっかり指導し勉強させれば合格率が上がるはずである。第2外国語の授業を工夫することが必要である。また、それだけでなくe-Learningの活用やiCoToBaを利用することを促して、授業外の活動も増やすようにさせないといけない。

英語は、英米、国際関係の専攻外国語であり、他学科の学生の多くの第2外国語である。英語の成績はなかなか上がらない(表5-3を参照)。4年生で目標点をクリアした学生数は、英米・国際関係でも、他学科でも、なぜか昨年度よりも減ってしまった。iCoToBaや対策講座

の利用でスコアの伸び率が高くなる傾向があることが英語教育 FD で報告されており、学生に積極的にこれらを利用することを呼び掛けたい。

また、複数言語の目標達成が及ばなかった。これについては上述の「3. 平成 26 年度の実績」の F に書いたとおりである。構想調書の目標設定シートに書いた目標には、まだまだ努力が必要である。英語を第 2 外国語として学習する学生の英語の成績を、もっと上げていかないといけない。そのためには、iCoToBa や検定講座、e-Learning の利用率がもっと上がるように工夫していかないといけない。また卒業（見込）生の専攻言語の目標達成率が低いところはそこも上げていかないといけない。両面作戦が必要である。

5. 平成 27 年度に向けての方策

複数言語の目標達成の見地からするとまだまだ目標には遠い。目標達成には、第 2 外国語の能力向上が不可欠である。1、2 年次は専攻言語科目と第 2 外国語を同時に履修しなければならず、必然的に専攻外国語の学習に集中しがちである。そのため、ヨーロッパ学科・中国学科の 2 年時の専攻言語の検定の基準級の合格率はわりと高い。しかし第 2 外国語である英語の成績は、伸びがそれほど良くない。第 2 外国語の英語の授業だけでなく、e-Learning や検定講座、iCoToBa を利用して英語の力を高めることも指導したい。

英米学科・国際関係学科の第 2 外国語の成績は、選択した言語によって状況が異なる。フランス語、ドイツ語選択の学生はけっこう良いが、スペイン語、中国語選択の学生はあまり良くない。iCoToBa や e-Learning の活用を専攻言語に限らず、第 2 外国語学習にも活用するよう、教員が授業などを通じて、常に学生の学習を動機付ける必要がある。e-Learning の利用を単位取得の条件として盛り込むことも考えるべきかもしれない。

TOEIC の受験率については、3 年生の受験率が低い。留学で大学を離れる学生が多いところがあるが、留学で離れる学生の数以上の 3 年生が受験していない。UNIPA や manaba だけでなく、ポスター掲示や授業を通して、試験を受けることを徹底させる。

6. 留学および支援体制

6-1. 学術交流協定大学の協定締結と単位認定留学

1. 概要

本構想では外国語学部の6割の学生が学士課程教育の一環として単位認定を伴う留学を経験し、グローバルに通用する人材となることを目標としている。その実現のためには学術交流協定大学の一層の増加と、留学先大学での適切な教育、実質的な単位互換制度の構築が大前提となる。留学を視野に入れた4年間の学修計画とその履修指導、入念な留学前カウンセリング、留学後の学修計画とキャリア支援の体制を整備し、その仕組みを実質的に機能させていくためには、軸となって業務を担うマネジメント・スタッフと、留学と履修情報を管理するシステムの構築が不可欠である。

2. 平成26年度の目標

協定大学と交換プログラムの運営などについて協議をしながら、受け入れ、送り出しの実績を重ね連携を深めていく。

平成25年度まではショートビジットプログラムが、外国語学部の一部の専攻言語のみであったため、専攻言語による留学ができない場合があった。そこで、本年度は全専攻言語によるショートビジットプログラムをつくることを目標とした。また、英語による留学を希望する学生が多いにもかかわらず、英語圏の協定大学が少ない状況のため、北米圏の協定大学拡充を目指す。

3. 平成26年度の実績

①新たに学術交流協定を締結した大学

平成25年度まで大学全体ですでに学術交流協定を締結した31大学に加え、平成26年度に新たに協定を結んだ大学は12大学にのぼり、平成26年12月現在、4大学で協議中である。

[新規学術交流協定大学および協議中の大学](※は協議中)

- | | |
|------------------|-------------------|
| ・ニューカッスル大学(イギリス) | ・メキシコ国立自治大学(メキシコ) |
| ・東呉大学(台湾) | ・プエブラ自治荣誉大学(メキシコ) |

- ・プレスビテリアン大学(アメリカ)
- ・チュービンゲン大学(ドイツ)
- ・華東師範大学(中国)
- ・ミュンスター大学(ドイツ)
- ・フランス留学局(フランス)
- ・韓国外国語大学(韓国)
- ・トゥールーズ大学(フランス)
- ・スインバーン工科大学スインバーンカレッジ(オーストラリア)
- ・ニューファンドランド・メモリアル大学(カナダ)※
- ・ケベック州立大学モントリオール校(カナダ)※
- ・ディーキン大学(オーストラリア))※
- ・テイラーズ大学(マレーシア)※

②単位認定留学者

協定大学への単位認定留学は、平成 26 年度、1 年未満交換留学生 44 名、1 年未満派遣留学 12 名、ショートビジットは 149 名で合計 205 名、平成 24 年に比較して大幅に増加している(同様のではなく、類似の分類による、平成 24 年実績 37 名)。これは、海外協定大学の拡大と日本留学支援機構(JASSO)からの補助金支援受給者増加(1 年未満交換留学生 15 名、1 年未満派遣留学 3 名、ショートビジット 25 名の計 43 名)の結果によるところが大きい。

夏期・春期短期派遣留学の実績は以下のとおりである。

[表 6-1 平成 25 年度 短期派遣留学一覧]

	留学先	人数	合計
夏期	アリゾナ州立大学(米国)	3	39
	ポートランド州立大学(米国)	7	
	セントラルランカシャー大学(イギリス)	8	
	サンティアゴ・デ・コンポステーラ大学(スペイン)	6	
	ラス・アメリカス大学(メキシコ)	1	
	シベリア連邦大学(ロシア)	4	
	ガジャマダ大学(インドネシア)	10	
春期	アリゾナ州立大学(米国)	3	22
	ニューヨーク州立大学フレドニア校(米国)	8	
	ラス・アメリカス大学(メキシコ)	11	
合計			61

[表 6-2 平成 26 年度短期派遣留学]

	留学先	人数	合計
夏期	イーストアングリア大学(イギリス)	29	92
	ミュンスター大学(ドイツ)	29	
	ポートランド州立大学(米国)	2	
	サンティアゴ・デ・コンポステーラ大学(スペイン)	6	
	アリゾナ州立大学(米国)	3	
	スタンダード・グルノーブル第3大学(フランス)	6	
	サンテティエンヌ・ジャン・モネ大学(フランス)	3	
	華東師範大学(中国)	6	
	ガジャマダ大学(インドネシア)	8	
春期	ニューヨーク州立大学フレドニア校(米国)	7	57
	ラス・アメリカス大学(メキシコ)	6	
	スインバーン工科大学スインバーンカレッジ(オーストラリア)	2	
	ディーキン大学(オーストラリア)	10	
	アリゾナ州立大学(米国)	3	
	華東師範大学(中国)	8	
	ミュンスター大学(ドイツ)	18	
	サンテティエンヌ・ジャン・モネ大学(フランス)	3	
合計			149

③日本留学支援機構(JASSO)からの奨学金受給者

[表 6-3 平成 26 年度日本留学支援機構(JASSO)奨学金受給者]

種別	人数
1 年未満交換留学	39
1 年未満派遣留学	12
ショートビジット	91
合計	142

4. 平成 26 年度の評価

①効果が表れていること

平成 26 年度において協議中の大学を含めて 14 大学と学術交流協定が締結される予定であり、またそれに伴い単位認定留学も大幅に増加し、評価できる。ショートプログラムが充実してきた結果、長期に留学する学生が増加している。

また、1 年生及び 2 年生の全員に対する留学アドバイジングを実施し、留学説明会の参加者数の増加や就学に関する相談件数が増加し、留学に対するモチベーションの向上が認められる。

②改善すべきこと

協定大学の締結とその結果の単位認定留学がスペイン、メキシコなど地域的に偏りがあり、学生の希望が多い英米圏での協定大学が、イギリスで増加したが、依然、アメリカ、オーストラリアなどでは少ない。

5. 平成 27 年度に向けての方策

北米圏の協定大学拡充を優先事項とする。北米で開催される国際交流会議 (NAFSA) 開催時に本学のブースを出展し、本学の広報と学術交流についての交渉を行う。同時に、協定大学との連携強化に努める。スタッフディベロプメントの一環として国際会議に職員を派遣し、大学の国際化を図る。

6-2. 留学アドバイジング

1. 概要

本事業では、外国語学部学生の留学の 60%を単位認定大学留学とし、留学前→留学中→留学後の各段階で必要な能力を育てる体系的プログラムを実施する。このプログラム実施には、留学前に留学やグローバル人材への強い動機づけを行い、1、2 年生で「留学前プログラム」を履修させ、留学中は明確な目的意識を持った上で学修させ、帰国後は「帰国後プログラム」によってフォローするという留学アドバイジングが必要である。そのため、平成 25 年 4 月から iCoToBa において留学アドバイザー教員による留学アドバイジングを開始している。

2. 平成 26 年度の目標

2 年目を迎えた留学アドバイジング業務は、昨年の反省を踏まえて、積極的に学生たちとの情報交換を進めることにした。具体的には、昨年のような希望者との留学相談の機会に加えて、1年生および2年生全員との面接時間を設定して、彼らの希望とニーズを把握し、より多くの学生が留学するよう啓蒙した。

- a) 入学時のオリエンテーションで、学士留学の意義と効果について啓蒙する。
- b) 授業の合間の休憩時間を利用した週 6 コマ(ランチタイムを含む)の留学アドバイザーによる恒常的留学相談アワーを設置する。
- c) 留学体験者による具体的な留学体験に触れる機会を提供し、アドバイジングを多角的に行う。
- d) 1 年生(後期)及び 2 年生(前期)全員との 15 分面接

3. 平成 26 年度の実績

平成 25 年度(平成 26 年 1 月まで)に留学相談に訪れた学生は約 50 名であったが、平成 26 年度は、1年生の 324 人(89%)、2 年生の 332 人(91%)と面談し、留学に関する希望内容を聴取した。2 年生の相談者のうち、平成 26 年度中に留学した学生及び 27 年度中に留学予定の学生は 80%を超えた(中国学科のみ 60%)。昨年からの取り組みの効果の表れであると考えられる。

また面接した学生全員の個人カルテを作成し、今後のフォローアップ及び分析の資料を整えた。このカルテには、毎回の相談内容を記録しているため、何度も相談に来る学生の動きが克明にわかり、適切なアドバイスを与えることができるようになった。

留学に関する意向を聴取することで、本学の学生たちの傾向を把握し、今後の協定大学締結のための基礎資料としても活用できるデータベースとなっている。

表 6-4 は、1、2 年への聞き取り調査の結果一覧である。

[表 6-4 外国語学部1、2 年生の留学希望結果]

		長期(1 年) 留学希望者の割合	短期(1 ヶ月前後) 留学希望者の割合	留学に興味ない 学生の割合※
2 年生	英米	61	23	16
	フランス	70	14	16
	スペイン	80	10	10
	ドイツ	68	12	20
	中国	40	20	40
	国際関係	60	25	15
1 年生	英米	66	12	22
	フランス	76	8	16
	スペイン	84	8	8
	ドイツ	80	8	12
	中国	56	10	34
	国際関係	56	20	24

※わからない・欠席者を含む数値(数値:%)

4. 平成 26 年度の評価

①効果が表れていること

マンツーマンの留学アドバイジングでは、奨学金を取得した場合の留学予算を立てさせることで、不可能と思っていた留学が身近に感じられ、前向きに考える学生が増えた。また、卒業後のキャリアとの関連付けを考えさせることで、留学の必要性を感じて前向きに留学を考える学生が増えた。

ランチアワーの留学体験発表会は、発表者も増え前期は週に1回行っていたものが、後期は週に2回開催と倍増した。このような、生の情報を得られる機会が増えたことにより、学生の留学への心理的なハードルが低くなったことが希望者の増加に結びついたと考えられる。

②改善すべきこと

留学面談に関する連絡方法の不徹底から、全員との面接ができなかった(約 10%の学生と面談ができなかった)。次年度以降は入学時オリエンテーションで面接予定を周知徹底する。

5. 平成 27 年度に向けての方策

平成 27 年度は 3 年目に入るが、これまでどおり入学時のオリエンテーションにおける留学への啓蒙を続けるとともに、1 年かけてじっくり新入生全員と留学に関する面談を行い、留学へ

の準備をできるだけ早くスタートさせたい。好評の留学体験発表会も継続して毎週開催を継続する。

6-3. 留学中の学習支援

1. 概要

留学をはさんだ発展的教育課程の中で、「留学中のサポート」が果たす役割は大きい。もちろん留学前の準備は大切だが、留学中にどのように過ごすかは、さらに重要になってくる。本事業では、インターネットポートフォリオシステム **manaba** を導入し、遠隔地からの指導を行っている。

2. 平成 26 年度の目標

平成 25 年度の短期語学研修に参加した学生を皮切りに、留学中のサポートを開始する。毎月のレポートを **manaba** 上で提出させ、在校生を意識して自分の留学生生活を客観的に伝える訓練に取り組ませる。

3. 平成 26 年度の実績

平成 25 年度秋出発の年間留学生(3 名)、26 年度春の短期語学研修参加者(4 名)、26 年度夏の短期語学研修参加者(10 名)、26 年度秋からの年間留学生(19 名)と着実に人数は増えている。出発前にテーマ設定や調査方法に関するグループ研修を行った後に送り出し、研修中は **manaba** を利用して報告を受けながら適宜アドバイスを送った。また **manaba** のコミュニティ機能を利用して、参加者相互及び後輩たちへの現地情報の発信をしてもらった。

帰国後、出発前に決めたリサーチ・トピックに関するレポートを **manaba** 上に提出させた。彼らが選んだトピックは、「Cultural problems that Japanese Americans encounter in the United States」「メキシコにおける遺跡群について」、「イギリスで見る日本・アジア」「Old and Modern Building in England」「How do you communicate with people」といった留学中にしかできないものが多かった。

manaba のコミュニティ「留学について話そう！」上では、60 名近くの留学中の学生からの情報が本学の学生へ発信されている。日本にいながらにして、留学中の学生たちの体験を共有でき、留学希望者には心強いバーチャルなグローバルキャンパスとなっている。現在のコミュニティの登録者は 363 名である。

4. 平成 26 年度の評価

①効果が表れていること

manaba を利用することによって、日本から留学中の学生を効果的にサポート、指導することができるようになったのはもちろん、留学中の学生同士が励ましあい、よい影響をあたえながら充実した留学生活を送ることができるようになった。そのうえ留学前の学生にとっても、留学

中の学生のレポートを閲覧することで、留学を現実的にとらえることができるため、留学前のアドバイジングとしても有効であり、効果は十分に上がっている。

②改善すべきこと

現在、留学中の学生への指導は、iCoToBa 教員とグローバル人材育成推進室員に限られている。今後、学部全体での指導体制を構築することが必要である。

5. 平成 27 年度に向けての方策

平成 26 年度後期に帰国した学生が、留学体験発表、学生共同プロジェクトといった留学後のプログラムを終え、留学前から留学後までの発展的教育課程を一通り経験したが、その効果は確実に出ています。さらに海外でのインターンシップなどの機会を得ることができ、大きく育っているのを見るのは嬉しい限りである。今後は授業時間を工夫して、より多くの学生が留学前にリサーチ発信プロジェクト①の授業を受講できるようにし、留学者の過半数がグローバル人材プログラムの修了証を得られるようにしたい。

6-4. 国際交流室による留学支援

1. 概要

国際交流室では、海外大学との学術交流、学生の海外留学支援、外国人留学生のアカデミックアドバイスなどの支援、キャンパス内外での多文化交流、短期留学プログラムの開発・実施など、国境を越えた草の根の人的交流を通じて異文化間の理解を深めるべく、日々努めている。室内には、海外協定大学等のパンフレット、日本留学・海外留学の情報、TOEFL 等の外国語能力測定試験問題集、各種奨学金案内などを閲覧資料として豊富に揃えており、学生の多様な留学ニーズに応えている。

2. 平成 26 年度の目標

平成 25 年度まではショートビジットプログラムが、外国語学部の一部の専攻言語のみであったため、専攻言語による留学ができない場合があった。そこで、平成 26 年度は全専攻言語によるショートビジットプログラムをつくることを目標とした。また、英語による留学を希望する学生が多いにもかかわらず、英語圏の協定大学が少ない状況のため、北米圏の協定大学拡充を目指す。

3. 平成 26 年度の実績

年 2 回、学内で留学説明会や複数の大学の情報が得られるような留学フェアを開催し、留学経験のある学生による留学報告会を開催し、学生同士の情報交換の場を設定することで、留学を希望する学生に協定大学に関する情報を提供した。また危機管理オリエンテーションを実施し、海外での危険に対する学生の意識を高めた。

平成 25 年度まで大学全体ですでに学術交流協定を締結した 31 大学に加え、平成 26 年度に新たに協定を結んだ大学は 12 大学にのぼり、平成 26 年 12 月現在、4 大学で協議中である。

協定大学への単位認定留学は、平成 26 年度、1 年未満交換留学生 44 名、1 年未満派遣留学 12 名、ショートビジットは 149 名で合計 205 名、平成 24 年に比較して大幅に増加している(同様のではなく、類似の分類による、平成 24 年実績 37 名)。これは、海外協定大学の拡大と日本留学支援機構(JASSO)からの補助金支援受給者増加(1 年未満交換留学生 15 名、1 年未満派遣留学 3 名、ショートビジット 25 名の計 43 名)の結果によるところが大きい。

4. 平成 26 年度の評価

①効果が表れていること

平成 26 年度において協議中の大学を含めて 14 大学と学術交流協定が締結される予定であり、またそれに伴い単位認定留学も大幅に増加した点は評価できる。ショートプログラムが充実してきた結果、長期に留学する学生が増加している。

②改善すべきこと

留学に対する学生のモチベーションを上げる仕組みが不足している。留学経験のある学生による留学報告会を開催したり、相談体制を強化し、各種の奨学金などの情報も含め、留学に関する情報を提供する必要がある。

5. 平成 27 年度に向けての方策

相談ならびに留学関係情報提供体制の強化を図る。さらに、北米で開催される国際交流会議(NAFSA)開催時に本学のブースを出展し、本学の広報とともに学術交流交渉を進め、留学希望者への情報提供や留学指導に活かす。また、協定大学との連携強化に努め、送り出し・受け入れ学生の学習および生活支援を強化する。

6-5. 留学中のリスク管理

1. 概要

多くの学生を海外に留学させるにあたり、留学中のリスク管理が重要となる。そこで、平成 25 年度から、a) 学生の留学に対する危機管理意識の醸成、b) 留学中のサポートの充実、c) 学内危機管理体制の構築・強化、の 3 点を目的に、留学リスク管理を強化している。具体的には、学生への留学前危機管理ガイダンスの実施、留学中の不慮の事故等への対応体制および学内における危機管理要綱およびマニュアルの整備である。さらに平成 27 年度より JCSOS (海外留学生安全対策協議会) の会員となり、安全対策面及び法的側面のサポートを受け、全学的なリスク管理体制を構築する。

2. 平成 26 年度の目標

平成 26 年度の目標は、昨年度と同様、以下のように定めている。

- a) 留学に対する危機意識の醸成を目的に、学生への危機管理ガイダンスを開催する。
- b) 留学中の不慮の事故や病気、ケガなどに対するサポートの充実を図る。
- c) 留学中の不慮の事故等に備えて、関連の要綱および対応マニュアルを整備し、学内のリスク管理体制を構築する。さらに担当教職員を対象に、リスクに対する説明会を開催し、学内で情報共有を図る。

3. 平成 26 年度の実績

①危機管理ガイダンスの開催

留学中の危機管理、危険情報および緊急時の対応等にかかわる情報を提供し、学生の危機管理意識を高めるため、危機管理ガイダンスを 2 回実施した。

[学生対象危機管理ガイダンス]

第 1 回: 平成 26 年 6 月 25 日 (水) 参加者 150 名

第 2 回: 平成 26 年 12 月 3 日 (水) 参加者 71 名

また、職員対象危機管理ガイダンスを 9 月 24 日 (水) に実施し、他大学の事例を参考に留学中の学生に不測の事態等が生じた場合の危機管理体制を再確認した。参加者は 27 名であった。このガイダンスは、インドネシアに留学中の学生が法定伝染病に感染し入院したという事態を受け、急きょ開催されたものである。この事例については、③で紹介する。

②留学中サポートの充実

平成 25 年度に引き続き、本年度も日本アイラック社の「アイラック安心サポートデスク」に加入し、留学中の学生が事故や病気、ケガ等、不慮の事態に遭遇した際に、迅速かつ適切なサポートを行えるよう環境を整備した。

[表 6-6 アイラック安心サポートデスク加入状況]

留学プログラム(国・地域名)	人数	期 間
ラス・アメリカス大学(メキシコ)	2	2014 年 8 月 4 日～2015 年 3 月 31 日
カトリカ大学(ペルー)	2	2014 年 8 月 6 日～2015 年 3 月 31 日
アリゾナ州立大学(アメリカ)	1	2014 年 8 月 11 日～2015 年 3 月 31 日
グアダラハラ大学(メキシコ)	1	2014 年 8 月 9 日～2015 年 3 月 31 日
プレスビテリアン大学(アメリカ)	1	2014 年 8 月 15 日～2015 年 3 月 31 日
メキシコ国立自治大学(メキシコ)	1	2014 年 8 月 18 日～2015 年 3 月 31 日
アシュランド大学(アメリカ)	1	2014 年 8 月 18 日～2015 年 3 月 31 日
サンティエヌ・ジャン・モネ大学 (フランス)	3	2014 年 8 月 10 日～2014 年 9 月 9 日
華東師範大学(中国)	6	2014 年 8 月 6 日～2014 年 9 月 6 日
イーストアングリア大学(イギリス)	29	2014 年 8 月 11 日～2014 年 9 月 24 日
アリゾナ州立大学(アメリカ)	1	2014 年 8 月 11 日～2014 年 9 月 18 日
ポートランド州立大学(アメリカ)	2	2014 年 8 月 21 日～2014 年 9 月 17 日
サンティアゴ・デ・コンポステーラ大学 (スペイン)	6	2014 年 8 月 18 日～2014 年 9 月 26 日
ミュンスター大学(ドイツ)	29	2014 年 8 月 30 日～2014 年 9 月 29 日
グルノーブル第 3 大学(フランス)	6	2014 年 8 月 29 日～2014 年 9 月 28 日
四川師範大学(中国)	1	2014 年 8 月 24 日～2015 年 3 月 31 日
ア・コルーニャ大学(スペイン)	2	2014 年 9 月 2 日～2015 年 3 月 31 日
アリカンテ大学(スペイン)	2	2014 年 8 月 29 日～2015 年 3 月 31 日
サンティアゴ・デ・コンポステーラ大学 (スペイン)	3	2014 年 8 月 29 日～2015 年 3 月 31 日
プンペウ・ファブラ大学(スペイン)	1	2014 年 8 月 29 日～2015 年 3 月 31 日
リール第 3 大学(フランス)	2	2014 年 8 月 31 日～2015 年 3 月 31 日
静宜大学(台湾)	2	2014 年 9 月 17 日～2015 年 1 月 23 日
ケルン大学(ドイツ)	3	2014 年 8 月 28 日～2015 年 3 月 31 日

清州大学(韓国)	1	2014年9月1日～2015年3月31日
シベリア連邦大学(ロシア)	2	2014年9月2日～2015年3月31日
セントラルランカシャー大学(アメリカ)	2	2014年9月5日～2015年3月31日
プンペウ・ファブラ大学(スペイン)	7	2014年9月12日～2015年3月31日
東呉大学(台湾)	2	2014年9月1日～2015年3月31日
ライプツィヒ大学(ドイツ)	3	2014年9月10日～2015年3月31日
ニューカッスル大学(イギリス)	2	2014年9月15日～2015年3月31日
ガジャマダ大学(インドネシア)	8	2014年9月13日～2014年9月28日
ミュンスター大学(ドイツ)	1	2015年1月31日～2015年2月28日
スインバーン工科大学(オーストラリア)	2	2015年2月10日～2015年3月22日
ディーキン大学(オーストラリア)	10	2015年2月9日～2015年3月22日
ラス・アメリカス大学(メキシコ)	6	2015年2月14日～2015年3月13日
華東師範大学(中国)	8	2015年3月1日～2015年3月31日
サンテティエンヌ・ジャン・モネ大学 (フランス)	3	2015年3月1日～2015年3月31日
ニューヨーク州立大学フレドニア校 (アメリカ)	7	2015年3月2日～2015年3月17日
ミュンスター大学(ドイツ)	17	2015年2月28日～2015年3月27日
アリゾナ州立大学(アメリカ)	3	2015年3月1日～2015年3月31日
アリカンテ大学(メキシコ)	2	2015年3月6日～2015年3月31日
カトリカ大学(ペルー)	2	2015年3月1日～2015年3月31日

③危機管理の重要性:留学中の学生の入院ケースから

留学する学生の増加とともに、危機管理の重要性はますます増していく。本年度は、インドネシア・ガジャマダ大学(以下、UGM)での夏期短期プログラムに参加した学生が、留学期間中に乙種法定伝染病であるアメーバー赤痢に感染し入院するという事態が起こった。2週間の留学期間の後半に発病したため、プログラムに参加していた他の学生7人は先に帰国し、当該学生と引率教員は帰国を延期した。発病に際し、受け入れ側のUGM教員のアドバイスによりすみやかに入院手続きができたこと、また引率教員が学生全員の保険番号とパスポート情報を把握していたため、保険会社との交渉も比較的スムーズに進め、立て替え払い等の手続きも進めることができた。また、学生の状況および保険業者との交渉についても大学側と密に連絡をとり、大学側もアイラックのアドバイスを受け、学生の家族への連絡なども迅速に行った。本学の留学プログラムで起きた初めての事態ではあったが、入院中の適切な医療と周囲

のサポートを受け、帰国後の学業復帰までスムーズに進めることができた。今回の経験での学びを国際交流室および関係部署と情報共有し、来年度以降危機管理をさらに強めていくことを確認した。

引率教員の情報より、留学に必要な支援体制として以下の点が挙げられる。

1. 留学前ガイダンスで、生活情報および緊急時の対応方法について伝える。(危機管理ガイダンスの徹底)
2. 病気、事故、事件に応じて、どのようにすればよいか、一目で分かるプリントを作成し、配布、電子データでスマートフォンなどに保存させる。また **manaba** にもアップしておく。国、地域によりやり方が異なるので、プログラムが開催される地域ごとに作成することが望ましい。(病気の際は、複雑なことは考えられない。)
3. 国際交流室および引率教員が、パスポート番号、保険加入番号と共に、緊急時の日本での連絡先および保護者に関する情報を把握しておく。(今回のケースでは、保険手続き等で保護者の連絡先などを書く必要があった。病気の学生から情報を聞き出すまでには時間がかかった。)
4. 現地での、日本語、英語が通じるサポーターの連絡先を確保しておく。例えば、本学に交換留学した元学生の連絡先や、本学卒業生で、海外赴任している人などのネットワークを構築し、緊急時のホットラインを作っておくことが重要である。(今回は、UGM 日本人教員、UGM で日本語を学んでいる学生、引率教員の指導学生だったインドネシア人など、信頼できるサポーターが複数いた。)

今回の UGM プログラムでは、インドネシアでの生活情報やしてはいけないことを、事前に指導する時間をとり、その中には、「生水や生の食べ物、屋台の食べ物を食べない」ことだけでなく、「歯を磨く際、口をゆすぐのに使うのは、ペットボトルの水にする(水道水で口をゆすがない)」ことなど、細かい点まで学生に伝えていた。感染した学生本人もこれらの注意事項を守って生活をしていた。しかしながら、いくら注意しても、完全に病気の感染を防ぐことは不可能である。だからこそ、事態が発生した際にどのようにすべきか、その前にどのような準備をしておくべきかについて、教職員および学生が正しく理解しておくことは非常に重要である。本ケースを教訓として、必要以上に恐れず、適切な支援体制を構築する必要がある。

4. 平成 26 年度の評価

①効果が表れていること

学生への危機管理ガイダンスを開催することにより、学生の危機管理意識が向上し、さらに留学中のサポート体制の構築により、学生が安心して留学に臨めるようになった。

また、留学中の学生の入院事態に、すぐ関係部署担当者が情報共有を兼ねたガイダンスを実施したこと、また次年度に向けてこの経験を基に改善点を整理したことも、本学の危機管理体制の向上の表れとして評価できるだろう。

②改善すべきこと

今回の経験を基に、次年度に向けてマニュアル作りに取り組むことが望まれる。

5. 平成 27 年度に向けての方策

昨今の世界情勢をかんがみて、危機管理の重要性はますます高まっていくことは確実である。来年度の本事業の計画には、すでに「危機管理ガイダンスの強化」をあげており、先進事例を持つ大学等の事例紹介など、具体的なケースを基にした研修を実施する。

来年度も留学を行う学生に対して危機管理ガイダンスを行うと共に、必要な情報を適切に提供できる体制づくりを強化していく。

7. 学術交流協定大学留学生対象プログラム

1. 概要

学生の留学促進、特に単位認定を伴った留学ができる環境を整備するためには、海外学術交流協定大学を拡充することが不可欠である。そこで、本事業採択後から、交換留学生対象プログラムの整備に取り組んだ。平成 24 年度は、グローバル人材育成推進室が交換留学生受け入れプログラムの素案を作成し、国際交流推進委員会に提案した。これを基に平成 25 年度に同委員会の下部組織である「日本語受入プログラムワーキンググループ」がプログラムを策定、平成 26 年 2 月にプログラムを構成する科目が全学で承認され、教育支援センターで扱う事項となった。平成 26 年度からは、教育支援センターが設置する「学術交流協定大学留学生対象科目小委員会」で教務内容を審議し、履修手続きやクラスコーディネートについては、国際交流室が担当している。

平成 26 年 10 月から始まった交換留学生対象プログラム(以下、留学生プログラム)では、28 人の交換留学生が学び、無事第 1 期のプログラムが終了した。

2. 平成 26 年度の目標

平成 26 年度は、後期からの交換留学生対象科目の拡充に向けて、シラバスや教材等の整備を行う。また、大幅に増える交換留学生へのガイダンス方法の改善、プログラム運営上で指摘された問題点について改善方法を探る。

3. 平成 26 年度の実績

①学術交流協定大学留学生対象科目の整備

平成 26 年 2 月に学術交流協定大学留学生科目が全学で承認され、平成 26 年度より新たに便覧に掲載されている。科目一覧と、それぞれの科目の教育内容・目標を、表 7-1、表 7-2 に示す。

[表 7-1 学術交流協定大学留学生科目一覧]

科目区分	授業科目	設置単位	開講時期	日本語レベル
日本語 科目	総合日本語Ⅰ	4(1 単位×4)	後期	初中級 N5
	総合日本語Ⅱ	4(1 単位×4)	前期／後期	中級 N4
	総合日本語Ⅲ	3(1 単位×3)	前期／後期	中上級 N3
	日本語実践 A	1	後期	初中級～中級

	日本語実践 B	1	前期	中級～中上級
	日本語文章表現	2(1 単位×2)	前期／後期	中級～上級
	語彙・漢字 A	1	後期	初中級～中級
	語彙・漢字 B	1	前期	中級～中上級
異文化 理解 科目	トピックディスカッション A	2	後期	中級～上級
	トピックディスカッション B	2	前期	中級～上級
	プロジェクトワーク A	4(2 単位×2)	後期	中級～上級
	プロジェクトワーク B	4(2 単位×2)	前期	中級～上級
	Discover Japan	2	後期	初中級
	フィールド演習 A	2	後期	中級～上級
	フィールド演習 B	2	前期	中級～上級

[表 7-2 学術交流協定大学留学生科目の教育内容と目標]

授業科目	教育内容と目標
総合日本語 I	日本語文法の基礎を学び「話す、聞く、読む、書く」の 4 技能についてバランスのとれた日本語運用能力を身につける。 対象レベル: 初中級(JLPT N5 合格以上 CEFR A1 相当) 平成 26 年度後期使用教科書『できる日本語初級』(アルク)
総合日本語 II	日本語文法の基礎を学び「話す、聞く、読む、書く」の 4 技能についてバランスのとれた日本語運用能力を身につける。 対象レベル: 中級(JLPT N4 合格以上 CEFR A2 相当) 平成 26 年度後期使用教科書『できる日本語初中級』(アルク)
総合日本語 III	日本語文法の基礎を学び「話す、聞く、読む、書く」の 4 技能についてバランスのとれた日本語運用能力を身につける。 対象レベル: 中級(JLPT N3 合格以上 CEFR B1 相当) 平成 26 年度後期使用教科書『できる日本語中級』(アルク)
日本語実践 A/B	自身の日本語でのコミュニケーション体験を基に、場に応じた適切な言語行動について理解を深め実践できるようになる。
日本語文章表現	日本語の書き言葉に関する基礎的な知識について学び、パラグラフライティングができるようになる。
語彙・漢字 A/B	トピックに基づき、語彙と漢字を含めた表記方法について体系的に学ぶ。平成 26 年度後期使用教科書『できる日本語漢字たまご初級』(アルク)
トピックディスカッション A/B	日本の現代社会における課題について、データに基づきクラスで討論を行い、理解を深める。

プロジェクトワーク A/B	学習者がグループでテーマを設定し、グループディスカッションを通して、調査を計画・実施し、発表にまとめることを通して、アカデミックな場面での日本語使用について経験的に学ぶ。
Discover Japan	東海地方の産業施設および、歴史的建造物について、テーマごとに講義を聞いた上で、見学などフィールドワークを行う。テーマについて深い理解を目指すため講義は英語で行われる。
フィールド演習 A/B	東海地方の産業施設および、歴史的建造物について、テーマごとに講義を聞いた上で、見学などフィールドワークを行う。講義は原則日本語で行い、学習者が日本語で日本について発信できるようにする。

②学術交流協定大学からの交換留学生の受け入れとプログラムの実施

平成 26 年 10 月に、新たに本学に留学した交換留学生は 24 人である。平成 26 年 4 月から留学し、10 月からも在学する 4 人を含め、28 人が本プログラムで学ぶこととなった。プログラム開始前に、本学の日本語教育を専門とする専任教員がプレイスメントテストを作成し、国際交流室が実施した。また受け入れ時に国際交流室の担当者が面談を行った。

[表 7-3 平成 26 年度後期 学術交流協定大学別留学生数一覧]

国・地域	大学	人数	所属学部
ドイツ	ケルン大学	3	外国語学部
ドイツ	ライプツィヒ大学	3	外国語学部
台湾	静宜大学	1	外国語学部
フランス	リール第 3 大学	2	外国語学部
メキシコ	ラス・アメリカス大学	1	外国語学部
メキシコ	グアダラハラ大学	2	外国語学部
メキシコ	メキシコ国立自治大学	2	外国語学部
メキシコ	プエブラ自治栄誉大学	1	外国語学部
スペイン	サンティアゴ・デ・コンポステーラ大学	2	外国語学部
スペイン	アコルーニャ大学	1	外国語学部
ペルー	ペルーカトリカ大学	1	日本文化学部
ブラジル	サンパウロ大学	2	日本文化学部
韓国	湖南大学	2	日本文化学部
中国	四川師範大学	3	教育福祉学部
韓国	清州大学	2	教育福祉学部

③交換留学生と本学の学生との交流型授業の実施

留学生科目には、本学の学生と共に学ぶものも設定されている。日本語実践 A では、本学日本語教員課程の日本語教育実習生と交流を通して学べるよう設計された。実習生にとっては、日本語をコントロールしながらコミュニケーションする練習の場としての位置付けである。毎回 4~5 人の実習生が参加し、留学生 2~3 人を担当し、留学生の日本語学習の補助や実践的なコミュニケーション練習の相手役となった。



〔日本語実践 A の授業風景〕

この授業の他にも、Discover Japan では、英語を専攻する学生とともに学ぶ機会を持つなど、留学生科目は、本学の学生にとっても異文化理解を深める機会となっている。

4. 平成 26 年度の評価

①効果が表れていること

留学生科目の設置により、多くの交換留学生の受け入れと、体系的な教育が可能になった。各科目で行われているタスクも本学学生との交流を目的としたものが多く、学内のグローバル化が進んだ。英語で開講されている科目では、英語を母語としない留学生も参加しているため、本学の学生にとっては、まさに「グローバル・イングリッシュ」に触れる機会となっている。

②改善すべきこと

本年度は、大幅に留学生が増えたため、留学生への履修指導に関するシステム作りはなお改善を要する。本年度はプレースメントテスト実施から履修クラス決定までに時間がかかった。また、留学生が履修したい授業を優先するという履修指導方針(学生の興味から履修を決定するのはもちろん当然だが)から、語学科目の履修において、本人のレベルを無視して、より高いレベルで学びたいと学期途中になっても申し出てくる学生が複数おり現場は混乱した。来日時期は一般に留学生の学習意欲が最も高く、学習の動機づけのためにも来日から履修指導までのプロセスは彼らの留学成果を左右する重要な時期である。クラス決定のためのプレースメントテストの実施方法や履修指導体制について、細部まで検討する必要がある。

5. 平成 27 年度に向けての方策

来年度は、まず、上記で指摘した改善点について取り組むことが急務である。また、本学学生との交流型授業については担当教員間でノウハウを共有し、本学学生と留学生の双方にとって学びを深めるられるよう、教室活動に改善を加える。

8. インターンシップ

1. 概要

インターンシップの拡大やキャリア支援は、本事業においてグローバル人材育成の「出口」につながる重要な部分である。本学グローバル人材プログラムにおいては、留学後のフォローアップ・プログラムとして位置づけ、主に地元の企業や自治体、NPO や NGO などと連携したインターンシップを想定している。さらに、海外協定大学と連携した海外インターンシップや実践型研修などについても検討中である。

留学後のインターンシップは、学生が留学によって獲得した語学力を活かす場というより、(語学力を含めて)留学という経験を通じて身につけた「広義のコミュニケーション能力」「異文化適応力」「課題発見・解決力」といった能力や、「主体性」「協調性」「積極性」「責任感」といった態度・姿勢を、一層強化していく機会としてとらえている。

本学では、これまでインターンシップを経験する学生は極めて少数であったが、グローバル人材プログラムがスタートした昨年度以降、新たなインターンシップ先の開拓に取り組んできた。平成 25 年度については、初年度限りの措置として、正課科目の「インターンシップ」の認定条件を満たしていない場合であっても、一定の条件のもとで「グローバル人材プログラム認定インターンシップ」として評価し(正課科目としての単位認定はなし)、学生が積極的に社会と関わる機会を奨励するとともに、今年度からスタートした正課科目の新カリキュラムでは、学生がインターンシップに積極的にチャレンジできるよう、単位認定要件を緩和するなどの改革を行った。

また、平成 26 年夏には、協定大学である英国イーストアングリア大学の協力のもと、現地での社会実習を重視したジョイント・プログラムが実施された。

2. 平成 26 年度の目標

①正課科目としての「インターンシップ」への一本化

従来、本学ではインターンシップに参加する学生はごく少数で、正課科目としての「インターンシップ」の単位認定者数は年間 10 名にも満たないほどであった。これには企業とのマッチングの困難さ、学外での事前研修会への参加義務など、単位認定のハードルが高かったことも関係しており、学生は「そこまで面倒なプロセスを経てまでインターンシップに参加する理由がない」と判断していたようである。

「グローバル人材プログラム」が平成 25 年度にスタートしたことにともなって、インターンシップは同プログラムの修了認定を受けるための必須要件となったが、上述のように、それまでの不活発な状況では、インターンシップ先を十分に確保できるかどうかに懸念があったため、初

年度にあたる昨年度は「学内インターンシップ」や、本来は「ボランティア活動」に分類される活動に対しても一定の条件の下で「グローバル人材プログラム認定インターンシップ」として認めるといった例外的措置を認めた。しかし平成 26 年度からは、正課科目（教養教育科目）としての「インターンシップ」のみをグローバル人材プログラムの指定科目とした。

② 海外協定大学との連携によるジョイント・プログラム(社会実習型海外研修)の実施

平成 26 年 8 月から 9 月にかけて、初めての試みとして、海外協定大学である英国イースト・アングリア大学とのジョイント・プログラム(社会実習型海外研修)を実施し、将来グローバルに活躍する強い意思と能力のある人材を育てる(30 名参加予定)。

③ 地元で開催されるユネスコ世界会議への参画

「持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議」が平成 26 年 11 月 10 日～12 日に名古屋で開催されるというこの絶好の機会をとらえて、文部省や事務局担当自治体(愛知県、名古屋市)と連携し、特に留学経験者を中心に、インターンシップやボランティアの機会を設定する。

④ インターンシップからキャリア支援

愛知県から海外へ進出している企業や県内に拠点を持つ外国企業、観光産業、地方自治体、国際交流や国際協力事業を行っている NPO 等でのインターンシップを、学生のキャリア支援につなげ、国際社会や地域社会に貢献する人材育成のための指導体制をさらに強化し、留学経験者のスムーズな就職決定のため、帰国後から新学期開始までのギャップ期間に指導を実施する。

3. 平成 26 年度の実績

①インターンシップの実施

1 日 6 時間で 5 日間(総計 30 時間以上)の就業体験を行い、毎日日誌を書くことを単位認定条件としたインターンシップを、平成 26 年 12 月末までに 45 名が完了している。主なインターンシップ先は以下のとおりである。

[表 8-1 平成 26 年度インターンシップ先一覧]

地方自治体	豊橋市役所、愛知県選挙管理委員会、多治見市役所、飛騨市役所、愛西市役所、舞鶴市役所
一般企業	名古屋銀行、三井住友海上火災保険、損保ジャパン、三井不動産リアルティ、野村不動産、ドリームスカイ名古屋、名古屋キャッスル、道後プリンスホテル、日本交通トラベル、ブラザー、タキヒヨー、共同通信社、アドプランナー、ヤマナカ、レオパレスセンター岡崎店、セキスイハイム名古屋
その他	特別養護老人ホームこもればの郷

②ESD ユネスコ世界会議でのボランティア活動

11月10日～12日に名古屋市で開催されたESD ユネスコ世界会議には、本学から46名（文部科学省ボランティア17名、愛知県ボランティア29名）が参加した。参加した学生および業務内容は表8-2のとおりである。

[表 8-2 ESD ユネスコ世界大会ボランティア参加者および業務内容]

種別	参加人数／応募者 (内訳)	業務内容
文科省	17／35 (英米10、スペイン1 ドイツ2、国際4)	・各国代表団のエスコート業務(会場案内、周辺観光情報の提供、タイムスケジュール等の把握・管理) ・サイドイベント、ワークショップの補助業務 ・サイドイベント聴講・報告書作成
愛知県	29／43 (英米7、フランス4、 スペイン5、ドイツ2、 国際10、他学部1)	・同時通訳レシーバー・資料の受け渡し ・会場の案内、昼食補助、ゴミ分別指導 ・エクスカージョンの案内、同行

ボランティアに参加した学生を対象に、参加学生がどのようにこの経験を捉えているか、アンケート調査した。参加者46名にメールで依頼し、回収は20名（文科省10人、愛知県10人、回収率43.5%）であった。5段階評価（5：非常にそう思う～1：全くそのように思わない）による質問への回答結果を表8-3に示す。

[表 8-3 ESD 参加者に対するアンケート結果(5段階評価)]

質問事項	文科省 (10人)	愛知県 (10人)	全体 (20人)
①ESD 会場で、自分の語学力で十分業務ができた	4	2.8	3.4
②このボランティアに参加することで、自分の視野を拡げることができた	4.6	4.2	4.4
③このボランティアに参加して、異文化理解が深まった	4.2	3.8	4
④このボランティアに参加して、外国語(英語)の勉強に力を入れようと思った	4.9	4.7	4.8
⑤このボランティアに参加してよかったと思う	4.8	4.4	4.6

表8-3の結果から、参加学生の高い満足度がうかがえる(質問⑤)。視野の広がり(質問②)や異文化体験(質問③)に関して総じて評点が高いが、特に注目すべきは、ボランティア経験

が外国語学習の動機づけにつながっている(質問④)点である。これは、業務が外国語で遂行できたかどうか(質問①)とは関係ない点も重視すべきであろう。

自身の課題とする点は何かという問いについては、ほとんどの学生が「語学、国際的な常識を身につけたい」「日本の文化・地域なども英語できちんと説明できるようにならないといけない」と英語でのコミュニケーションに関する課題だけでなく、「積極性も必要であり、自分がいかに消極的であるかを思い知った」「自分がなぜこの専攻なのか、これから先どうしたいのかなど、もっと自分のことを深く考えないといけない」など、行動力やキャリア観、リーダーシップに関する課題についても言及していた。学生はこのボランティアの経験を通して、本事業で育成を目指す「行動力を持ち高い語学力を有した人材」像を強烈に意識したと言える。この結果からも、インターンシップやボランティアなどで具体的な地域社会の課題に取り組むことは、グローバル人材育成において、効果的であり、今後も積極的に学習機会を創出していくことが重要であると結論づけられよう。

4. 平成 26 年度の評価

①効果が表れていること

初年度にあたる平成 25 年度のインターンシップ参加実績(実際に規定の時間以上の就業体験をし、最終レポートを提出して認定を受けた者)は 35 名で、そのうち「学内インターンシップ」などの例外的措置によることなく、正課科目としての「インターンシップ」を完了した者は 20 名であったが、今年度は、正課科目に一本化されたにもかかわらず、平成 26 年 12 月末現在ですでに 45 名が完了している。

グローバル人材プログラムによるインターンシップ導入はまだ 2 年が経過したに過ぎないが、多くの本学学生がインターンシップに関心を示すようになり、キャリア形成について真剣に考えるようになった。またインターンシップ参加者の多くは、グローバル人材に求められる普遍的な能力、とくに「課題発見・解決力」「広義のコミュニケーション能力」などとともに、「主体性」「協調性」「積極性」「責任感」といった、社会人としての姿勢・態度を身につけた。

英国イーストアングリア大学とのジョイント・プログラム(社会実習型海外研修)には、29 名が参加し、学生から高い評価を得た。このプログラムに参加した学生は、帰国後トロント大学とのタンデム学習である“Global Writing Project”に参加したり、ESD ユネスコ世界大会でボランティア活動を行うなど、行動力とリーダーシップを育んできていることがうかがえる。

「持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議」も本学の学生にとって非常にインパクトのあるイベントであった。上記の「3. 実績」で言及したボランティア参加者の学びだけでなく、ESD に関連した外部講師による講座の実施や、iCoToBa での ESD ブックレットの作成など、さまざまな学習につなげることができた。これにより、地域社会におけるイベントを学習素材として、外部機関との協働教育ノウハウの蓄積ができたと評価できる。

②改善すべきこと

インターンシップ先と大学側が連携を取りながら学生にフィードバックし、共同で人材を育てていく仕組みがまだできていない点は、「真の産学協同」を目指す観点からも、今後取り組むべき課題である。

また、本学グローバル人材プログラムにおいては「インターンシップ」を「留学後のフォローアップ・プログラム」として位置づけているが、実際にインターンシップに参加した者には留学前の2、3年生も依然として多い。このことは、グローバル人材プログラムが当初想定していたものからみると若干ずれてしまっているものの、留学前の学生であってもインターンシップを体験すること自体が大きな成長につながることに変わりはなく、今後は、キャリア支援につながるような「留学後インターンシップ」のあり方を検討し、実績をつくる必要がある。

5. 平成 27 年度に向けての方策

地元産業界との連携では、インターンシップ先の企業等が当該学生の活動を評価して大学および学生にフィードバックし、大学と企業等が情報を共有しつつ、協同して学生のキャリア形成を支援していく仕組みを整える。

海外留学中でもキャリアを意識できるように、海外開催の就職フェアなどの情報を留学中の学生に提供する。

以上の方策を着実に実行に移していくため、グローバル人材育成推進室とキャリア支援室の情報共有と連携をさらに強化する。

また、従来のインターンシップだけでなく、ESD の事例のような、さまざまな学びの機会を創出することも次年度への課題としたい。

9. 講演会・セミナー・イベント

1. 概要

「グローバル人材育成推進事業」の採択から平成 25 年度まで、本学は、グローバル人材育成に関連するテーマで講演会・セミナーを開催し、本学の取組を学内外に情報を発信してきた。ちょうど事業の折り返し地点にある平成 26 年度は、学生のグローバルキャリア意識の醸成や留学への意識づけを目的としたものに注力した。

2. 平成 26 年度の目標

本学学生のグローバルキャリア意識の醸成、および留学や海外への興味を喚起する内容の講演会やセミナーを企画し開催する。小規模の座談会形式のセミナー開催を増やし、教育効果を上げる。

3. 平成 26 年度の実績

①グローバルキャリアセミナー

グローバルキャリアを目指す学生を対象に、実社会で活躍する社会人を招き、現場の話を聞く座談会形式のセミナーを開催した。セミナーは 2 回開催し、全部で 25 名の学生参加があった。本セミナーは平成 25 年度に引き続き開催したものであるが、複数回出席するなど熱心な学生も多く、好評のうちに今年度のシリーズも終了した。

第 1 回「通訳への道」(6 月 16 日)

加藤美貴子氏(英語、スペイン語通訳者)

プロ通訳者の加藤美貴子氏を招いて「通訳への道」を開催した。外国語学部生 17 名が参加し、座談会形式で活発な質疑応答が行われた。前半は学生の質問に答える形で、英語とスペイン語の両方の通訳になった経緯、通訳として活躍するために必要な資質についてなどを聞いた。



[通訳への道 セミナーの様子]

第2回「外交官への道」(6月23日)

高田真里氏(外務省大臣官房文化交流・海外広報課長)

外務省大臣官房文化交流・海外広報課長・高田真里氏を招き「外交官への道」を開催した。外務省の具体的な仕事内容、外交官を目指した理由、求められる能力や外国語スキル、勉強の仕方、仕事で辛かったことや嬉しかったこと、さらには、高田さんが中国の専門家でもあることから、日中関係の今後など幅広い質問が出され、予定時間をオーバーして活発な質疑が行われた。外交官といっても基本は人と人とのつながりであり、誠意をもって人と接し、心を込めて仕事に取り組むことが大事だと述べられ、学生たちは真剣に耳を傾けていた。

外務省の現役職員からアドバイスを受けることができたといへん役に立ったと、多くの参加学生に好評であった。



〔外交官への道 セミナーの様子〕

②県大ドイツデー「ドイツでドイツ語を学ぶ 世界を知る」(平成26年6月25日)

「交換留学とドイツの大学生活をめぐって」

Dr. Wieland Eins (ドイツ学術交流会東京事務所)

Tabea Kauf (東京・日独協会)

「県大生によるドイツ留学報告」

ヨーロッパ学科ドイツ語圏専攻学生

本セミナーは、昨年度に引き続いての開催である。DAAD(ドイツ学術交流会)のTabea Kauf氏による、現地情報・奨学金情報、ドイツ留学した県大生の体験談など、今後ドイツ留学を考えている学生にとって貴重な情報提供がなされた。また、ドイツの協定大学に留学したドイツ語圏専攻の学生による留学報告では、留学のアドバイスなど学生の立場にたった意見が述べられた。ドイツ留学を検討している学生をはじめ50名以上が参加し、懇親会も含め今年も大盛況であった。



〔ドイツデーのポスター〕



[ドイツ留学に関するプレゼンテーション]



[ドイツからの留学生との意見交換]

③グローバル講演会&座談会

「世界へ飛び立つ若者たちへーAC ミランサッカースクール愛知に学ぶグローバル人材育成」
(平成 26 年 11 月 12 日)

講演 マテオ・コント氏

(AC ミランサッカースクール愛知
テクニカルディレクター)

山田晃裕氏(コーディネーター兼通訳)

パネルディスカッション

司会:小池康弘(ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻)

吉安亜美(スペイン語圏専攻 4 年生)

河島健太(国際関係学科 3 年生)

中村 シルバ ビクトル(国際関係学科 2 年生)

マテオさんと山田さんとの座談会

進行:宮谷敦美(国際関係学科)

参加学生 外国語学部学生 7 名



[グローバル講演会のポスター]

11 月 12 日(水曜日)に、AC ミランサッカースクール愛知でテクニカルディレクターを務めるマテオ・コント氏を迎え、「世界へ飛び立つ若者たちへーAC ミランサッカースクール愛知に学ぶグローバル人材育成」というタイトルで講演会を開催した。講演会に先立ち、本学外国語学部学生 7 名が、コント氏と通訳兼コーディネータの山田晃裕氏(本学スペイン語学科卒業生)と共に、「グローバルに活躍するために私たちはどう生きるべきか」をテーマに座談会を行なった。座談会の司会進行は、宮谷教員が担当した。

座談会では、一人ずつ参加者が自己紹介を行った後、事前に学生が準備した質問事項について話し合い、さらに小グループに分かれて議論を深めていった。学生が事前に準備した質問は、コント氏には異文化体験やサッカーを通じた子どもの育成方法、グローバルに活躍

する人材を育成するために気を付けていることが中心であった。山田氏には、通訳者としてのキャリア形成に関する質問が多かった。英語と日本語、イタリア語が飛び交う座談会は熱気を帯び、学生も第一線で活躍する人の話に興奮していた。

講演会では、ACミランサッカースクールが目指している人材育成と、イタリア、クウェート、日本でのサッカー指導でコント氏が経験した異文化経験と、新しい世界にチャレンジすることのやりがいや楽しさについて、またご自身のエピソードを基に「CORAGGIO(勇気)」と「DIVERSITA(ちがい)」の重要性について熱く語ってくださった。コント氏の講演の後には、座談会に参加した学生の代表3名が報告を行なった。その中の一人は、座談会で印象的だったエピソードとして、コント氏が紹介したチョコレートケーキのたとえ話(両手にケーキがある。おいしいかまずいか、食べてみるまでは分からない。まずかったら、食べるのをやめればいい。食べきる義務はない。1つ食べておいしかったら、もう1つ食べてもいい。)を例に、挑戦と試行錯誤を繰り返すことで「自分の強さを出せる場所を見つけられる」というメッセージを受け取ったと報告した。

講演会の最後には AC ミラン本田圭佑選手のサイン入りグッズ争奪じゃんけん大会もあり、さらに会場は熱気に包まれた。



[マテオさんと山田さんとの座談会の様子]



[グローバル講演会の様子]



[パネルディスカッションの様子]

④グローバル関連講座 Immersion Program(平成 26 年 8 月 11 日~12 日)

8 月 12 日(火)~13 日(水)に「愛知県青年の家」で Immersion Program(外国語だけで生活することにより外国語能力向上を目指したプログラム)の合宿を開いた。各専攻言語(英語、中国語、ドイツ語、フランス語、スペイン語)を学ぶ本学学生 8 名が参加したほか、高校生(県内スーパーイングリッシュスクール拠点校など)20 名が、英語プログラムに参加した。また、本プログラムは、企画から実施まで海外留学を経験した本学学生のプロジェクト型学習の一環(「グローバル人材プログラム」指定科目「学生共同プロジェクト」)としても設計されており、4 名の iCoToBa 教員の指導のもと、22 名の学生がリーダーとしてプログラムを企画・実施した。

プログラムでは、日本語を使わずそれぞれの学習言語で 2 日間を過ごした。また、媒介言語を用いない直接法によるドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語の入門講座も開かれ、高校生にとっては英語以外の外国語に触れる貴重な機会となった。この入門講座を体験し新たな外国語学習の面白さに気づいた高校生が、急きょ英語のグループからドイツ語圏専攻の学生グループに変更した。この合宿に参加した高校生にとっては、英語以外の外国語学習の選択肢を考えるきっかけになったとともに、県大でどの程度まで自身の語学力を伸ばすことができるのか、実感してもらう機会になった。

初日は全参加者の 1 分間紹介のあと、各言語にわかれてアイスブレイキングの時間を設けた。そのあとスキット作りやフランス語の詩の朗読など、夜のタレントショー(演芸発表会)で発表する内容をチームごとに練習した。中国語チームは小道具にもこだわり、熱の入った演技を披露した。タレントショーの司会は、全員がわかる言語ということで英語チームが担当した。自由時間は各言語でゲームをしたり、夜遅くまで会話を楽しんでいたようである。

2 日目は英語によるラジオ体操からスタートした。朝食、掃除を終えたあと、各言語で独自のプログラムを 1 時間単位で行った。ディベート、ディスカッション、クイズ大会と、リーダー学生の創意工夫を競い合った。27 時間という短い時間であったが、参加者は外国語でコミュニケーションをとり続けるのは案外大変だということは実感できたと思われる。高校生の参加者からは、「外国語アワーで 2 言語体験したい」、「高校生だけで話し合って何かを作る機会があるとよい」「夏だけではなくほかのときにも開いてほしい」などの意見が寄せられた。2 日間のプログラムの内容についてアンケート結果では総じて評価が高かったが、これは参加者が非常に前向きだったことも影響していると考えられる。県大生対象アンケート結果も総じて高い評価であった。学生の意見として「英米学科以外でも気楽に参加できる英語プログラムがほしい」とか、「休憩時間はもっと短くてもよい」などがあつた。企画実施者であるリーダー対象アンケートでは、「準備時間を増やして、もっと満足度を上げたい」、「施設について下調べをしておく、より良いプログラムが提供できる」といった意見が出た。

夏のプログラムが好評であったため、2014 年度は春休み(2 月 14 日~15 日)にも同様のプログラムを開催する。



[Immersion Program の様子]

⑤グローバル関連イベント:ブラジル学校 Escola Alegria do Saber との交流

(平成 26 年 7 月 17 日)

愛知県豊田市のブラジル学校エスコラ・アレグリア・デ・サベール(EAS)豊田校の高等部の生徒 31 名と引率教員 2 名が本学を訪れ、ポルトガル語やブラジルに興味を持つ本学学生と交流を図った。当日は、2 限目にスペイン語圏専攻の渡会教員と本学非常勤の久保原講師が担当する「ポルトガル語 I」のロールプレイングに参加し、ポルトガル語で歌を一緒に歌うなどの教室活動に参加した。その後、学食で本学学生とともに昼食をとり自由にコミュニケーションを楽しんだ。昼食後は iCoToBa で、iCoToBa のモルガン教員とネリ教員の授業を体験した。3 限目は国際関係学科の高阪教員が担当する「多文化共生論」で、多言語表記をテーマとしたグループワークに参加した。授業後は、スペイン語圏専攻科目「ラテンアメリカ文化」の履修学生が案内役となり、キャンパスツアーに出かけた。ツアー終了後は、学生会館で日本語とポルトガル語での会話を楽しんだ。盛りだくさんの企画だったが、最後は、迎えるバスが到着しているにもかかわらず、時間を忘れていつまでも写真を取りあう姿がみられるなど、交流が深まった。

今回の交流は、本学日本語教員課程修了生の下田薫子氏が EAS で日本語教師として勤務していることから実現した。本学卒業生が地域で活躍する存在となっていることも知ることができ、本学学生にとっても有意義な機会となった。なおこの後、7 月 6 日(日)には、EAS から招待され、iCoToBa のネリ教員の引率のもと、「フェスタ・ジュニーナ」というお祭りに本学学生が参加した。

地域のブラジル学校と初めての交流イベントであったが、学びの多い時間となった。今後も交流を続け、双方の言語・文化の理解を深めるきっかけとするとともに、EAS の生徒にとっては日本の大学が身近な存在になることを願っている。



〔Escola Alegria do Saber との交流の様子〕

⑥就活直前キャリア講座(平成 27 年 2 月 9 日~26 日、全 6 回)

グローバル人材育成推進室とキャリア支援室が協働し、「就活直前キャリア講座」を開催した。対象は、平成 27 年 3 月から就職活動を始め外国語学部の学生である。本講座は、昨年度開催した「TOEIC&キャリア研修」のアンケート結果を基に、TOEIC とは切り離し、学生自身の学びのふりかえりとキャリアへの意識化、および就職活動で評価されるコミュニケーション能力の養成を目指し、その内容を大幅に変えた。開講場所を名古屋駅前のサテライトキャンパスにしたのは、春休み期間に入るため、受講学生の参加しやすさを考慮したことと、同じ日の午後にキャリア支援室主催の「県大 OB・OG に話を聞こう!」が開催されるため、講座と共にコミュニケーション実践の場を提供できると考えたからである。

6 回の講座の内容は表 9-1 の通りである。本年度は外部講師が 4 回を、本学教員が 2 回担当した。今年の講座内容は、ポートフォリオ作成に重点を置き、課題となっている学生の自律的な学びをサポートするインターネットポートフォリオのコンテンツ作成のテストケースともなっている。ポートフォリオの作成は、学生にとっては、一見ただ面倒な作業に思えるが、就職活動とつなげて解説することで、その意図を理解できるのではないかと考えたからである。講座はまだ全て終了していないので、検証は次の機会としたいが、受講している学生のポートフォリオの質と量は、これまでで一番充実している。この事例を基に次年度以降の段階的なポートフォリオ指導につなげていきたいと考えている。



〔就活直前キャリア講座の様子〕

[表 9-1 就活直前キャリア講座の内容]

日程	担当者	テーマ・内容
2月9日(月) 10:30～12:00	マイナビパートナーズ講師 河口友三佳	自分を知る！：自己分析の重要性と自己分析方法を理解する。
2月12日(木) 10:30～12:00	国際関係学科 宮谷敦美	ポートフォリオを作ってみよう！：大学時代をふりかえりポートフォリオ作成に取り組む。また、自分の経験をわかりやすく説明する練習を行う。
2月16日(月) 10:30～12:00	マイナビパートナーズ講師 河口友三佳	業界を知る！ 自分を魅せる！：業界研究のしかたをグループワークを通して理解する。
2月19日(木) 10:30～12:00	国際関係学科 宮谷敦美	面接対策① あなたの虎の巻を作る！：ポートフォリオと業界分析を活用し、想定問答集作成に取り組む。
2月23日(月) 10:30～12:00	マイナビパートナーズ講師 河口友三佳	エントリーシートを書いてみよう！：ポートフォリオを最大限に活用し、エントリーシートを書く方法について学ぶ。
2月26日(木) 10:30～12:00	マイナビパートナーズ講師 河口友三佳	面接対策② 模擬面接でアピールしよう！：実践的に面接の心得やマナーを学ぶ。

4. 平成 26 年度の評価

①効果が表れていること

本年度開催した講演会やイベントは、できる限り双方向コミュニケーションが可能な参加型とした。そのため参加学生が提出したコメントシートからはそれぞれのイベントについて評価しているものが多く、留学や自身のキャリアの意識化にうまく結びつけることができた。

②改善すべきこと

本年度開催したイベントの多くは昨年度の反省を基に改善したものが多く、学生に合った内容であったと評価できる。開催時期をできるだけ分散させた点もよかった。これらは、本年度の目標を学生への啓蒙に集中したため、効果的に実施できたと考えられる。次年度も目的を定め、むやみに回数を増やすのではなく、効果的な開催計画を立てる。

5. 平成 27 年度に向けての方策

平成 26 年度は、学生の啓蒙や教育を目的としたものが多かったが、次年度は最終年度に向けて、本事業の成果を発信し、他大学や地域と共有できる機会を設ける。具体的には、平成 27 年 11 月に本学と愛知大学との共催で「グローバル西日本第 1 ブロック共同イベント」の

開催が決定している。地域におけるグローバル化をテーマとし、これまで本学が取り組んできた取り組みについて広く発信する。その際、成果発表だけでなく、教育手法も共有する場とし、グローバル人材育成に寄与できるイベントとしたい。

10. FD 活動

1. 概要

本年度より、課題であったグローバル事業に関連するFD活動を開始した。本年度行なったものは、①前期および後期開催の iCoToBa の全授業アンケートを実施し、授業報告で課題となる点を明らかにし、次学期への改善のサイクルを構築すること、②外国語学部の FD 活動で本事業で取り組んでいる教育実践を紹介し、外国語学部の教員に外国語による PBL 型授業や CBL(Content-Based Learning)の手法を広く紹介すること、の2点であった。

2. 平成 26 年度の目標

本年度の目標は、①前期および後期の iCoToBa の全授業でアンケートを実施し、iCoToBa 年報の授業報告に、アンケート結果の分析に基づき、課題とアクションを意識化させるサイクルを作ること、および、②外国語学部の FD 活動において本事業で取り組んでいる教育実践を紹介・議論する場を設け、本事業の蓄積を学部教員と共有し、教員のグローバル教育の理解を高めること、の2点である。

3. 平成 26 年度の実績

①iCoToBa 授業アンケートの実施

平成 26 年度前期、後期に開講した iCoToBa の全てのクラスで、授業アンケートを実施した。アンケートは、本学の正課授業との比較が可能になるように、教育支援センターが実施している授業アンケートとほぼ同じ項目で構成されている。アンケート項目は以下の通りである。

[質問項目]

あなた自身について:

- Q1. 事前に授業概要を読むなどして授業内容を知らうと努めましたか。
- Q2. この授業における欠席回数を報告してください。
- Q3. この授業に関して、授業外での学習・実践など自主的な努力をしていますか。
- Q4. この授業を受講して、あなたの語学力は伸びましたか。
- Q5. この授業を受講して、あなたの語学学習の方法はよくなったと思いますか。

授業および担当教員について:

- Q1. 授業概要や学期開始時の授業に関する説明は、わかりやすかったですか。

- Q2. 授業概要や学期開始時に説明された授業の目的は、授業で達成されていたと思いますか。
- Q3. 教員の話し方、説明の仕方はわかりやすかったですか。
- Q4. 教材(教科書、配布物など)は、有用でしたか。
- Q5. ホワイトボードへの板書、パワーポイントなどのスライドは見やすかったですか。
- Q6. 教員は学生の反応や理解度・到達度に留意しながら授業を進めていましたか。
- Q7. 教員は、一方的な説明だけでなく、質問、発言、発表など学生の積極的な参加を促しましたか。
- Q8. 教員の授業への意欲・熱意は感じられましたか。
- Q9. この授業によって、もっと上達したい、もっと学びたいという気持ちになりましたか。

各授業の結果は、pp.121-125 をご参照いただきたい。

②外国語学部 FD(テーマ PBL 型授業実践)での報告 (平成 27 年 1 月 28 日)

This presentation was given to the faculty members of the School of Foreign Studies at Aichi Prefectural University on January 28th 2015 as part of the faculty development program. The topic for this session was the teaching methodology known as PBL (interpreted as both “problem-based learning” and “project-based learning.”) The session featured professors from different departments presenting courses geared towards developing students’ teamwork skills and problem-solving abilities. iCoToBa was given the chance to present its activities in Japanese.

iCoToBa’s presentation began with director Atsumi Miyatani’s introduction of iCoToBa’s principles. She described how PBL methods were integrated into its curriculum requirements, focusing on the global human resource program’s three required categories: 日本紹介, リサーチ発信プロジェクト, and 比較文化セミナー. She also mentioned the teaching philosophy of CLIL (content and language integrated learning) as motivating much of iCoToBa’s PBL courses.

After the introduction, iCoToBa English instructors Brett Hack and Fern Sakamoto presented examples from their courses in detail. Brett Hack first described his リサーチ発信プロジェクト course, “Research Project and Presentation.” He focused on how the course put an emphasis on planning and teamwork, as well as on the high degree of student freedom the course allows. He concluded the section by showing some examples of student projects. After this, he moved on to describe his 比較文化セミナー course, “What is Global, Anyway?” He focused on how the course embodies CLIL principles and encourages the development of critical thinking skills. He finished by presenting the final printed course volume, to which

the students contributed essays. (See Section 9.1 of this report.) Fern Sakamoto concluded the presentation by describing her 日本紹介 course, “J-Ambassador.” She explained how the course encouraged students to reject stereotypical ideas of Japan and to become more aware of the cultural filters that inform their views of the world. This change of attitude includes reducing students’ reliance on dictionaries and pushing for natural language use. She gave detailed descriptions of J-Ambassador’s many PBL activities, including student projects prepared in Japan and conducted at the University of East Anglia in Britain, as well as a printed Nagoya guidebook prepared for the UNESCO ESD World Conference. She concluded her presentation by describing her future plans for the course.

The presentation was an excellent chance to raise awareness of iCoToBa’s activities among the faculty of Aichi Prefectural University. The presenters were personally congratulated by the research director, who informed them that the faculty members had become interested in collaborating with iCoToBa teachers.

③その他、PBL 型教育、CBL 教育実践の発信

■UNESCO ESD Booklet (Fern Sakamoto)

Concept: J-Ambassador summer course students composed a booklet for use by UNESCO ESD World Conference participants.

Purpose: To provide students with a genuine opportunity to utilise skills learned through the course.

To cultivate greater reflection on an aspect of Japanese culture.

To encourage students to tailor their communicative skills to suit different audiences.

Date: September 16-25th

Participants: 5 J-Ambassador students

Venue: iCoToBa

Program: The UNESCO Education for Sustainable Development (ESD) World Conference was held in Nagoya on November 10th, 11th and 12th. Discussions with conference organisers gave rise to the opportunity for students to compose a booklet for use by conference participants. Students worked on the booklet in class, each students choosing and composing a paragraph introducing their recommendations under a range of headings (foods to try etc.). Students edited their entries with teacher assistance, and compiled them into a shared file. The resulting booklet was approved by conference organisers, and 500 copies were

professionally published and distributed to conference participants. Two international newspapers ran stories on the booklet.

ブックレットは、以下の URL から PDF ファイルとしてダウンロード可能

URL <http://www.for.aichi-pu.ac.jp/global/news/2014/10/001198.html>



■ Open Class: What is Global, Anyway – Final Conference (Brett Hack)

This event was simultaneously the final lesson for Brett Hack's advanced English course, "What is Global, Anyway" and a showcase for the global impetus within iCoToBa courses. Students in the course had composed theoretical essays that engaged in theoretical analysis of contemporary global issues. (See Section 9.1 of this report.) In order to strengthen students' sense of accomplishment and to increase the rigor of the class, the final lesson was conducted as an academic conference. This took place on January 23rd 2015 from 10:30 am to 12:30 pm. Four volunteers read their essays aloud with accompanying slides. The other class members read the presenters' essays beforehand and prepared challenging questions. These were asked at the end of each reading, and were followed by lively discussions. Other iCoToBa instructors and students of other iCoToBa courses also joined in the event as audience members. Professors from other departments were also invited. A convivial reception, with an international selection of food and drinks provided by Brett Hack and Atsumi Miyatani, followed the event.



■Japanese Culture Presentation Contest (Fern Sakamoto)

Concept: J-Ambassador students were encouraged to utilize skills learned through the course in the Kyoto University of Foreign Studies Annual Japanese Culture Presentation Contest.

Purpose: To provide students with a real-world application for skills learned through the course.

To cultivate greater reflection on an aspect of Japanese culture.

To motivate students to continue to develop their communicative and presentation skills.

Date: December 20th 13:00~

Participants: Contest finalists (2 Aichi Prefectural University students)

Venue: Kyoto University of Foreign Studies

Program: J-Ambassador students were encouraged to enter the competition to further develop skills acquired and practiced through the course. Four students (one of whom was not a class member) elected to enter the contest, with two students making it to the final round. All preparation for the contest was carried out outside of class time. The two finalists took first place in the contest, and won round trip tickets to New York and book vouchers.

コンテストの様子は You tube に公開されている。写真は優勝した滝玲名さん、星野佐和さん (国際関係 3 年) URL <https://www.youtube.com/watch?v=hQKDQ4M9Kqc>



■グローバル・ライティング (宮谷敦美)

2014年10月から12月にかけて、本学学生とカナダ・トロント大学東アジア学科で日本語を学んでいる4年生によるグローバル・ライティングプロジェクトを実施した。本学からは、iCoToBaで英語科目を受講している学生から希望者を募り、7名(うち英米6、国際関係1)が参加した。トロント大学は4年次科目1“Modern Standard Japanese IVb”を履修している学生18人が参加した。本学からは宮谷が、トロント大学側は、東アジア学科専任講師の有森丈太郎氏(本学日本語教員課程修了生)とで本プロジェクトを立案、実施した。iCoToBa担当事務職員岡崎まどかが双方のコミュニケーション窓口となった。

本プロジェクトは、「書物やインターネットサイトからは知ることができない日本、カナダの社会問題についてどのように考えているか、インターネット上で議論をすることで理解を深める」ことを目的としている。進め方は、以下の通りである。1)Facebook にコミュニティを開設し、互いに自己紹介する。2)話し合いにより決めたトピックについて、学習言語で質問を相手に送る。3)届いた質問について、自分の考えを相手の学習言語で書く。4)受け取った回答を読み、自分の意見や質問を相手に送る。5)さらに質問に答える。6)全体へのコメントを相手に返す。

本学の学生が取り上げたトピックは、「ストライキ(What do you think of strike activities?)」「移民教育(What do you think of immigrant education system?)」「多言語表記(What do you think about a multilingual notation?)」「カナダ人のアメリカ人への意識・印象(The consciousness of the USA and Canadian identity)」「食物廃棄(What do you think about throwing out lots of food?)」「学校で過ごす時間の長さ(Difference of time spent at school between 2 countries)」の6項目だった。トロント大学の学生が取り上げたトピックは、「就職活動」「いじめ」「同性愛」「塾」「日本の労働システム」「オタク文化」の6項目であった。

2週間に1回昼休みに iCoToBa に集まり、それぞれのトピックについて考えたことを話合った。学生は、「これまで当たり前だと思っていたことを、トロント大学の学生に指摘されてはじめて深く考えてみた」「日本の『オタク』のイメージと、カナダでのイメージがまったく異なるので驚いた」「トロント大学で日本語を学ぶアジア系の学生が多いことに驚いた」など、このプロジェクトを通して、ステレオタイプから一歩踏み出して考えることの大切さを実感しているようであった。



このプロジェクトを始めた当初は、異文化理解と外国語能力の向上を目指していたため、トロント大学側の質問には全て日本語で、本学側の質問には全て英語でやりとりするという「タンデム学習スタイル」だったが、互いにとって学びがより深くなるという理由から、自然発生的にすべてのコメントが日英バイリンガルになっていったことはプロジェクトを立案した側にとってうれしい誤算だった。12月に行ったプロジェクトのふりかえりでは、同年代の外国の大学で学ぶ学生と意見を交わすことの楽しさについて評価が高く、今後このようなプロジェクトがあれば、全員がぜひ参加したいと答えた。

本プロジェクトについては、学生が Web ニュースレターにまとめており、年度内には iCoToBa HP に掲載される予定である。

4. 平成 26 年度の評価

①効果が表れていること

iCoToBa における授業が 2 年目に入り、昨年度に iCoToBa 教員が 1 年かけて策定した各科目の内容について、アンケート実施により客観的な評価を得て、改善のための視点を得ることができた。また、本事業で蓄積してきた教育手法とグローバル事業に関する現状の課題について、本学教員と共有する機会により、次年度以降の正課科目との教育内容とつながりをもたせる話し合いの契機となった。

②改善すべきこと

本年度実施したアンケート結果は、主に教師の授業方法に対する項目しか検討していない。アンケートは学生の外国語学習の取り組みに関する情報も得られる質問構成にしているが、これを iCoToBa における授業計画の作成の参考資料とすることができなかった。

5. 平成 27 年度に向けての方策

本年度の取り組みはすべて初めてあったが、概ね目標としていたことが実施できた。来年度は、授業アンケート結果を詳細に分析し、事業の参考資料とする。また、平成 28 年度の事業終了にむけ、さらに学部教員との授業ノウハウを共有する機会を増やしつつ、外国語教育に資する教育資源を蓄積する。

11. 入試・広報活動

1. 概要

大学におけるグローバル人材育成にあたって、「入口」にあたる入試においては、「グローバル人材候補者」になりうる優秀な生徒のリクルート、およびそうした生徒に対する早期の動機づけを重視している。この観点から本学では、①高校(生)への入試広報の強化や高大連携事業、②新しい入試方式(推薦枠)の導入、③グローバル人材の育成を見据えた入学前指導、を3つの柱としている。

①に関しては、通常の入試広報活動に加え、高校生や高校教員むけのセミナーを開催しているほか(平成 26 年度は主として教員対象に「愛知県立大学世界史セミナー」を実施)、グローバル・ミニオープンキャンパス、高校生と本学学生が一緒に外国語を学ぶイマージョンプログラムを実施している。入試広報活動の一環として、高校生や PTA などによるキャンパス見学ツアーでは、iCoToBa をコースに組み込み、8 月のオープンキャンパスでは、生徒だけでなく保護者も対象に「グローバル人材プログラム」の説明を行った。

②に関しては、外国語学部において、県内の高校のみを対象としていた推薦入試(定員 23 名)に加えて、昨年度から新たに「全国枠のセンター試験利用型推薦入試(グローバル人材枠、定員 43 名)」を導入した。

③については、上記全国枠での推薦入試合格者を対象に、「入学前オリエンテーション」を2月中旬に実施し、英語力の向上や主体的で広い視野からの学修に取り組む動機づけを行っている。

2. 平成 26 年度の目標

①高校(生)向けの広報の拡充

公開講座、模擬授業、ガイダンス、高校訪問等、様々な手段により「グローバル人材育成プログラム」の存在や魅力を広く高校(生)に周知、アピールする。こうした活動を通じて、グローバルな視野を持った高校生に入学の動機づけを行い、グローバル人材に求められる基本的な能力(積極性や協調性、コミュニケーション力など)を有する入学者を増やす。

②入試制度改革の実施(新たな推薦入試制度の導入・広報活動)

グローバル人材の育成を見据え、平成 26 年度入試から新たな推薦入試「大学入試センター試験を課す全国枠の推薦入試(グローバル人材枠)」を開始した。そのための積極的な広報活動を展開する。

③入学希望者、入学予定者に対する指導(動機づけ)

本学への入学を希望する高校生や、推薦入試合格者等の入学予定者に対し、たとえばイメージプログラムの開講や、入学前指導の実施(春休み期間中)などを通じて、英語力をさらに伸ばし、大学での学修や留学に対する動機付けにつながる取組を行う。

3. 平成 26 年度の実績

①高校(生)向けの広報の拡充

通常の入試広報活動に加え、平成 26 年度は「愛知県立大学世界史セミナー」を実施し、本学教員が研究分野の最先端を紹介した。同セミナーには高校教員、一般市民など約 50 名が参加した。

高校生や PTA などによるキャンパス見学ツアーやオープンキャンパスでは、iCoToBa(多言語学習センター)をコースに組み込み、可能なかぎり「体験型」の案内を取り入れている。8 月のオープンキャンパスでは、生徒だけでなく保護者も対象に「グローバル人材プログラム」の説明を行ったが、予想をはるかに超える 200 名以上が詰めかけ、大講義室で立ち見が出るほどであった。グローバル人材プログラムや iCoToBa の存在は、高校生が本学を選択するプロセスで大きな影響を与えつつある。

このほかにも、外国語学部教員による高校出張講義や高校の大学訪問を積極的に受け入れた。表 11-1 は、平成 26 年度に高等学校で行った出張ガイダンス、模擬授業の一覧、表 11-2 は iCoToBa を訪問した高等学校の一覧である。

[表 11-1 平成 26 年度出張ガイダンス・模擬授業実施一覧]

学校名・学年	実施日	内容	参加者	担当
岐阜県立斐太高等学校 2、3 年生	5 月 22 日	学部学科 説明	48	フランス語圏専攻 中田 晋自
山梨県立甲府南高等学校 3 年生	5 月 30 日	模擬授業	44	英米学科 梶原 克教
愛知県立旭野高等学校 2 年生	6 月 2 日	模擬授業	28	英米学科 熊谷 吉治
愛知県立常滑高等学校 2 年生	6 月 12 日	模擬授業	69	英米学科 久田 由佳子
愛知県立横須賀高等学校 2、3 年生	6 月 16 日	模擬授業	45	国際関係学科 東 弘子
愛知県立国府高等学校 全学年	7 月 3 日	模擬授業	41	国際関係学科 エドガー ライト ポープ

三重県立松阪高等学校 全学年	7月11日	模擬授業	40	中国学科 小座野 八光
名古屋市立緑高等学校 全学年	7月14日	模擬授業	83	スペイン語圏専攻 小池 康弘
名古屋市立向陽高等学校 1年生	7月16日	模擬授業	52	英米学科 大野 誠
愛知県立小牧南高等学校 3年生	7月16日	模擬授業	33	スペイン語圏専攻 谷口 智子
愛知県立豊田北高等学校 1、2年生	10月15日	模擬授業	49	フランス語圏専攻 天野 知恵子
岐阜県立岐山高等学校 1年生	10月17日	模擬授業	49	国際関係学科 鵜殿 悦子
愛知県立半田高等学校 2年生	10月23日	模擬授業	35	英米学科 大森 裕實
愛知県立岡崎北高等学校 2年生	10月27日	学部学科 説明	38	英米学科 堀 一郎
愛知県立半田東高等学校 2年生	10月29日	模擬授業	39	ドイツ語圏専攻 杉原 周治
岐阜県立恵那高等学校 2年生	11月6日	模擬授業	38	中国学科 小座野 八光
愛知県立丹羽高等学校 2年生	11月6日	模擬授業	38	国際関係学科 宮谷 敦美
岐阜県立中津高等学校 2年生	11月6日	模擬授業	24	英米学科 中村 不二夫
愛知県立碧南高等学校 2年生	11月10日	学部学科 説明	41	国際関係学科 木下 郁夫
愛知県立瑞陵高等学校 2年生	11月12日	模擬授業	29	スペイン語圏専攻 谷口 智子
名古屋市立桜台高等学校 2年生	12月12日	模擬授業	43	英米学科 久田 由佳子

[表 11-2 平成 26 年度 iCoToBa 訪問者一覧(高等学校)]

学校名・学年	月 日	訪問者数			
		生徒	教諭	PTA	合計
岐阜県立可児高等学校 3 年生	4 月 25 日	40	2	0	42
愛知県立新城東高等学校 2 年生	5 月 29 日	30	2	0	32
私立春日丘高等学校 保護者	6 月 13 日	0	3	40	43
私立岡崎城西高等学校 2 年生	6 月 16 日	60	2	0	62
愛知県立知立高等学校 2 年生	7 月 7 日	42	2	0	44
愛知県立御津高等学校 2 年生	7 月 8 日	45	2	0	47
三重県立津西高等学校 1 年生	9 月 5 日	39	2	0	41
愛知県立日進高等学校 1 年生 英米学科入学希望者	10 月 17 日	12	2	0	14
計		268	17	40	325

②グローバル・ミニオープンキャンパス

平成 26 年 7 月 21 日(13:30～16:30)、「外国語学部グローバル推薦入試」の広報を目的とする「グローバル・ミニオープンキャンパス」が開催された。グローバル人材育成推進室が主催し、入試・広報課と iCoToBa の協力で実施された。

東海 3 県のスーパーグローバルハイスクールおよび英語科・国際科を有する高校(2、3 年生の生徒および引率教員)を対象として参加者を募った結果、9 校から 33 名の生徒と 2 名の教員が参加した(参加校および参加人数は以下の通り)。

愛知県立千種高等学校(1 名)、安城東高等学校(5 名)、刈谷北高等学校(6 名)、岡崎北高等学校(4 名)、名古屋市立名東高等学校(4 名)、岐阜県立関高等学校(4 名+引率教員 1 名)、三重県立川越高等学校(4 名+引率教員 1 名)、津西高等学校(2 名)、私立名城大学附属高等学校(3 名)

当日は次のような企画をおこなった。

- 1) 外国語学部紹介:グローバル推進室担当教員による学部紹介および国際交流室職員による留学案内
- 2) iCoToBa 紹介:グローバル推進室担当教員および iCoToBa 職員による英語を用いた iCoToBa の活動紹介
- 3) iCoToBa 体験授業:iCoToBa 教員による外国語の体験授業
 - ①英語 ②フランス語、スペイン語、ドイツ語から 1 言語
- 4) 入試説明:入試広報室長による外国語学部の入試案内

参加者アンケート(各企画を5段階で評価)の結果は、次の通りとなっており、大変高い評価であった。

1) 外国語学部紹介	4.37
2) iCoToBa 紹介	4.54
3) iCoToBa 体験授業	4.74

また自由記述欄では、次のような声が寄せられた。

- ・ iCoToBa の詳しい話やOCだとわからないことが聞けてとてもよかった。さらに国際に興味が湧いた。
- ・ 体験授業が楽しかった。
- ・ 普通のオープンキャンパスより外国語学部について詳しく知ることもできたし、体験もできて非常によかった。ありがとうございました。
- ・ パンフレットだけじゃわからないことをたくさん知れてよかった。留学制度が整っていることがよくわかった。
- ・ 県大に絶対行こうと思った。来てよかった。頑張ります。
- ・ 少人数しか参加できない授業に参加できてよかった。大学のイメージが膨らんだのもっと勉強しなきゃいけないと強く思った。ありがとうございました。
- ・ 実際に学生の方が iCoToBa を利用している様子を見ることができ、日常風景を見られたのでよかった。
- ・ すごく詳しく説明していただいてとても分かりやすかった。ありがとうございます。
- ・ 英語以外の授業をネイティブの先生で受けられるのはすごいいいと思いました。
- ・ 外国語学部に興味がある人にとってはとてもありがたいと思う。学部の説明＋外国人と話す体験授業は最高です。
- ・ グローバルな環境が作られていて異文化もたくさん学ぶことができると改めてわかった。
- ・ ネイティブの先生と話すことができたのは本当によかった。もう少し時間が長かったらよかったです。
- ・ 愛知県立大は他の大学とは違うところがあってすごいなと思った。
- ・ 県大でも生徒を自立させるためには様々な努力が必要であることがよくわかりました。先生方とお話できてよかったです。今後ともよろしくお願いします。



[グローバル・ミニオープンキャンパスの様子]

③「大学入試センター試験を課す全国枠の推薦入試(グローバル人材枠)」の実施

平成 26 年度から新たに「全国枠のセンター試験利用型推薦入試(グローバル人材枠、定員 43 名)」を導入した。平成 26 年度は、全国 32 道府県から 250 名の応募があり、45 名が合格した。2 年目となる今年度は、全国 26 道府県から 182 名の応募があり、48 名が合格した(データについては、表 11-3、表 11-4、表 11-5 を参照)。

[表 11-3 全国枠センター試験利用型推薦入試(グローバル人材枠、定員 43 名)実施結果]

学科・専攻	外国語学部・平成 27 年度応募状況 (括弧内・昨年度数値)			
	募集定員	志願者数	最終合格者数	実質競争倍率
英米学科	12	65 (105)	13 (12)	5.0 (8.8)
フランス語圏専攻	6	26 (19)	6 (6)	4.3 (3.2)
スペイン語圏専攻	6	32 (40)	8 (8)	4.0 (6.7)
ドイツ語圏専攻	6	12 (28)	6 (7)	2.0 (4.7)
中国学科	6	18 (12)	7 (5)	2.6 (2.0)
国際関係学科	7	29 (46)	8 (7)	3.6 (6.6)
合 計	43	182 (250)	48 (45)	3.8 (5.8)

[表 11-4 志願者の出身道府県および人数]

志願者 数	道府県名および人数(カッコ内は合格者内数)	
	平成 26 年度	平成 27 年度
10 名 以上	愛知 82(22)、岐阜 45(5) 三重 36(5)、静岡 17(5)	愛知 73(22)、岐阜 36(11) 三重 15(4)
3～9 名	兵庫 9(2)、滋賀 5(1)、徳島 5 新潟 4、和歌山 4(1)、茨城 3(1) 石川 3(1)、長野 3、岡山 3、愛媛 4	静岡 8(2)、兵庫 6(1)、京都 5(1) 福井 5、大阪 4(1)、長野 3(1) 滋賀 3(1)、岡山 3(1)、愛媛 3
2 名	北海道、秋田、山梨(1)、京都(1) 大阪、鳥取、高知、熊本、宮崎	宮城、栃木、富山、石川、熊本
1 名	宮城、埼玉、富山、福井、奈良、 島根、広島、鹿児島、沖縄	北海道、茨城(1)、新潟、山梨(1) 和歌山(1)、広島、香川、福岡
志願者 なし	青森、岩手、山形、福島、群馬 栃木、千葉、東京、神奈川、山口 香川、福岡、長崎、大分	青森、岩手、秋田、山形、福島、群馬 埼玉、千葉、東京、神奈川、奈良 鳥取、島根、山口、徳島、高知、佐賀、 長崎、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

[表 11-5 平成 26 年度、27 年度の志願者に関する質的分析(主な特長など)]

	平成 26 年度	平成 27 年度
課外活動 での顕著 な活躍	津軽三味線全国大会優勝、ダンス選手 権全国大会優勝、陸上競技全国大会 準優勝、東日本弓道大会女子団体戦 優勝、国際的な合唱コンクールでグラン プリ受賞 県大会ベスト 8 以上または全国大会出 場経験者(多数) 例:吹奏楽、オーケストラ、ギター・マンド リン、将棋、水泳、弓道(団体・個人)、 バトントワリング、バドミントン、テニス(ダ ブルス)、女子柔道個人戦、空手、バレ ーボール、体操、ハンドボール、NHK 全国高校放送コンテスト、全国高校ディ ベート大会、全国書道展、全国俳句・短 歌コンクール等) その他)華道部、茶道部での活躍など 日本文化に関する造詣	なぎなた県大会優勝・全国大会出場、 バドミントン・ダブルス県大会優勝、フェ ンシング団体戦県大会優勝、高校ダン スコンクール県大会最優秀賞、ホッケー 県大会準優勝、ラグビー県大会 3 位、卓球団体戦県大会 3 位、陸上競技 (中距離)北信越大会 5 位入賞、陸上 競技(複合種目)県大会 3 位・東海大会 8 位入賞、陸上競技(投てき)県大会 4 位入賞、陸上競技(短距離)県大会 6 位入賞・東海大会出場、箏曲部全国大 会出場、NHK 全国放送コンテスト 3 位、ギターマンドリン音楽コンクール全 国大会出場、吹奏楽部県大会金賞 その他)華道部、茶道部での活躍など 日本文化に関する造詣

リーダー シップ	生徒会長、生徒会役員・委員長、部活動での部長など	生徒会役員、委員長、部活動での部長、副部長など
高度な英語能力や 国語力	英検準1級、TOEIC850点 GTEC690点以上、漢字検定2級等	英検準1級(2級多数)、TOEIC865点 (620点以上多数)、GTEC700点以上 (600点以上多数)、漢字検定2級(準 2級多数)等
ユニーク な活動や 経歴	ペットボトルキャップ回収によるポリオワクチン購入資金集め、地域清掃活動やNPO等でのボランティア活動(継続的に活動)、企業と連携して地元物産を通信販売する活動、通信制高校からの受験、海外留学経験(1年間)、自分自身で企画した海外研修など	NPOや地域でのボランティア活動 長期海外生活経験者 海外留学経験

③入学予定者に対するオリエンテーションの実施

グローバル人材育成を見据えた、全国枠推薦入試合格者に対する入学前オリエンテーションを以下の通り実施した。プログラム概要および参加者による評価(オリエンテーションの最後にアンケートを実施)の結果は表 11-6 の通りである。

日時：平成 27 年 2 月 18 日(水)14 時～16 時 40 分

場所：iCoToBa(多言語学習センター)

参加者数：合格者 48 名(13 府県)中、43 名(12 府県)が参加

[表 11-6 入学前オリエンテーション・プログラムの内容と参加からの評価]

プログラムの内容	評価
第一部:アイスブレイキング・セッション 参加者同士の自己紹介、自分の学科/専攻を選んだ理由、将来の夢や大学時代にチャレンジしたいことなどを共有する。前半は学科/専攻ごとに、後半は様々な学科/専攻を混ぜてグループをつくり、様々な考え方に触れることで相互に刺激しあうきっかけをつくる。教員、ネイティブ教員も参加し、一部英語を交えて行った。	4.77
第二部:先輩学生との交流・ディスカッション 各学科・専攻ごとに先輩学生がチューター役となり、所属学科/専攻の特長をPRし、大学の授業、生活全般、留学についてアドバイスし、質問に答えた。	4.95
第三部:e-Learning 演習と語学学習アドバイス iCoToBa で提供している e-Learning 教材を実際に使って実習を行うとともに、講師から語学学習に関するアドバイスをを行った。参加者には仮 ID が付与され、春	4.58

休み中もシステムを利用して自主的に学習できるようにした。	
第四部：ふりかえり オリエンテーション全体をふりかえり、大学時代にチャレンジしたいことをあらためてイメージし、入学までの期間どんな取り組みをするか、どのような大学生活を送るかを考えさせる。	4.61
プログラム全体	4.86

＊評価点は 5 点満点での平均値。参加者 43 名全員が回答。



〔入学前オリエンテーションの様子〕

4. 平成 26 年度の評価

①効果が表れていること

入試広報効果として、本学における「グローバル人材プログラム」や iCoToBa の存在が、受験生が本学を選択することに大きく寄与している点が挙げられる。たとえば、推薦入試の志願理由書の中で、「グローバル人材プログラム」やオープンキャンパスでの iCoToBa 訪問体験に言及する生徒が、特に今年度は多くみられた。また、夏のオープンキャンパスで企画した保護者向け説明会では、「グローバル人材プログラム」の説明に 200 名以上の参加者があり、立ち見が出るほどの盛況であった。

新たに導入された外国語学部の「全国枠センター試験利用型推薦入試（グローバル人材枠、定員 43 名）」に関しては、導入初年度に比べて応募者数や出身県数が減ったものの、全国 26 道府県から 182 名の応募があった。応募者ゼロの県も少なくないが、昨年度ゼロだった県（栃木、香川、福岡）からの応募もあり、本制度の存在自体はある程度知られていると思われる。

応募者の志願理由や高校時代の取組などを分析すると、多様で優秀な生徒が多数応募してきており、志願理由も明確な生徒が多い。部活動などで県大会上位入賞、あるいは全国大会出場経験のある生徒や、極めて高い英語能力を有している生徒も少なくない。後者に関し

て言えば「英検 2 級」「GTEC 600 点」「TOEIC600 点」などは、応募者全体のレベルからみれば、標準的といってよい。

全国枠での推薦入試制度の新設の狙いのひとつは、全国から優秀で目的意識の明確な人材を本学に集めることにある。現状は、本学在学生の 70%以上が愛知県内出身者であるが、全国を対象にグローバル人材を目指す意思と能力を持つ生徒に推薦の枠を広げたことで、学生構成が「多様化」することは、結果として県内出身の学生にとっても大きな刺激となる。2 月に実施した入学前オリエンテーションでは、「多様性」を意識したグループ編成やプログラム構成を工夫し、参加生徒はお互いに刺激を受けていた。

入学前オリエンテーションの実施の趣旨は、大学合格が「ゴール」なのではなく、「あらたなスタート」なのだと強く認識させることにある。グローバル人材とは何か、幅広い視点から教養を身に付けることがなぜ大切かなど、「学ぶことの意味」を伝え、「知識」と「態度・姿勢」の両面から、大学生として何が必要か考え、自分自身が取り組むべき課題を発見する機会となっている。

②改善すべきこと

全国枠推薦制度の導入について、昨年度は応募者 250 名のうち 82 名が愛知県からであり、これに岐阜、三重、静岡を加えると 180 名 (72%) が東海 4 県からの応募であった。この傾向は今年度も同様で、応募者 182 名中、73 名が愛知県から、132 名 (72.5%) が東海 4 県からである。東海地域以外からの応募者を増やすための広報活動にも力を入れ、裾野を全国に広げる必要がある。

推薦入試合格者に対する「入学前オリエンテーション」に関しては、非常に好評であったが、直前になって参加申込者が増えたこともあり、e-Learning 機材の準備や時間配分などで若干の課題も残した。参加者からは「もう少し時間が長くていいのでは？」という前向きな要望もあり、来年度への検討課題としたい。

5. 平成 27 年度に向けての方策

入試制度改革および高大接続の観点から、今年度にひきつづき、以下の課題に取り組んでいく。

第一に、グローバル人材育成推進室と入試広報室の連携を一層強化し、あらゆる入試広報活動の機会をとらえて本学の「グローバル人材プログラム」やグローバル事業全体、および推薦入試制度についてアピールする。すでに取り組んでいることではあるが、①明確でわかりやすいアドミッション・ポリシー、②グローバル人材育成推進事業の全体像が簡単にわかる広報（ターゲットは高校生、教師、保護者）、③平成 26 年度にスタートした新カリキュラムと「グローバル人材プログラム」等の特色の発信、に一層力を入れるとともに、様々な高大連携事業（講演会、模擬授業等）も広報機会として活かしていく。

第二に、全国枠推薦入試に関して、合格者に対する入学後のフォローアップ調査を行う。当該推薦枠による入学者の成績パフォーマンスや学科・専攻での影響力、大学全体へのインパクトなど、その効果を量的、質的に分析していく。また、本推薦制度による応募者がゼロ、または極めて少ない都道府県については、広報ターゲットを検討するなど効果的なアプローチ方法を考える必要がある。

第三に、愛知県が進める「あいち国際戦略プラン」(平成 25 年度～29 年度)の中に位置づけられているグローバル人材育成推進事業(あいちスーパーイングリッシュハブスクール事業等)との連携ないし接続など、様々な高大連携のあり方を検討する。

12. 情報発信

1. 概要

本学の「グローバル人材育成推進事業」に関する情報を広く発信するために、専用のホームページの開設と共にパンフレット等の印刷物を作成した。また、本事業関連会議等に参加し、他大学と取り組みに関する情報交換を行い、本学の取り組みに反映させた。また、大学広報のために大学進学セミナーや高等学校でのガイダンスも実施した。

2. 平成 26 年度の目標

本学の取組を紹介するパンフレット等の印刷物を作成するとともに、多言語学習センター iCoToBa、および「グローバル人材育成推進事業」の HP の内容を充実させる。また、グローバル人材育成推進事業の全国およびブロック会議に積極的に出席し、他大学と取り組みに関する情報交換を行う。その他、各種マスコミに情報を提供する。

3. 平成 26 年度の実績

①ホームページの開設とパンフレットの作成

a) ホームページの運営

平成 25 年 4 月に iCoToBa のホームページを開設し、授業の開講情報、行事予定および報告、各種募集内容など、定期的に最新情報を発信している。iCoToBa スタッフブログでは、外国人教員からのコメントを随時掲載し、Students' Voice では本施設を頻繁に利用する学生に原稿を依頼し、学生の立場に立った情報発信も行っている。今年度の追加機能として、パンフレットや、教員が作成した教材、報告書等をダウンロードできるページを新設した。

グローバル人材育成推進事業のホームページは平成 25 年 12 月に開設した。本事業に関連する行事案内および報告の情報発信をしている。留学、インターネットポートフォリオ、外国語学習支援等、関連するサイトのリンクを貼り、閲覧者が求める情報を的確に提供している。

平成 26 年 8 月にはトップページを改定し、本学や留学先、インターンシップ先で活動する学生の様子がわかる写真とメッセージを掲載した。

グローバル人材育成推進事業ホームページ URL	http://www.for.aichi-pu.ac.jp/global/
iCoToBa ホームページ URL	http://www.for.aichi-pu.ac.jp/icotoba/

b) 広報用印刷物の作成

平成 26 年度に作成したパンフレット等印刷物は以下のとおりである。

[表 12-1 平成 26 年度に作成した広報用印刷物一覧]

タイトル	言語	ページ数
5 things you need to know about Aichi-Nagoya	英語	23
センター試験を課す推薦入試(全国枠)	日本語	1
表:センター試験を課す推薦入試(全国枠) 裏:愛知県立大学外国語学部教育体制について	日本語	2

②グローバル事業に関する講演・発表・広報活動

a) Benesse 進学フェア(平成 26 年 6 月 14 日、於愛知県体育館)

タイトル「グローバル人材プログラム 世界にとびたつ県大生！」

発表者:宮谷敦美(グローバル人材育成推進室 副室長)

b) 経済社会を牽引するグローバル人材育成支援 東日本第 2 ブロック会議

(平成 26 年 7 月 4 日 於お茶の水女子大学)

タイトル「愛知県立大学のグローバル人材育成推進事業における取り組み」

発表者:宮谷敦美(グローバル人材育成推進室 副室長)

c) 夢ナビライブ 2014 (平成 26 年 7 月 22 日、於ポートメッセなごや)

タイトル「異文化コミュニケーションに必要な 3 つのスキル」

発表者:宮谷敦美(グローバル人材育成推進室 副室長)

d) 東洋大学主催「学生の海外体験学習とグローバル人材育成にかかわる研究大会」

(平成 26 年 11 月 22 日 於東洋大学)

パネルディスカッション「グローバル教育と E ポートフォリオーポートフォリオを活用した学習成果分析の実例からー」

タイトル「愛知県立大学のグローバル人材育成推進事業での取り組み:インターネットポートフォリオを活用した教育実践と課題」

発表者:宮谷敦美(グローバル人材育成推進室 副室長)

e) 2014 年度西日本第 1 ブロック共同シンポジウム (平成 26 年 11 月 15 日 於神戸大学)

「大学が育成するグローバル人材とは

~Cultivating Global Leaders: the Contribution of University Education~」

パネルディスカッション 「世界に飛躍するグローバルリーダー」

発表者:山下彩 (ヨーロッパ学科ドイツ語圏専攻 4 年)

- f) Go Global Japan Expo 2014 (平成 26 年 12 月 21 日 於関西学院大学)
「愛知県立大学「グローバル人材プログラム」で目指せ！Think & Act Global」
発表者:宮谷敦美(グローバル人材育成推進室 副室長)

③広報媒体による情報発信

- a) 中日新聞 2014 年 7 月 21 日(月)「ブラジル生徒 県立大訪問」
b) 日本経済新聞 2014 年 11 月 5 日(水)「地元の魅力 小冊子に ESD ユネスコ世界会議」
c) 中日新聞 2014 年 11 月 8 日(土)「外国人向け冊子作成 県大生 ESD 会場で配布」
d) 読売新聞 2014 年 11 月 9 日(日)「ESD 盛り上げ学生一役」

④iCoToBa 訪問者

[表 12-2 平成 26 年度 iCoToBa 訪問者一覧]

月日	所属・氏名	担当
4 月 21 日	愛知淑徳大学 交流文化学部教授 中郷慶氏 ビジネス学部教授 福本明子氏	宮谷敦美 大山守雄
6 月 4 日	お茶ノ水女子大学 グローバル人材育成推進センター 特任教授 宮本恵子氏	宮谷敦美
6 月 6 日	岐阜県立関高等学校 校長 加藤昭二氏 岐阜県教育委員会事務局 学校支援課課長補佐 兼教科教育係長指導主事 石神政幸氏	池田 周 大山守雄
6 月 10 日	名古屋大学総長補佐(総合企画調査担当) 国際開発研究科教授 岡田亜弥氏	岡崎まどか
9 月 24 日	愛知県監査委員事務局 庄瀬高志氏	大山守雄
10 月 30 日	埼玉県立大学 学長 三浦宜彦氏 事務局副局長 清野敦史氏 情報・施設管理担当部長 新井穰氏 総務担当主事 芦沢達也氏	宮谷敦美

4. 平成 26 年度の評価

①効果が表れていること

平成 26 年度も、多様な方法による積極的な情報発信を行なった。特に、本事業に関連する学生の取り組みを積極的に新聞や本学 Web サイトに掲載した。

②改善すべきこと

本学の教職員や学生による成果に関する情報を迅速に収集することができておらず、情報開示までにタイムラグが発生してしまう点については、解決を図る必要がある。

5. 平成 27 年度に向けての方策

来年度からは計画的に海外向けの情報発信を行う。特に、グローバル人材育成推進事業ホームページと、iCoToBa ホームページの英語版の作成を最重要課題として進める。

13. グローバルキャンパスへの取り組み

1. 概要

外国語学部学生の 60%以上が単位認定を伴う留学を経験するという目標を達成すべく、国際交流室を中心として学術交流協定大学の拡充に努めると共に、協定大学からの交換留学生の受け入れ態勢の強化に取り組み、平成 26 年度後期からは「学術交流協定大学留学生対象科目」を新設した。また、平成 25 年度から開設した iCoToBa (多言語学習センター) での授業、および学習相談を 6 名の外国人教員 (iCoToBa 教員) が担当するとともに、教養教育科目の英語科目を担当する 4 名の外国人教員も、学習相談の場として iCoToBa を活用している。

こうした大学の語学教育環境の充実や留学生支援体制の整備に伴い、外国人留学生の受け入れが増加、海外留学に挑む本学学生も増加の一途をたどっており、グローバルキャンパスの展開は加速されつつある。国際交流室における大学間学術協定締結上の語学能力向上、APAIE や NAFSA 等の海外での大学フェアにおける外国語でのプレゼンテーション能力は担当職員の必須課題となっている。また、学内の諸部局においても、新しく導入された経理システム・旅費システム等の利用マニュアルを英語版も準備するなどして、外国人教員が各種事務手続き等をスムーズに行える工夫を意欲的に実施している。

2. 平成 26 年度の目標

- a) 海外からのアクセスを意識した、魅力あるコンテンツの作成を目標として、学生の視点でとらえた自大学紹介の動画を学生自らが撮影し、学生による多言語化プロジェクトを実施する。
- b) 学内施設の表示アイコンを日本語と英語で表記し、留学生や海外からの来学者にわかりやすい案内表示を設置する。
- c) 学内のシステム利用マニュアルを多言語で用意し、外国人教員も各種事務手続きをスムーズに行えるようにすることで、大学の労働環境を向上する。
- d) 事務系職員の英語運用能力の強化をスタッフディベロップメントの課題の一つとして位置付け、TOEIC の目標スコアを 800 点に設定する。
- e) 海外での大学フェアへの参加を職員研修の海外研修の一環とし、英語版の大学案内やグローバル人材育成推進事業に係るパンフレットがどのように活用されているか、また国内外の他大学ではどのような広報活動が行われているかを調査する。

3. 平成 26 年度の実績・評価

① グローバル化に対応する学内体制の整備

平成 25 年度に視察した国際教養大学、立命館アジア太平洋大学、上智大学、南山大学の学内のグローバル化や施設案内の工夫点を参考にし、屋外・屋内の至る所に設置されている学内誘導サインや案内板を一斉に日本語と英語の両方で表記すると共に、建物や学部別に色分けして視認性を高めるよう改修した。学内掲示のユニバーサル化を促進し、施設利用者の利便性を向上させた。

また、新しく導入された経理システム・旅費システム利用マニュアルを日英版で準備し外国人教員に配付するとともに、英語による操作説明会を開催するなどして、外国人教員の各種事務手続き等をスムーズにすることで、教職員の労働環境を向上させた。

② 職員の語学力向上の取り組み

平成 25 年度に引き続き、勤務時間内で語学研修を受講できるよう、iCoToBa に職員が受講できる授業を開設し、1 月の TOEIC 受験をめざして 3 名の職員が受講した。また、職員全員に TOEIC 受験を奨励するとともに、務局長から全職員宛に、英語学習支援 e-Learning「ALC NetAcademy 2」の利用促進が通知され、現在、希望者 73 名にアカウントが配付されている。

③ 職員海外研修

平成 26 年度から職員向け海外研修を導入した。職員にも海外の大学、国際会議、国際シンポジウム等における実地研修の機会を与えることにより、大学全体のグローバル化を推進する。平成 26 年度は 3 月に北京で行われる APAIE に参加する国際交流室スタッフに他部署に所属する 1 名の職員が同行し、国内外の大学がどのようにグローバル化を進めているか、その知識や技術、情報を習得する取り組みを開始した。

④ 海外への情報発信の工夫

主要大学フェア (NAFSA、APAIE) 等にブースを出す際に使用する大学案内を三つ折り型チラシにするなどして、海外への持ち運びに便利なサイズを検討し、シチュエーションに応じた効果的な広報媒体を作成した。

4. 平成 27 年度に向けての方策

グローバル関連や iCoToBa の最新イベント情報、国際交流室で行われる留学関連の情報を英語で発信し、学内で活発に実施されている事業をタイムリーに広く公開していくことに努める。

平成 28 年度には全体の 10%の職員が TOEIC800 点を取得するという目標を達成するために、職員用 TOEIC 講座を引き続き開設すると共に、英語 e-Learning 教材 ALC NetAcademy 2 のさらなる利用を促す。

また、学内の主要文書やメールを日本語と英語で作成して配信するとともに、システムの多言語化を促進し、外国人教員と日本人教員の情報格差を少なくする。同時に各部署におけるグローバル化に関連する問題点を集約し、英語を主としたテンプレートおよびマニュアルを作成する。

14. 資料

14-1. グローバル人材育成推進室運営体制

[グローバル人材育成推進室]

室長	吉池 孝一 (外国語学部長、中国学科)
副室長	中田 晋自 (ヨーロッパ学科フランス語圏専攻)
副室長	宮谷 敦美 (iCoToBa 委員長、国際関係学科)
室員	吉川 雅博 (国際交流室長・キャリア支援室長、社会福祉学科)
室員	久田 由佳子 (英米学科)
室員	小池 康弘 (ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻)
室員	杉原 周治 (ヨーロッパ学科ドイツ語圏専攻)
室員	月田 尚美 (中国学科)
室員	大山 守雄 (iCoToBa)
室員	寺澤 君江 (iCoToBa)
室員	若子 直 (事務部門長)
室員	川島 香織 (学務課長補佐)
事務職員	夏目 美和、水野 淑子、岡崎 まどか 宮部 真奈美 (2014 年 9 月 30 日まで)

[iCoToBa]

専任講師	英語担当	Fern Sakamoto
専任講師	英語担当	Brett Hack
専任講師	フランス語担当	Morgan Dalin
准教授	スペイン語担当	Sergio Neri
准教授	ドイツ語担当	Morten Hunke
専任講師	中国語担当	顧 令儀
准教授	留学アドバイザー	大山 守雄
専任講師	語学学習アドバイザー	寺澤 君江
事務職員	iCoToBa 受付	岡崎まどか(グローバル人材育成推進室)

14-2. グローバル人材育成推進室会議開催一覧

[表 14-1 平成 26 年度グローバル人材育成推進室会議開催一覧]

回	開催日	主たる審議・報告事項
第 1 回	4 月 16 日	グローバル推進室年間事業計画 グローバル人材プログラムについて
第 2 回	5 月 21 日	グローバル人材プログラム修了見込証明書発行 グローバルキャリアセミナーの実施
第 3 回	6 月 25 日	西日本第 1 ブロック共同シンポジウム登壇学生の選出 iCoToBa FD 実施について
第 4 回	7 月 17 日	グローバルミニオープンキャンパス進捗状況 iCoToBa 授業アンケートの実施・集計
第 5 回	8 月 6 日 ～11 日	iCoToBa「グローバル人材プログラム」指定科目について
第 6 回	9 月 11 日	グローバル人材プログラム:情報検索講座 後期グローバル人材プログラムガイダンスの実施について
第 7 回	10 月 16 日	AC ミランサッカースクールイベント ESD リーフレット作成
第 8 回	11 月 13 日	来年度検定試験実施時期について グローバル予算執行状況
第 9 回	12 月 17 日	グローバル人材プログラム受講証明書発行審査結果 修了証・受講証明書後期終了後発行スケジュール 推薦入試合格者入学前オリエンテーション
第 10 回	12 月 24 日	グローバル(iCoToBa)教員再任人事
第 11 回	1 月 21 日	平成 29 年度以降の「グローバル人材プログラム」 平成 27 年度からの海外派遣危機管理保険料の取り扱い
第 12 回	2 月 23 日	グローバル人材プログラム科目成績認定について 外国語到達目標作成について
第 13 回	3 月 18 日	グローバル人材プログラム受講証明書発行審査 平成 27 年度前期「グローバル人材プログラム」指定科目 平成 27 年度開学留学制度(重点政策枠)奨学金の給付方針

14-3. iCoToBa 委員会

[iCoToBa 委員会]

委員長	宮谷 敦美（グローバル人材育成推進室副室長 国際関係学科）
委員	石原 寛（英米学科）
委員	佐藤 久美子（ヨーロッパ学科フランス語圏専攻）
委員	糸魚川 美樹（ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻）
委員	四ツ谷 亮子（ヨーロッパ学科ドイツ語圏専攻）
委員	中西 千香（中国学科）
委員	高橋 慶治（国際関係学科）
委員	大山 守雄（iCoToBa 留学アドバイザー）
委員	寺澤 君江（iCoToBa 学習アドバイザー）
担当事務職員	水野 淑子（グローバル人材育成推進室、2014 年 9 月まで） 岡崎まどか（グローバル人材育成推進室、2014 年 10 月から）

14-4. iCoToBa 委員会開催一覧

[表 14-2 平成 26 年度 iCoToBa 委員会開催一覧]

回	開催日	主要な審議事項
第 1 回	4 月 23 日	iCoToBa 開講科目履修状況、iCoToBa ガイダンス iCoToBa 委員長選出
第 2 回	5 月 7 日	e-Learning ガイダンス iCoToBa における外国語コミュニケーション時間帯
第 3 回	6 月 4 日	JICA との共同ワークショップ iCoToBa サマープログラム、検定試験実施
第 4 回	6 月 19 日	グローバルミニオープンキャンパス、iCoToBaFD
第 5 回	7 月 16 日	職員英語研修受講、後期 iCoToBa 開講授業 平成 26 年度 iCoToBa 年報
第 6 回	8 月 4 日～7 日	平成 26 年度後期開講 iCoToBa 科目の受講申込手順

第 7 回	9 月 30 日	後期 iContact スケジュール 新聞・雑誌バックナンバーの購入 iCoToBa スプリングプログラム
第 8 回	10 月 30 日	e-Learning アカウント配布報告、SA 雇用
第 9 回	12 月 4 日	iCoToBa 授業補講日一覧、授業アンケート実施、 iCoToBa 教材作成
第 10 回	12 月 16 日～19 日 (manaba 会議)	平成 26 年度スプリングプログラム(TOEIC 講座)
第 11 回	1 月 22 日	iCoToBa 行事報告、春季休業中 iCoToBa 開室時間平 成 27 年度 e-Learning の利用促進について
第 12 回	2 月 24 日	平成 27 年度前期 iCoToBa 開講科目 e-Learning 人数について
第 13 回	3 月 30 日	平成 27 年度前期 iCoToBa 時間割 iCoToBa HP 刊行物一覧掲載

総括と次年度に向けて

吉池 孝一

「平成 24 年度～25 年度グローバル人材育成推進事業実績報告」の、堀一郎前室長の「本報告書の発行によせて」に次のようにある。「本学部にとって大規模な文部科学省支援事業は初めての取り組みであり、しかも採択が決定されてから本格始動まで時間的に猶予はなく、その構想の具体化はハイピッチで進めなければならなかった。すべてゼロからの出発であった」。グローバル人材育成推進室を立ち上げ、iCoToBa(多言語学習センター。196.2 平米の専用スペースを持つ)という施設を創り上げ、さらに iCoToBa 委員会を立ち上げてグローバル人材プログラムを推進したわけである。言葉にはならない苦労あったに違いない。またゼロから作り上げる心労とともに創造の喜びもあったのではないかと推察する。いずれにしても、平成 26 年度の事業は、これまでの作業の上に成り立っていることを忘れてはならない。

さて、本事業の助成金継続期間は 5 年(平成 24～28 年)である。5 年という年月の活用はそれほど容易ではない。3 年目の平成 26 年である本年、前人の苦労の上にやっと事業は軌道に乗り始めたわけであるが、折り返し地点でもある。次年度の 27 年度 4 月からは、着地点を考えながら事業を進めることとなる。これをどのように行うか。ゼロから出発する立ち上げの苦労と喜び(?)は確かに大きい。しかしながら、平成 28 年に向けて、これからどのように工夫するか、この苦労と喜びも小さくはないと考えている。工夫の一つに iCoToBa(スペースだけでなく開催する諸行事や語学のプログラムを含めて)がある。現在 iCoToBa は主に外国語学部の学生が利用している。これからは全学部の学生や職員を対象とした事業を積極的に取り込んでいかなければならない。そのほかにも、さまざまなアイデアがあるに違いない。それを出し合いながら、平成 28 年を目指して歩んでいきたいと考えている。

本書の「発刊によせて」に書いたように、外国語学部、国際交流室、国際交流委員会、教養教育センター、教育支援センターなど関係各所との連携は大事である。これからの 2 年は、これまで以上に連携が重要になってくるはずである。関係各所にいっそうのご協力をお願いし、「総括と次年度に向けて」を締めることとしたい。

平成 26 年度
愛知県立大学経済社会の発展を牽引する
グローバル人材育成支援
(旧グローバル人材育成推進事業)
外部評価・実績報告書

平成 27 年 4 月 10 日発行

発行：愛知県立大学グローバル人材育成推進室
〒480-1198 愛知県長久手市茨ヶ廻間 1522 番地 3 E 棟 2 階
TEL：0561-76-8833
E-mail: global@for.aichi-pu.ac.jp
<http://www.for.aichi-pu.ac.jp/global/>